



海が好き 山が好き 逗子が好き

逗子市市制70周年記念誌

Zushi City 70th Anniversary



ごあいさつ

2024年（令和6年）4月15日、逗子市は市制70周年を迎えることができました。逗子市は1954年（昭和29年）4月15日に市制へ移行となり、神奈川県内で9番目の市となりました。現在19市ある中で一番小さな市ではありますが、住宅のまちとして発展を遂げてまいりました。ここまで逗子市が発展し続けていくことができましたのも、市民の皆様をはじめ、逗子市に関係する多くの方々のご理解とご協力があったからこそであります。深く感謝申し上げます。



逗子市の歴史を振り返るうえで、分離独立運動を切り離すことはできません。逗子は戦時中の1943年（昭和18年）に軍の命令により強制的に横須賀市に合併させられた過去があります。しかし、戦後の1948年（昭和23年）7月に地方自治法が改正され、2年後の1950年（昭和25年）7月末までに①有権者の3分の1の署名、②投票で有効投票数の過半数の賛成、③神奈川県議会の賛成決議を満たすことを条件として、戦時中に強制合併された市町村が住民の意思で分離独立できることが定められました。

この分離独立を成立させるため、逗子の青年たちを中心に医師会の協力も得ながら、本格的な運動が始まりました。この時点で期限までは残り9か月でしたが、精力的な運動により、3つの条件を全て満たし、逗子町として横須賀市からの分離独立を実現させました。

こうした先人たちの強い想いや勇気ある行動に敬意と感謝の気持ちを忘れず、逗子市をより良いまちにしていけることが今を生きる私たちの責務であると思います。

10年前に市制60周年を迎えてからこれまでの間で、社会は大きく変化しています。AIやロボット、身近なところではスマートフォンなど、世界では科学技術が飛躍的に進歩し続けています。その一方で、日本では少子高齢化が進み、人口が減り続けているという現実もあり、逗子市も例外ではありません。また、新型コロナウイルス感染症の拡大や、地震や集中豪雨による災害が日本各地で発生した10年でもありました。

こうした様々な社会状況の変化に対応しながらも、これからの逗子市の未来に向けて、「逗子に住みたい」「いつまでも暮らしたい」と思っただけの「選ばれたまち」づくりを、市民の皆様のご理解とご協力を得ながら進めてまいります。

逗子市長 桐ヶ谷 寛

ごあいさつ	1
-------------	---

第1部 70周年記念事業の記録

逗子市市制70周年記念事業一覧	7
逗子市市制70周年記念式典	8
逗子の「まちの記憶」アーカイブ	10
沼間小学校区放課後児童クラブの新築移転 オープン	11
逗子市家庭用指定ごみ袋デザインの募集	12
「逗子にゆかりのある文化人と作品」展	14
逗子ゆかりのおはなし会	15
史跡長柄桜山古墳群第1号墳オープニングセレモニー・整備工事完成記念講演会	16
市制70周年記念 原動機付自転車用オリジナルナンバープレート作成事業	18
こどもの日のつどい 第42回砂の芸術	19
逗子フェアトレードタウン・フォーラム2024～気候危機とフェアトレード～	20
田越川一斉清掃	21
第67回逗子海岸花火大会	22
ずしグリーンライフフェス	24
デザインストリーマー(マンホール蓋)の製作	25
2024ずし平和デー	26
てくtec逗子&みんなの逗子さんぽ	27
認知症講演会と家族のつどい「認知症と共に生きる」	28
アプリで健康ポイントゲットキャンペーン！	29
逗子アートフェスティバル2024	30
スポーツの祭典2024(スポーツ都市宣言40周年&市制70周年記念)	32
第46回逗子市民まつり	34
市制70周年記念講座 ふるさと逗子の歴史を知ろう	35
スマイルハロウィン	36
逗子市立小・中学校 図工・美術作品展	37
ふれあいフェスinずし2024	38
第3回ビブリオバトル	39
令和7年逗子市消防出初式	40
第72回逗子市内一周駅伝競走大会(スポーツ都市宣言40周年&市制70周年記念)	41
二十歳を祝うずしの集い	42
市制70周年記念 景観広報誌「瓦版」から始まる景観づくり	43
消防・防災フェア2025 in 逗子	44
市制70周年 第15回 ツール・ド・逗子2024	45
リーディングシアター ZUSHI×子どもリーディングシアター ワークショップと朗読公演「逗子から生まれた物語」	46
逗子市市制70周年記念 アマチュア無線局(8JIZ)の運用	47
「あなたと私の逗子の文学」展	47
四季を感じる植物たちの寄せ植え	48
第3回 昭和歌謡祭	48

テルミンとフラメンコギターの調べ	49
七夕ファッションショー ～七夕の日に良き想いでを～	49
海の日コンサート 一緒に歌い継ごう 日本の歌と心を ～子どもも大人も共に逗子の自然に思いを重ねて～	50
第12回 コンチェルト・カメラアローズ 逗子市制70周年記念コンサート	50
逗子海岸ビーチバレー大会2024	51
コントラクトブリッジ・ZUSHI CUP ミニブリッジ無料体験教室・ブリッジサロン	51
逗子SDGs絵日記展	52
逗子市制70周年記念 「逗子第九フェスティバル演奏会」	52
みんなで歌おう「逗子ゆかりの歌」「1950年代の歌」	53

第2部 主なできごと2015－2024

主なできごと一覧 2015－2024	57
家庭ごみ処理の有料化とごみ処理広域化の推進	58
安全で快適な海水浴場の運営と逗子海岸の活用	60
地域自治の推進	62
フェアトレードタウン宣言とその取り組み	63
シティプロモーションの取り組み	64
療育教育総合センター、こども発達支援センターオープン	65
病院誘致から地域医療のあり方検討へ	66
神武寺トンネル拡幅工事完了、開通	67
緊急財政対策本部の設置と財政対策プログラムの実施	68
東京オリンピック スペインセーリングチームとの交流	69
新型コロナウイルス対応の経済対策	70
令和元年台風15号、19号による被害	71
頻発する崖崩れとその対応	72
新型コロナウイルス感染症の感染拡大と対応	74
逗子町分離独立70周年と銘板の寄贈	76
山の根踏切の廃止	77
10億円の寄附による給付型奨学金制度の創設	78
チャレンジ！逗子カーボンニュートラル2050	79
逗子市男女平等参画及び多様性を尊重する社会を推進する条例の制定	80
「温かくおいしい給食へ」中学校給食を食缶方式に	81
逗子葉山高等学校の開校	82
小児医療助成制度の拡充・無償化	83
小坪2丁目県有地の活用に向けた検討	84
令和6年能登半島地震の発生とその支援	85
高橋睦郎さん文化勲章受章記念講演会・市民栄誉賞贈呈式	86

第3部 池子米軍家族住宅地区の動き

池子の森自然公園の開園	89
逗葉地域医療センター・逗子市保健センター進入路の返還	91
米海軍イケゴ小学校と逗子小学校の親善交流	92
池子米軍家族住宅地区の主なできごと	93

第4部 年表 2015－2024

年表	99
----	----

第1部

70周年記念事業の記録

70th Anniversary Projects



逗子市市制70周年記念事業一覧

2024年（令和6年）4月～2025年（令和7年）3月

月	事業名	開催日	担当課・主催者
4月	逗子の「まちの記憶」アーカイブ	4/1～	企画課
	沼間小学校区放課後児童クラブの新築移転オープン	4/1	保育課
	逗子市家庭用指定ごみ袋デザインの募集	4/1～	資源循環課
	「逗子にゆかりのある文化人と作品」展	4/10～5/13	図書館
	逗子ゆかりのおはなし会	4/18	図書館
	史跡長柄桜山古墳群第1号墳 オープニングセレモニー・整備工事完成記念講演会	4/20・12/21	社会教育課
	逗子市市制70周年記念式典	4/21	企画課
	逗子市市制70周年記念アマチュア無線局（8J1Z）の運用	4/21～1/31	逗子・葉山アマチュア無線クラブ
5月	「あなたと私の逗子の文学」展	4/26～4/29	逗子の文学を学び広める会
	市制70周年記念 原動機付自転車用オリジナルナンバープレート作成事業	5/1～	課税課
	こどもの日のつどい 第42回砂の芸術	5/5	子育て支援課
	四季を感じる植物たちの寄せ植え	5/16・6/13・7/11・9/12・10/10・11/14・12/12・1/16	アトリエミモザ&ローズ
	逗子フェアトレードタウン・フォーラム2024～気候危機とフェアトレード～	5/18	市民協働課
	田越川一斉清掃	5/25	都市整備課
	第67回逗子海岸花火大会	5/30	経済観光課
	市制70周年 第15回ツール・ド・逗子2024	6/2	歩行者と自転車のまちを考える会
6月	第3回 昭和歌謡祭	6/2	逗子昭和歌謡サロン
	ずしグリーンライフフェス	6/22・6/23	環境都市課
	テルミンとフラメンコギターの調べ	6/23	テルミンミュージアム
7月	デザインストリーマー（マンホール蓋）の製作	7/2～	下水道課
	七夕ファッションショー ～七夕の日に良き想いでを～	7/7	ほほえみドレス
	海の日コンサート 一緒に歌い継ごう 日本の歌と心を ～子どもも大人も共に逗子の自然に思いを重ねて～	7/15	日本の心を歌い継ぐ会
8月	2024ずし平和デー	8/15～8/19	市民協働課
9月	てくtec逗子＆みんなの逗子さんば	9/1～12/24・10/1～2/28	社会福祉課
	認知症講演会と家族のつどい「認知症と共に生きる」	9/15	社会福祉課
	第12回コンチェルト・カメラiarローズ 逗子市制70周年記念コンサート	9/16	コンチェルト・カメラiarローズ
10月	アプリで健康ポイント ゲットキャンペーン！	10/1～1/31	国保健康課
	逗子アートフェスティバル2024	10/5～10/27	文化スポーツ課
	逗子海岸ビーチバレー大会2024	10/6	逗子ロータリークラブ
	コントラクトブリッジ・ZUSHI CUP ミニブリッジ無料体験教室・ブリッジサロン	10/18・10/19	百合の会、Sophiaサロン
	スポーツの祭典（スポーツ都市宣言40周年＆市制70周年記念）	10/20	文化スポーツ課
	第46回逗子市民まつり	10/20	経済観光課
	市制70周年記念講座 ふるさと逗子の歴史を知ろう	10/21・10/28・11/7・11/14	社会教育課
	スマイルハロウィン	10/27	子育て支援課
12月	逗子市立小・中学校 図工・美術作品展	12/5～12/16	学校教育課
	ふれあいフェスinずし2024	12/7	障がい福祉課
	逗子SDGs絵日記展	12/8～12/15	逗子SDGs絵日記実行委員会
	第3回ビブリオバトル	12/21	図書館
	逗子市市制70周年記念 逗子第九フェスティバル演奏会	12/28	逗子第九合唱団
1月	令和7年逗子市消防出初式	1/11	消防総務課
	みんなで歌おう「逗子ゆかりの歌」「1950年代の歌」	1/11	逗子うたごえ楽校
	第72回逗子市内一駅伝競走大会（スポーツ都市宣言40周年＆市制70周年記念）	1/12	文化スポーツ課
	リーディングシアター ZUSHI×子どもリーディングシアター ワークショップと朗読公演「逗子から生まれた物語」	1/12	クリップボード
	二十歳を祝うずしの集い	1/13	子育て支援課
3月	市制70周年記念 景観広報誌「瓦版」から始まる景観づくり	1/23～1/26	まちづくり景観課
	消防・防災フェア2025in逗子	3/2	消防予防課

4/21

逗子市市制70周年記念式典



4月21日(日)、逗子市市制70周年記念式典を文化プラザなぎさホールで開催しました。

会場に彩りを添えたのは、草月流いけばな作家・久保島一裕さんの装花。市内で採れた竹や藤づるがふんだんに用いられた高さ約3mの迫力満点の作品が、来場者の皆さんを出迎えました。



オープニングは、箏奏者・林信子さんと尺八奏者・善養寺恵介さんによる「さくら幻想曲」。式典の始まりにふさわしい、荘厳で華やかな響きが会場いっぱいに響き渡りました。

第1部では、市長が式辞を述べたほか、勾坂市議会議長、黒岩県知事(代理:平田副知事)、など多くのご来賓の方々にご祝辞を賜りました。また、逗子市市制70周年記念キャッチフレーズ「海が好き 山が好き 逗子が好き」の作者・井澤祐貴さんに表彰状を授与しました。



第2部では、市制記念日表彰式として、地域社会功労表彰7名及び自治功労表彰1名が受賞されました。

第3部は広報大使をお招きし、記念トークショーを行いました。初めに、ピアニスト・内門卓也さんの生演奏に合わせて、双子ソプラノデュオ〈山田姉妹〉の山田華さん、山田麗さんが「この街で」を歌唱。お二人の息の合ったハーモニーに会場全体が酔いしれました。続いて、広報大使の石原良純さん、三浦豪太さん、山田姉妹、司会の森川いつみさん、市

長による記念トークショー。「このまちで」をテーマに様々なエピソードを披露いただき、終始笑いの絶えない時間となりました。そして、プログラムの最後には来場者全員で逗子市歌を斉唱し、和やかな雰囲気になりました。

逗子市市制70周年の節目に、これまでの逗子の歩みに思いを馳せ、「海が好き 山が好き 逗子が好き」というキャッチフレーズのもと、それぞれの「ずし愛」を心に描きつつ、逗子の限らない発展を願い、大盛況のうちに幕を閉じました。



4/1～

逗子の「まちの記憶」アーカイブ



逗子の「まちの記憶」として残したい写真を市ホームページやInstagramで募集し、広報ずしや逗子フォトに掲載するという企画です。逗子フォトは、2017年（平成29年）に開設したサイトで、市職員や市民が撮影した写真をデジタル化し公開しています。今は当たり前のようにあるまちなみや逗子ならではのイベントが数年後や数十年後にどう変化していくのか、後世の人々が振り返られるように

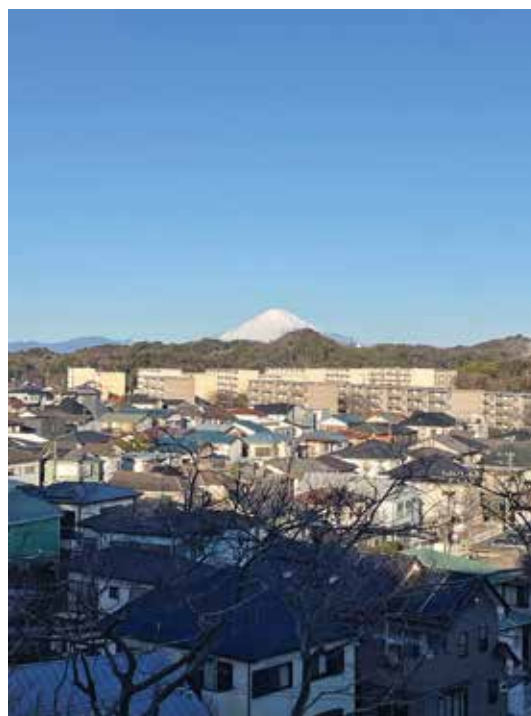
写真として残していきます。

応募された写真は、住宅街から富士山を望むまちなみや、コロナ禍を経て4年ぶりの通常開催となった亀岡八幡宮例大祭など様々です。撮影者の日頃の暮らしやお気に入りのスポットを垣間見ることができます。

逗子フォトの写真は随時募集し掲載しています。ぜひご覧ください。



逗子フォト



4/1

沼間小学校区放課後児童クラブの新築移転オープン



4月1日(月)、沼間小学校区放課後児童クラブが沼間小学校プール跡地に移転し、新しい建物となりました。

建物は、「あそび場」「まなび場」「親子あそびの場」の3つの空間からなる木造建築で、子どもたちが過ごす「あそび場」「まなび場」の扉を開け放つと大きな無柱空間となり、窓からは明るい陽ざしをたくさん取り入れることができます。室内は木材の自然なぬくもりが感じられ、檜の香りに包まれる快適な空間です。建物を建築するための骨組みになる部材は宮崎県産の檜、建築内装材などは神奈川県産の杉を使用し、木の魅力を引き出すシンプルな構造の空間を作り出しています。

この施設は、太陽光発電や蓄電池等の導入により、施設内の使用電力の一部を再生可能エネルギーで賄うとともに、災害時などで停電が起きた際にも、一定時間であれば電気を使うことができます。放課後、家庭と同じように過ごしている子どもたちにとってはとても安心できる空間となりました。また、本市は、2022年(令和4年)1月に「チャレンジ! 逗子カーボンニュートラル2050」を宣言し、脱炭素社会の実現に向けた取組を推進しているところであり、この施設においても、快適な室内環境を実現しながら、建物で消費するエネルギーをゼロにすることを目指した建物という証であるZEB(Net Zero Energy Building)も取

得しています。

6月9日(日)に開催した見学会には、地域の方々など約50人が来場されました。来場者は木材の香りに包まれながら、放課後児童クラブの職員と施設について話をし、今回の建設等の話に耳を傾け、手で床などを触って木材の感触を楽しんでいただきました。

時代が経過するごとに美しさが増すこの建物で、未来を担う逗子子どもたちが成長し、大きく羽ばたいていくことを願います。



4/1～

逗子市家庭用指定ごみ袋デザインの募集

市制70周年を記念し、「燃やすごみ用・不燃ごみ用指定ごみ袋」及び生ごみの分別収集で使用する「生ごみ用指定ごみ袋」に掲載する、標語とイラストを募集しました。

燃やすごみ用・不燃ごみ用指定ごみ袋の標語とイラストは、ごみの減量化・資源化に関するもので、プラスチックごみ削減の観点からレジ袋代わりに使用することも考慮したもの、生ごみ用指定ごみ袋の標語とイラストは、生ごみの減量や生ごみの分別の促進に関するものとして募集し、多くの皆さんに応募をいただきました。「燃やすごみ用・不燃ごみ用指定ごみ袋」は131作品、「生ごみ用指定ごみ袋」は196作品、合計327作品の応募があり、選考委員会にて採用作品を3作品、佳作入賞作品を11作品選びました。

応募者からは、デザインを考えるのが楽しかった、ごみの減量化・資源化を考えるきっかけになったとの声もいただいております、今後も定期的に指定ごみ袋のデザインを募集することで、ごみの減量化・資源化への意識向上と、作品を通して市民の皆さんとの交流を図ってきたいと思います。



燃やすごみ用・不燃ごみ用指定ごみ袋
10リットル袋・20リットル袋新デザイン



生ごみ用指定ごみ袋
3リットル袋



生ごみ用指定ごみ袋
10リットル袋



2月15日(土) 逗子市指定ごみ袋デザイン表彰式

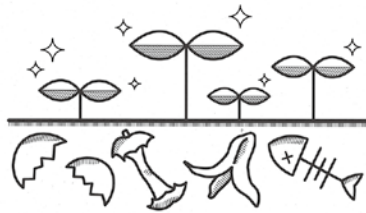
採用作品

(学年は応募当時)

燃やすごみ用・不燃ごみ用
(10ℓ・20ℓ袋)

大久保建志さん

標語：ごみをへらして住みよい街



生ごみ用 (3ℓ袋)

横堀花菜さん

標語：生ごみで豊かな大地に！



生ごみ用 (10ℓ袋)

石井結菜さん (沼間小学校 3年生)

標語：生ごみはごみじゃない

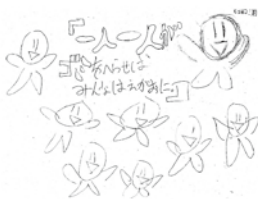
佳作入選作品

(五十音順、学年は応募当時)

燃やすごみ用・不燃ごみ用指定ごみ袋

受賞者 5 名

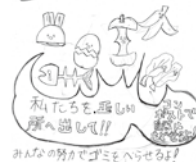
ごみをへらしてくれてありがとうございます！

池末藍さん
(逗子小学校 6 年生)ごみ いろいろ
世界 平和燃やすごみ用・不燃ごみ用
指定ごみ袋沖野天寧さん
(沼間小学校 4 年生)岩崎海輝さん
(小坪小学校 6 年生)菊池一咲さん
(逗子中学校 1 年生)しっかり分別
守ろう 美しい自然
(燃やすごみ用
不燃ごみ用)細目のどかさん
(沼間小学校 5 年生)

生ごみ用指定ごみ袋

受賞者 7 名 (1 作品は合作)

生ごみ用指定ごみ袋

植山千尋さん
(池子小学校 5 年生)食べられず
ごめん 生かすよ
そのいのち

高瀬桜さん



田宮はるかさん

出村哲平さん
(沼間小学校 5 年生)三浦ふみさん /
ティノコ七海さん
(逗子中学校 2 年生)

生ごみ用指定ごみ袋

「食べられなかった」を「食べられる」に。



森重湧太さん

4/10～5/13

「逗子にゆかりのある文化人と作品」展



市制70周年にあたり図書館では、地域の歴史と文化を深く掘り下げ、逗子にゆかりのある文学や文化人を紹介する展示を、4月10日(水)から5月13日(月)までの期間実施しました。

この展示は、徳富蘆花や泉鏡花などの文豪や逗子に住まいのあった芥川賞・直木賞受賞作家の作品、逗子が登場する文学作品、逗子に深い関わりを持った文化人たちの業績を通じて、地域の文化的遺産を再発見し、逗子の歴史的な背景や風土がどのように彼らの創作に影響を与えたのかを探ることができる内容としました。

また、逗子に対する愛着を深める機会となるよう、ゆかりの人々のパネルもあわせて展示し、視覚的にも地元の文学や文化人の作品に触れるきっかけとなるような工夫をしました。

図書館はこれからも逗子の魅力を次世代に伝えるため、貴重な資料を集め、地域文化の発信の場としてさらなる活動を展開していきます。

●逗子が登場する文学

逗子は多くの文学作品に登場しており、その風景や風土、そして歴史的背景が多くの作家に影響を与えてきました。

逗子が舞台となった小説や詩などを紹介し、作品とともに逗子の魅力を感じることができる展示としました。

●逗子の文学

逗子ゆかりの芥川賞・直木賞作家とその作品

逗子は、石原慎太郎や堀田善衛、なかにし礼をはじめとした芥川賞や直木賞の受賞作家もゆかりがあり、その作品には逗子という地がもたらした独自の影響が見受けられます。

彼らが手がけた代表作を紹介し、作家たちの創作の背景を知ること、作品の深みや魅力を再発見できるような展示としました。

●逗子ゆかりの文化人とその作品

逗子は文学だけでなく、画家や映画監督、写真家など多くの文化人を育ててきた土地でもあります。

さまざまな分野で活躍した文化人たちの作品を展示することで、彼らがどのようにこの逗子を愛し、表現してきたのかを知ることができる場としました。



4/18

逗子ゆかりのおはなし会



図書館では、市制70周年記念おはなし会を開催しました。

2～3歳児を対象とした「おひざにだっこのおはなし会」では、逗子にゆかりのある作家の作品を中心に読み聞かせを行いました。こんなに著名な作家が逗子にゆかりがあるということを知らなかったと感想を述べられる方もいました。

同時期に図書館1階で「逗子にゆかりのある作家のおはなしを読んでみよう！」という児童向けの展示を行っていたため、本を借りて帰

る親子も見受けられました。

4～5歳児を対象とした「わんぱくおはなし会」では、逗子に古くから伝わるいたずら好きなかっぱの昔ばなし『かっぱまつ』の紙芝居や、逗子市手づくり絵本コンクール出品作品で逗子市立図書館が舞台となっている『きーすけ ちゃらまる としょかんへいく』、またその本に登場する絵本の読み聞かせをしました。

図書館では、逗子にゆかりのある作家の作品や、地元に古くから伝わる資料を収集・整理し市民の皆さんに提供しています。これからはおはなし会や展示を通じて、これらを後世に伝えていくよう努めていきます。



当日のプログラム

◎おひざにだっこのおはなし会 日時：4月18日(木) 10:30～11:00

1. 詩『のはらうた 4』より くどうなおことのはらみんな／作 童話屋
2. 絵本『つかんでぱっくん』わかやましずこ／さく 童心社
3. 絵本『えんそくバス』中川ひろたか／文 村上康成／絵 童心社
4. 手あそび ♪ちいさなはたけ
5. 絵本『くいしんぼうさぎ』せなけいこ／作・絵 ポプラ社

◎わんぱくおはなし会 日時：4月18日(木) 15:30～16:10

1. 紙芝居『かっぱまつ』牛越夢奈／脚本・画 逗子市立図書館
2. 絵本『くまのコールテンくん』ドン＝フリーマン／さく まつおかきょうこ／やく 偕成社
3. 手あそび ♪おてらのおしょうさんが
4. 絵本『11ぴきのねこ ふくろのなか』馬場のぼる／著 こぐま社
5. 絵本『きーすけ ちゃらまる としょかんへいく』えざきれいこ／作

4/20・12/21

史跡長柄桜山古墳群第1号墳 オープニングセレモニー・整備工事完成記念講演会



2014年度（平成26年度）から葉山町と協力して進めてきた史跡長柄桜山古墳群第1号墳の整備が、10年余の歳月を経て、2024年度（令和6年度）に終了しました。

整備基本計画で掲げた「周囲の豊かな自然環境との調和を図りながら、人々が学び、集い、安らぎ憩う場として愛着がもてるように整備する」という基本理念のもと、墳丘全体に土を盛り、斜面にコグマササを植えて古墳を保護するとともに、墳丘周囲には園路を敷設。斜面2個所に階段を取り付けて墳丘に上れるようにし、後円部には棺が埋まっている場所を表示したほか、出土した埴輪のレプリカや説明板を設置しました。また、周囲の樹木を適宜伐採・枝下ろししたことにより、墳頂から相模湾に浮かぶ江ノ島、富士山が一望できるようになり、眺望絶好の地に造られた県内最大級（全長91.3m）の前方後円墳の壮大な姿を、からだ全体で感じることができます。

4月20日（土）、市民町民を中心に約180名の方々に第1号墳現地へお集まりいただき、盛大にオープニングセレモニーを開催しました。当日は好天にも恵まれ、市長・町長によるあいさつ及び、地元選出の国会・県会議員や関係行政機関、地元住民代表など来賓の方々によるテープカットの後、墳丘に上って担当職員の解説を聞くなど、待ちに待ったオープンを皆さんで祝いました。



また、12月21日（土）には、逗子文化プラザなぎさホールで、逗子市制70周年・葉山町制100周年、第1号墳整備工事完成記念講演会「史跡整備で甦る長柄桜山古墳群の時代～埴輪と水上交通が語る古代社会～」を開催しました。当日は市町内ばかりでなく遠く県外からも含めて410名もの方々がお集まりの中、3人の講師にご講演いただきました。

最初に登壇した北條芳隆さん（東海大学文学部教授）は、長柄桜山古墳群の被葬者は4世紀後半に相模湾と東京湾をショートカットで結ぶ東西交通の要衝となったこの地を掌握した「市の司^{いちづかさ}」（交易の管理者）であった可能性を指摘しました。

次いで、田中裕さん（茨城大学人文社会学部教授）は、長柄桜山古墳群は単なる墓ではなく、西から相模湾沿岸を航行してきた船に対して、この地に運搬と交易を保証する権力者が存在

することを示す標識的記念物としての意味をもつと説かれました。

最後に、白井久美子さん（房総のむら風土記の丘資料館主任上席研究員）は、『古事記』や『日本書紀』に記されたヤマトタケル東征伝承との関連に触れつつ、古墳時代前期後半になって相模





川流域から三浦半島側に拠点を移した相模湾圏の首長墓が長柄桜山古墳群であり、ヤマト王権一行の水先案内などの便宜を図る役割を果たした人物が被葬者ではないかとされました。

休憩をはさんだ後に行われたパネルディスカッションでは、三浦半島の付け根にあたるこの地に巨大古墳が造られた歴史的意義やその背景について議論が行われ、記念講演会は盛会のうちに無事終了しました。

1999年（平成11年）の故東家洋之助さんとうやによる発見から25年、古墳パトロールや長柄・桜山古墳をまもる会を中心に、多くの市民町民のご理解・ご協力をいただくことでようやく整備が完了した第1号墳。今後は、適切な維持管理と活用を通じて貴重な史跡を末永くまもり伝えとともに、郷土の歴史を学ぶフィールドとしてばかりでなく、魅力ある地域の宝として積極的に情報を発信していきます。



5/1～

市制70周年記念 原動機付自転車用 オリジナルナンバープレート作成事業



逗子市の魅力を市内外に伝えるとともに、市に愛着や親しみを持っていただくため、オリジナルナンバープレートを作成しました。

5月1日(水)から31日(金)まで図案を公募し、市内外から95点の応募があり、職員34人による予備審査により候補図案を5点選出しました。

予備審査で選ばれた図案について8月15日(木)から9月5日(木)まで市のホームページ

及び市庁舎課税課窓口に設置した投票箱により、一般投票を行いました。

一般投票の結果、投票総数1,490票うち616票を獲得した市内在住の小水ひろみさんの図案が最優秀賞に選ばれました。

11月8日(金)に表彰式を行い、オリジナルナンバープレートを発表し、12月16日(月)から交付を開始しました。



第1位 最優秀賞(採用) 小水ひろみさん



小水さんのコメント

逗子海岸は、富士山と江の島がとても綺麗に見え、また湾になっているので波も穏やかでウインドサーフィンやSUPなども出来る唯一無二の存在だと思うので、それを表現できるようにデザインしました。



第2位 優秀賞 古屋右琳さん



第3位 優秀賞 天野穂積さん

こどもの日のつどい 第42回砂の芸術



こどもの日のつどい第42回砂の芸術は、逗子市主催、逗子市青少年指導員連絡協議会主管で5月5日(日祝)に逗子海岸にて行われ、計24チームが工夫を凝らした砂像を作成しました。

当日は、市制70周年記念に相応しく、快晴で風も心地よく、絶好のイベント日和で、この時期としては気温も高く、一足早く夏を感じられるような一日でした。

逗子市青少年指導員連絡協議会会長の挨拶のもと制作がスタートしました。開始直後は、作品の制作が進まないチームもありましたが、時間が経つにつれ徐々に各チームの作品ができあがりました。制作終了後は鑑賞と投票を行い、各チームが全体の作品からお気に入りを選び、投票結果をもとに表彰式を行いました。

表彰式では、「砂の芸術大賞」をはじめ、「市長賞」、「教育長賞」、「努力賞」、「ファミリー賞」など多くの賞を設けて、発表時には大いに盛り上がりました。

子どもから大人までが逗子海岸で一生懸命砂像を作成し、逗子らしさを象徴するような1日となりました。



5/18

逗子フェアトレードタウン・フォーラム2024 ～気候危機とフェアトレード～



5月18日(土)、市制70周年の一環として「逗子フェアトレードタウン・フォーラム2024」を逗子フェアトレードタウンの会と逗子市が協働で開催しました。

フェアトレードはSDGs17項目のすべてに関わる取り組みです。

逗子フェアトレードタウン・フォーラム2024のテーマは、「気候危機とフェアトレード」。気候危機と世界の貧困、紛争はつながっています。

市民交流センターを会場にさまざまなイベントを開催し、子どもたちを含め約130名の参加がありました。

第1部では、参加者が不要になったものを再利用して楽しいモノ(アロマ、エコたわし、エコバック、筆箱、春のリースなど)を作るワークショップを親子で楽しみながら、今自分たちにできることを学びました。

第2部のコースフォーラムでは、多くの高



校生や大学生が参加し、気候危機とフェアトレードについて語り合いました。未来を語るタイムアタック(3分間スピーチ)やソーシャルアクション(学校で取り組んでいる活動の紹介)、みんなでトーク(Z世代と考える気候危機とフェアトレード)など、未来を担う学生たちが気候変動やフェアトレードについて熱く語り合いました。進行も逗子フェアトレード・ユースのメンバーが行いました。

第3部の映画&トークでは、気候危機は自然災害を引き起こし、貧困や飢餓を増大させ、紛争と難民を生み出していることについて映画を通して学び、高橋英恵さん(国際環境NGO FoE Japan)の講演では、気候危機を「自分ごと」としてとらえ、自分たちができることを考えました。

参加者は会場内のマルシェで、フェアトレードのチョコレートやコーヒー、バングラデシュの手工芸品などの買い物を楽しみました。



《懸垂幕の掲揚》

懸垂幕「世界とつながる平和都市 フェアトレードタウン 逗子」を、市役所正面玄関左側に5月9日(木)から31日(金)まで掲揚しました。



5/25

田越川一斉清掃



田越川は、豊かな山の命を海まで運ぶ逗子市の象徴的な川で、市を横断するように流れ、鳥や魚、昆虫など多くの生物がすみ、豊かで貴重な自然を守っています。また、川の水生動物の再生を促し、多様な命を育む川として、山、川、海の自然のサイクルを取り戻し、市民が安らげる、憩いの場としての役割も担っています。

その様な場で、河川清掃のボランティア活動の一つとして田越川一斉清掃があります。

2008年(平成20年)の当初は、河川アダプトで登録されているボランティア団体から有志活動としてスタートし、2012年(平成24年)から田越川・久木川一斉清掃実行委員会が主催で活動しています。今年で17回目となる田越川一斉清掃は、市制70周年記念の冠事業として参加者を募り、企業や団体、神奈川県や米軍、学生など多くの方々が参加されました。今年は274名が参加し、870kgのごみが回収されました。2014年(平成26年)に722名が参加したときは、1,700kgものごみが回収され、中には不法に投棄された自転車や大型ごみもありましたが、ここ最近はいくつかの活動の成果もあり、回収されるごみの量も減少してきています。また、昨今の海では、海洋プラスチックごみの影響が問題となっており、その発生源の一つが河川から流れてきているとも言われています。このような身近な場所での活動により、河川だけでなく海も含んだ自然環境の改善に繋がります。参加した方からは、田越川を含む地域に対しより一層愛着を持つことができたとの声もありました。

この活動を続けていただいている田越川・久木川一斉清掃実行委員会に感謝しつつ、市民や企業、米軍や学生などの皆さまと共に、引き続き取り組んでまいります。



5/30

第67回逗子海岸花火大会



音楽と花火が織りなす超エキサイティングなコロワイドドリーム花火

5月30日(木)、第67回逗子海岸花火大会が開催され、19:30～20:15の45分間で約7,000発の盛大な花火が初夏の夜空を彩りました。逗子市観光協会が資金調達と企画運営を、逗子市が安全警備対策を担って共催し、逗子海岸花火大会実行委員会をはじめとした多くの方々のボランティアと寄附募金の協力支援、株式会社コロワイドによる特別協賛をいただき、開催することができました。当日は台風

の影響により打ち上げ台船の到着が危ぶまれましたが、関係者の皆さまの尽力もあり予定どおり開催でき、逗子海岸を中心に約10万人の観客でにぎわいました。

逗子海岸花火大会は、1958年(昭和33年)から続く歴史ある大会ですが、2018年(平成30年)には、市の緊急財政対策により一時開催が危ぶまれました。そのような中、子どもたちに花火を見せてあげたい、市最大のシティプロモーションである花火大会を継続したいといった地域からの想いが集まり、市内観光商工関係者を中心に逗子海岸花火大会実行委員会が初めて立ち上がりました。以降、実行委員会を中心に、観光協会や市と協働して協賛席の設置など開催資金集めの工夫を凝らし、多くの方々に協力支援していただくことで、資金難を理由に中止に至ることなく、継続して開催することができています。

しかしながら、物価高騰等の影響により開



4月8日、プレス発表会に臨む花火大会実行委員会

催費用は年々上昇しており、全国各地で花火大会の開催が断念されるなど、引き続き厳しい状況が続いています。今回も、特別協賛企業や市内外の事業者206者からの協賛、街中191店舗での募金箱等を通しての市民からの寄附募金、工夫を凝らした協賛席の増設など、まちぐるみで資金集めに奔走し、開催にこぎつけることができました。また、大勢の観客が逗子海岸に一齐に訪れる花火大会では、安全を確保するため、委託警備員と市職員を中心とした656人体制の自主警備活動に加え、逗子警察署や各交通機関、逗子市交通安全協会、逗子市消防団、海上保安庁、マリナー関係者等、35団体の協力を得て、連携を密にして対策を講じました。こうしてまちが一丸となることで、大きな事故もなく、市制70周年にふさわしい特別な花火大会となりました。



安全確保のための警備合同会議。23団体が出席した



花火や資機材が積み込まれた花火打ち上げ台船。
当日朝、葉山港にて



当日、打ち上げ前の観客で埋まる砂浜



協賛エリアの入り口で運営に携わるボランティアの皆さん



今回初設置のカメラマン協賛席より撮影

6/22・6/23

ずしグリーンライフフェス



6月22日(土)、23日(日)に「ずしグリーンライフフェス2024」が開催されました。「ずしグリーンライフフェス」は2022年(令和4年)に「ずし環境フェスティバル」から生まれ変わり、「持続可能な未来のためのやさしい暮らし」をテーマに、ずしグリーンライフフェス実行委員会が主催し、市、市民、事業者が一体となって、環境問題・福祉・防災に係る展示、講演、ワークショップ等を実施し、環境問題に係る意識啓発を図るものです。

今回の目玉企画である「グリーンライフユースシンポジウム」は、ずしグリーンライフフェス2024のテーマである「つながる・つなげる」を掲げ、逗子開成環境プロジェクトチームMOANAを中心としたグリーンライフユースシンポジウム実行委員会が企画・運営を行いました。環境や防災その他多くの方面で活動を行っている学生ボランティアが活動紹介やグ



ループディスカッションを行い、持続可能な社会の実現のため、将来の逗子のまちの姿を全員で考えました。最後にはシンガーソングライターのNAOYUKIさんと一緒に「逗子海岸」を歌い、会場全体が一つとなりました。

その他にも、自然や環境について遊んで学べる企画があり、マイクロプラスチック・自然素材(竹や葦など)・古布・新聞紙などを使ったワークショップ、太陽光や手動で発電した電気で電車を動かすエネルギー実験、今年初の試みであるみんなの願いを緑葉に込めて、枯れ木を緑生い茂る大樹へ育てる参加型企画「グリーンライフツリー」、スタンプラリーなど、親子で参加し、楽しんでいる姿が印象的でした。

さらに、市民交流センターのフェスティバルパークにはキッチンカーが出店し、必要となる電気をEVカーシェアリングで使用している電気自動車から給電することで、EVカーシェアリング事業や災害時の非常用電源としての活用について、市民の皆さまに知っていただく貴重な機会になりました。



7/2～

デザインストリーマー(マンホール蓋)の製作



市制70周年を記念し、逗子市制70周年記念ロゴマークを施したデザインストリーマー(マンホール蓋)を製作しました。

マンホールは普段あまり注目されることはありませんが、衛生的で快適な生活を送るためには欠かせない下水道について、多くの人に知ってもらうため、逗子文化プラザホール前の歩道に設置しました。

市制70周年以降も、引き続き設置されますので、歩行者などに注意しながら、ぜひ探してみてください。

また、逗子市内には他にもデザインマンホールが設置されていることはご存じでしょうか。逗子海岸に設置されている「太陽と季節の記念碑」やウィンドサーフィン、富士山がデザインされたカラーマンホールや市の木であるツバキや波のような流線形の模様が施されたマンホールなど様々なデザインマンホールが設置されています。今後も逗子市の下水道及び下水道事業全体について理解促進に努めてまいりますので、少しでも足元に目を向けていただけると嬉しいです。



8/15～8/19

2024ずし平和デー



8月15日（木）から19日（月）に「2024ずし平和デー」を開催しました。

ずし平和デーは、「戦争の悲惨さ」「平和の大切さ」「いのちの尊さ」を子どもたちに伝えていくためのイベントで、2011年（平成23年）からはじまり14年目を迎えました。非核平和などの活動をしている市民団体が様々な企画を持ち寄り、ずし平和デー実行委員会と市の共催で開催しています。今年は期間中に原爆と人間展、コンサート、親子映画会、朗読など様々なイベントを行いました。

初日には市制70周年記念として、ずし平和デー開会セレモニーを行いました。

平和をテーマとした絵画作品とメッセージを募集し、それをセレモニーの中で発表しました。応募されたメッセージを取り入れた平和ソング「平和って何だろう」が実行委員メンバーにより作曲され、絵画作品とともにお披露目されました。

ゲストには絵本・紙芝居作家の長野ヒデ子さんをお招きし、「アイスのかえるけど平和は買えない!」をテーマに、日常の幸せを奪う



戦争の悲惨さや苦しさをお話いただきました。「おひさまにこにこ」などの紙芝居4作品の上演もあり、会場が笑顔に包まれました。

戦後79年が経過し、当時を知る人が少なくなっていく中、どのようにして次の世代に平和への想いをつないでいくかが大きな課題です。ずし平和デーではこれからも市民団体と力を合わせて平和への取り組みを続けていきます。



9/1~12/24・10/1~2/28

てくtec逗子&みんなの逗子さんぽ



人生100年時代を迎え、逗子市は2019年度（令和元年度）に、住み慣れた地域でいつまでも健康で暮らすためには、元気に歳を重ねることが大切であるとして、健康寿命延伸のための取り組み「元気な高齢者を増やそう！プロジェクト（現・健康寿命を延ばしてみんなで元気な高齢者をめざす取組）」を立ち上げ、「健康管理」「食事」「運動」「口腔ケア」「社会参加」の5本を組み組みの柱として、子どもから高齢者まで、みんなが健康的に年齢を重ねられるように取り組んできました。

取り組みを進める中、2019年（令和元年）12月から新型コロナウイルス感染症の爆発的な流行により、感染防止のため市民の皆さんも、様々な活動の自粛を余儀なくされました。

自粛期間中、特に高齢者の方の体力低下が懸念されたことから、一人でも続けられる健康増進の手法として「歩行」に注目し、2021年度（令和3年度）から65歳以上の方を対象として「てくtec逗子」を実施しました。

2021年度（令和3年度）の事業開始から今年度まで、500余名の方が歩数計（2023年度（令和5年度）からは、スマートフォンアプリ「マイME-BYOカルテ」による参加も可）を身に付けて、参加前と比較して日に1,500歩多く歩くことを目指し参加していただきました。

今年度は、市制70周年記念、また事業の集大成として、継続の意欲を高める市内の史跡ツアーや池子の森の散策ツアー等のオプションツアーをこれまで以上に充実して実施。

12月末には事業終了後の体組成計による体組成のデータ計測を行い、4か月前に実施した事業開始前の体組成



池子の森散策ツアー

計データの結果と比較して、向上した数値に大変喜んでいらっしゃいました。こうした、4年間に渡る事業の成果は貴重なデータとして、逗子市の健康寿命延伸の取り組みに活用していきます。

また、「てくtec逗子」に象徴されるように、逗子市民の皆さんは積極的に歩いているようで、ジオテクノロジーズ社（東京都文京区）が東京大学空間情報科学研究センターと実施した人流データ活用の共同研究の結果によると、「よく歩く街ランキング」において、1都2県184市区の中で逗子市が1位となりました。

このご縁から、老若男女を問わずさらに多くの方楽しく歩いてもらうため、ジオテクノロジーズ社のスマートフォンアプリ「みんなぽ」を活用した逗子市制70周年記念キャンペーン「みんなの逗子さんぽ」を実施しました。

このアプリは、歩数がポイントとなって、取得したポイントが各種デジタルポイント等と交換できるだけでなく、家族や友人などとグループを組んで参加するとグループ内でポイント共有できます。コロナが沈静化し、ようやく以前のように自由に人との交流ができるようになった今、人と人との新たなコミュニケーションツールとしても大きく期待できる取り組みです。

人生100年時代、健康寿命を全うできるように、市制70周年記念事業として参加していただいた「歩行」の取り組みを、これから個々人として続けていただくことを切に願っています。



9/15

認知症講演会と家族のつどい 「認知症と共に生きる」



9月15日(土)、市民交流センター会議室で、認知症講演会と家族のつどい「認知症と共に生きる」を実施しました。第1部は、医師の杉山孝博さんを囲んでの認知症介護者の交流会。認知症の家族を介護する人の「本人が外出しようとしなない」「薬を飲み忘れてしまう」などの悩みに対し、介護経験者からは、「外出できるような関わりや環境づくりをすることが大切。」との話がありました。杉山医師は、本人の持っている能力を大切にし、足りない部分の支援をするとよい、とアドバイス。参加者からは、経験談や杉山医師からのアドバイスを聴くことができ非常に参考になったとの感想が述べられました。

第2部は、杉山医師による「認知症の理解と援助」についての講演。はじめに杉山医師監修の「認知症と向き合う」のDVDを上映し、認知症の人との関わり方について理解を深めました。続いて、杉山医師から認知症を理解するための9大法則1原則、認知症の人の激しい言動を理解するための3原則についてお話いただきました。9大法則のうち、感情残像の法則は、言ったり聞いたりしたことはすぐ忘れるが感情は残るため、周りは感情を共感する、事実でなくても認める、時には上手に演技をして対応することも必要であること。また、こだわりの法則については、一つのこと

にいつまでもこだわり続ける傾向にある場合、説得したり否定したりするとこだわりが強くなってしまいますので、こだわりの原因を見つけて対応するなど本人が安心できるようにすることが大切であるとの話がありました。講演後は、杉山医師に個別に質問や相談する時間が設けられました。現在も年間200人以上の患者を診療している杉山医師から、現場の声も交えた具体的な話を聴くことができ、参加者にとって大変有意義なものとなりました。



10/1～1/31

アプリで健康ポイント ゲットキャンペーン！

18歳以上の市民を対象に、神奈川県が作成したスマートフォン用アプリケーション『マイME-BYOカルテ』を活用した健康増進キャンペーンを開催しました。

参加者は自身のスマートフォンにアプリケーションをインストール（「ゲット」）し、実施期間中の歩数（自動計測）や血圧・体重などの測定値を記録することでポイントをゲット。一定ポイントに達した人の中から抽選で豪華賞品をゲット。キャンペーンに参加しながら健康的な習慣がゲットできてしまう、という企画で好評をいただいています。

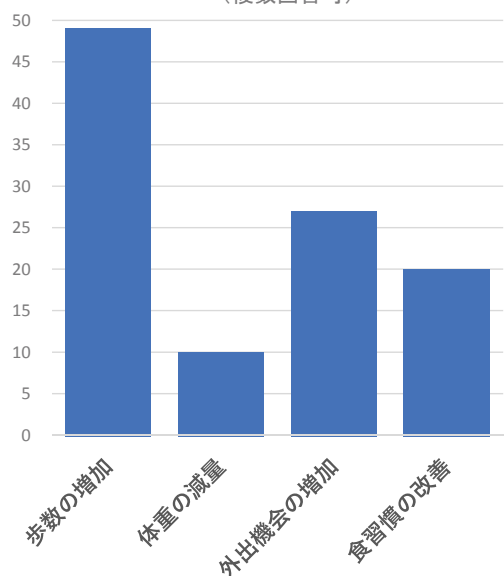
第1回は2021年度（令和3年度）に開催し、167人が参加。以来、第2回（2022年度（令和4年度））241人、第3回（2023年度（令和5年度））268人、と参加者が増加し続け、健康増進事業の柱として成長してきました。第4回となる今年度は、市制70周年記念事業として市にちなんだものを賞品にラインナップ（逗子海岸SUP体験ペアチケット、小坪産天然わかめなど）。その結果、参加者が過去最多の297人となりました。

本キャンペーンを始めたきっかけは、コロナ禍で外出や対面での健康教室、健康相談などが自粛せざるを得ず、市民の健康状態の悪化が懸念されていたこと。また、以前から生活習慣病予防を意識してもらいたい30～50代へのアプローチが課題として挙がっていたことから、そうした世代が「欲しい」と思える賞品をそろえ、非対面で参加・完結できる事業として始めました。今年度、本キャンペーンに参加した30～50代は、175人で、参加者全体の58.9%でした。実施後のアンケートでは、過去3年間の回答者の90.5%が「日頃の運動などの健康を意識する機会になったと思う」（そう思う・まあそう思う）と答えました。

今後も市民の健康増進を進め、より楽しく健康的な生活が送れるような事業を展開したいと考えています。

令和6年度アンケート結果

参加してどのような変化がありましたか
（複数回答可）



10/5～10/27

逗子アートフェスティバル2024



市民と市の協働で開催している「逗子アートフェスティバル2024」(以下ZAF2024)。2013年(平成25年)から始まり、第12回を迎える今年は、10月5日(土)から10月27日(日)まで、市民による逗子アートフェスティバル実行委員会が主催し、同じく市民が主体の逗子アートネットワークが企画・運営をし、逗子市、逗子市教育委員会をはじめ様々な団体の共催・協力によって開催されました。

参加者(推定): 逗子アートフェスティバル2024, 企画数25企画、来場者合計7343人

○オープニングイベント「池子の森の音楽祭」内

日時: 10/5(土) 10/6(日)

場所: 池子の森自然公園400mトラック

内容: 逗子に縁のあるミュージシャンによる演奏に加え、「踊って、食べて、寝そべって」が実現する、家族連れも多く参加する野外音楽祭。地域の魅力が詰まったマーケットやワークショップなど、あらゆる世代が楽しめるコンテンツが満載でした。



○余白露光(テルミンミュージアム)

旧逗子高等学校の武道場という広い空間に、市内の学校の美術部生徒(逗子葉山高等学校、聖和学院中学校・高等学校)との共同製作の切り絵を含めて立体的に作品を配置し、逗子市の風景をつなげた映像を投影。日替わりで専門家によるテルミンの演奏や、最終日には、テルミンと民族楽器(ディジュリドゥ他)のライブを行いました。



○みんなでアート

逗子文化プラザさざなみホールで開催した今年で6年目の「みんなでアート」は、障がいがあっても高齢でも大人でも子どもでもアートを通じて自然に混ざり合い、一緒に楽しむインクルーシブなイベントとなりました。



○沼間路地展

沼間エリアに企画を固め、アートを通して逗子への移住促進を図る空き家&アートツアーや、逗子開成高等学校写真部有志が行う写真展、古民家を活用したギャラリーでの絵画・陶芸・木工の3人の作家による日々の暮らしに大切なものをテーマにした展示を行いました。



○竹の地産地消プロジェクト2024

小坪の大矢戸会館裏の竹林で大型作品の公開制作と屋外展示を実施。前段として池子の森の音楽祭でも大型作品展示&ウインドチャイムと光る笛の竹のワークショップ等を開催しました。地域資源として竹の有用性と美的な可能性を広げた展示となりました。



○ファミリーペイントフェスタ

逗子文化プラザホール市民交流センターフェスティバルパークで開催されたファミリーペイントフェスタは、家族で楽しめるアートとグルメのフェスティバル。子どもと一緒に、10mの大きな紙に絵の具を使って自由にペイントアートを楽しみました。会場内にはグルメ&ピクニックエリアも設置しました。



○ラップで、ココロカロルクfrom逗子

参加者が精神科医ラッパーから教わりながら自分のラップを作るワークショップと、ライブパフォーマンスの2部構成。現役ラッパーや地元アーティストの参加や、市長が出したお題を基にしたラップの披露もあり、笑顔あふれるイベントとなりました。



○自由企画

逗子市内在住、在勤、在学の方を対象として募集し、文化・アート活動の発表の場として集まった「自由企画」は全8企画。それぞれが市民生活に即した企画で、アートフェスティバルらしい盛り上がりには花を添えました。

10/20

スポーツの祭典2024

(スポーツ都市宣言40周年&市制70周年記念)



10月20日(日)、子どもや高齢者、障がいのある人も、誰もが気軽にスポーツを楽しむことができるイベントとして、逗子市スポーツの祭典を逗子アリーナ及び第一運動公園で開催しました。

当日は素晴らしい秋空の下、延べ2574人が参加しました。

<主な実施メニュー>

元プロサッカー選手永里源気さんのサッカー教室 10:10～12:20

元プロサッカー選手永里源気さんをお招きし、サッカー教室を開催。

プロサッカー選手の姿が間近で見られ、かつ直接指導も受けられたことで、参加した子どもたちも大喜びでした。



大谷翔平選手寄贈グローブによる キャッチボール

10:10～12:30

大谷翔平選手から寄贈されたグローブを使用したキャッチボールを開催。

横浜DeNAベイスターズOB、逗子シニア出身の加賀美希昇さんを講師として一緒にキャッチボールをしました。



みんなでラン&ウォーク

10:30～12:00

13:00～14:30

障がいの有無や種類に問わず目が見えにくいなどのために単独歩行・単独走が困難な人も一緒に楽しく歩いたり走ったりします。伴走伴歩が初めての方でも、講習会があるので安心して参加できました。

e-スポーツ「太鼓の達人」

10:00～12:30

e-スポーツ「太鼓の達人」では、認知機能の維持向上が期待されます。

音楽や画面に合わせて太鼓をたたいて、心も体もスッキリしました。



じゃんぷ・じゃんぷ・じゃんぷ

13:00～15:00

長縄の8の字跳びを、2分間で跳べた回数を競います。

参加した子どもたち全員で声掛けをしたり、みんなで跳んだ回数を数えたりしてにぎやかに盛り上がりました。

健康麻雀

10:00～12:00

13:00～15:00

常に変わり続ける状況で適切な選択をする必要がある人気頭脳ゲーム。指先を使うことで脳を活性化させる効果もあります。初心者用の体験コーナーもあり、楽しく健康麻雀に挑戦できました。

ピックルボール**10:00～11:30****13:00～15:00**

発祥の地アメリカでは、テニス人口を超えるほど大人気の球技スポーツ。

誰でも簡単にラリーできるので、みんなで楽しむことができました。

**毎日の体調管理相談会****10:00～15:00**

大塚製薬株式会社の方をお招きし、高齢者のフレイル予防のチェックや、毎日の体調管理、免疫向上の相談会を実施しました。

自分の体の状態と向き合う機会になりました。

赤ちゃんハイハイレース**13:00～14:00**

赤ちゃんがハイハイしてゴールを目指します。

見ている大人も赤ちゃんのかわいさに癒されました。

**幼児パカポコレース****14:00～15:00**

逆さにした紐付きカップに片足ずつ乗せ、手足を上手に動かしてパカポコ歩きます。

子どもたちは元気にパカポコ走って楽しそうでした。

スポーツの祭典2024連動企画 野球教室**12月1日(日) 10:00～12:00**

スポーツの祭典2024の連動企画として野球教室を開催しました。

横浜DeNAベイスターズのOB清水 宏悦内野手、齊藤 明雄投手、横谷 彰将外野手、竹下 浩二投手を講師として投球、守備、打撃について指導していただき、子どもたちも大喜びでした。

**3033運動キャンペーンブース****10:00～15:00**

握力測定で自分の体力のチェックが簡単にできます。神奈川県では1日に30分、週3回、3ヶ月間運動を継続する「3033運動」を推奨しています。

10/20

第46回逗子市民まつり



10月20日(日)、池子の森自然公園400mトラックにて第46回逗子市民まつりが開催されました。2019年度(令和元年度)までは第一運動公園が会場でしたが、コロナ禍の休止を経て、2022年度(令和4年度)から池子の森自然公園に会場を移し、今年で3年目となりました。

逗子市民まつりは、1977年(昭和52年)に始まった、大人から子どもまで楽しめる逗子最大規模のイベントです。市内30以上の団体及び市民が参加する逗子市民まつり実行委員会が、約半年かけて企画を練って準備し開催しています。逗子市制70周年記念事業となる今年は、「海が好き 山が好き 逗子が好き おいでよ池子の森へ!」をキャッチフレーズに、20企画以上の催しと83店の出店があり、約2万人の来場者で賑わいました。また、スポーツの祭典も同日開催され、スタンプラリーなどの連携企画が実施されました。

当日はプレオープニングに聖和学院幼稚園マーチングバンドが登場し、微笑ましい幕開けとなりました。メインステージでは、ZUSHIダンスフェスタや久木中学校吹奏楽部による

演奏などのパフォーマンスが行われ、多くの子どもたちが日頃の練習の成果を披露しました。フィナーレは市内各地域から5基の神輿が会場に集結するみこしパレードが行われ、まつりを大いに盛り上げました。

会場では実行委員による子ども向け体験企画をはじめ、スポーツ団体によるニュースポーツ体験、福祉団体によるPR活動、行政コーナーなどが展開されました。逗子のいいもの、おいしいものを集めた逗子みやげまつりも市内商工事業者を中心に開催され、出会いと交流の場となりました。また、消防車両やパトカー、白バイ等の展示が行われ、特に子どもたちへの消防服の着用体験は長蛇の列ができていました。在日米軍による米軍消防車両の展示や米軍グッズ、ハンバーガー等の販売も人気で、日米交流の機会にもなりました。

今年も事務局である逗子市商工会を中心に多くの市民・団体の尽力のおかげで、大きな事故もなく盛大に開催され、市民がふれあい、参加するまつりとなりました。



約2万人の来場者で賑わう400mトラック



商工会青年部による子ども体験型企画
「ふしぎサイエンスラボ」



市内各地域の神輿が400mトラックに
集結したみこしパレード

10/21・10/28・11/7・11/14

市制70周年記念講座 ふるさと逗子の歴史を知ろう



市制70周年を迎えた今年、身近な地域に親しむきっかけづくりとして、逗子の歴史や文化財、文学などをテーマに、4回にわたる記念講座を市民交流センター会議室で開催しました。

第1回は10月21日(月)、藤井淑禎^{ひでただ}さん(立教大学名誉教授)による「田越川河口の物語ー徳富蘆花・『自然と人生』と『不如帰』ー」。徳富蘆花が逗子で執筆した代表的な二つの傑作と田越川河口という場所の密接な関係について、具体的な情景を思い浮かべつつ親しみやすく解説されました。



第2回は10月28日(月)、伊藤一美^{ひとみ}さん(逗子市文化財保護委員)による「逗子の『中世』をあるく…「つじ」から「づし」そして「逗子」へ…。人の往来を表すキーワード「つじ」をもとに、豊かな歴史と文化を持つふるさと「逗子」の古代から中世の世界について、今に残る地名や地形を手掛かりに案内していただきました。



第3回は11月7日(木)、相澤正彦^{あさけ しょうご}さん(成城大学名誉教授・逗子市文化財保護委員)による「新指定市文化財/釈迦の入滅を描く延命寺涅槃図をめぐる」。涅槃図のさまざまな類例との比較や時代毎の変遷を解説しながら、2023年度(令和5年度)に新しく市文化財指定された延命寺涅槃図の特色や価値について語っていただきました。



第4回は11月14日(木)、塚越俊志^{としゆき}さん(東洋大学・東京都市大学非常勤講師)による「古記録に見る逗子の近世ー検地・寺社・海防を中心にー」。市内の旧家や寺院などに残された古文書をもとに、主として近世(江戸時代)に起こったできごとや資料から見てくる各地域の特性などが紹介されました。



全4回で延べ106名の方々が参加され、質疑応答を含めて皆さん熱心に聴講されていました。日ごろ暮らしている地域のことを少し詳しく知ることができた今回の企画は、市総合計画に掲げる取り組みの方向のひとつ「ふるさとの遺産をまもりつないでいくまち」に沿ったものとして好評をいただきました。

10/27

スマイルハロウィン



体験学習施設スマイルでは、10月27日（日）に「スマイルハロウィン」を開催しました。

当日は施設全体及び第一運動公園内の京急電車を使い様々なコーナーを設けました。

スタジオ前のプール入り口前にメインステージを設け、スマイルボランティアクラブによる手話歌をはじめ、様々なジャンルの演奏が行われました。午後からは仮装コンテストが行われ25組の出演者が出場し、審査員の市長や教育長らの前で個性豊かなパフォーマンスが披露されました。

スポーツルーム内では、子ども縁日やアートのワークショップが、外では逗子葉山建築組合青年部による木工コーナーが行われ、子どもたちが集中して楽しむ姿が見られました。

アトリエ周辺にはフードコートを設け、逗子市内や近隣市町で人気の飲食店が出店し、時間帯によっては行列ができるほど好評でした。

京急電車は骸骨やコウモリなどの装飾が施されたゾンビ電車に変身し、電車の中ではゾンビに扮したスマイルハロウィン実行委員の



迫真の演技に悲鳴が途切れませんでした。

また、スタンプラリーを実施し、5か所のスタンプを集めた先着200名にお菓子をプレゼントしました。

逗子市制60周年の年にオープンした体験学習施設スマイルは10周年を迎え、毎日たくさん子どもたちが遊びに来ています。今後も様々なイベントやスマイル講座の開催、SNSでの発信など時代に合わせた工夫で、子どもたちにとってさらに魅力ある施設を目指したいと思います。



12/5～12/16

逗子市立小・中学校 図工・美術作品展



12月5日(木)～16日(月)「第21回逗子市立小・中学校 図工・美術作品展」が逗子教育研究会(図工美術部)主催で開催されました。作品展は毎年、市立小・中学校に在籍する小学校1年生から中学校3年生までの児童生徒が、学校の図工や美術の時間に創作した作品を逗子文化プラザホールギャラリーに展示し、多くの市民の方に来場・鑑賞いただき好評を得ています。

今年度は市制70周年の節目に合わせ、自分たちが暮らす「逗子」をテーマに多くの学校が作品づくりに取り組みました。

遠足の楽しさが伝わる「池子の森遠足」、海の生き物を描いた「小坪水族館」、児童が感じた逗子の魅力を「逗子オリジナルTシャツ」や「おもしろかんぱんやさん」で表現したものもありました。中学生は、逗子の良さや季節を意識した「和菓子」を粘土で表現していました。

自然豊かな逗子の小・中学校での学びは、豊かな感性や情操を養っています。子ども一人ひとりが、自分らしさを表現し、つくる喜びを感じていることがどの作品からも伝わり、地域性や学年ごとの学びを感じることができました。

来場者からは、「逗子の魅力を子どもたちの作品から教わりました。」「逗子市で育った子どもたちの作品が一堂に会することで、感性の育

ちも見られて楽しいです。」などのご感想をいただきました。

また、例年より会期を延長し、土日も実施したことで、2,600名を超える方に来場い

ただきました。多くの方に作品を鑑賞いただき、フィードバックをもらえたことは子ども達にとっても、教員にとっても価値あるものとなりました。

逗子市立小・中学校では、これからも地域社会と連携・協働して社会に開かれた教育を進めて参ります。そして、新しい時代に求められる資質・能力を子どもたちに育んでいきます。

最後になりましたが、開催にあたっては多くの保護者ボランティアのみなさんにご協力をいただきましたこと、感謝申し上げます。



12/7

ふれあいフェスinずし2024



ふれあいフェスinずし2024は、逗子市と交流・ふれあい事業実行委員会の共催で障害者週間(12月3日(火)～12月9日(月))中の12月7日(土)に、逗子市立体育館(逗子アリーナ)で開催されました。

このイベントは、体験・交流を通してこちらのバリアフリーを実現し、障がいのある人もない人も誰もが分け隔てられることなく、地域で安心して自分らしく暮らし続けることのできるまちづくりを目指すものです。2018年度(平成30年度)から開始し、新型コロナウイルス感染症による中止を挟んで、今回で5回目の開催となりました。

当日は、障がい者団体、福祉事業所、市民グループなど21団体が参加し、車いすバスケ

やボッチャなどのパラスポーツや、要約筆記、点字、手話、難聴、発達障がいなどの体験イベントが行われました。ほかにもクリスマスツリー飾り付け、手話絵本読み聞かせ、スマホ相談会などのブースも出展されました。また、ふれあいマーケットとして、菓子、弁当、雑貨などの製作品の販売が行われ、屋外ではキッチンカーでの飲食販売、ミニ消防車展示や子ども用防火衣の着衣体験も実施されました。

多くの方の協力のもとに開催されたふれあいフェスinずし2024は402人の方が参加し、団体同士の横のつながりも図られ、盛会の中で無事終了することができました。



12/21

第3回ビブリオバトル



12月21日(土)に第3回ビブリオバトルを開催しました。過去2回は図書館内で開催していましたが、今回は市制70周年を記念し、文化プラザさざなみホールで開催しました。

「ビブリオバトル」とは、発表者(バトラー)が自分のお気に入りの本を5分間で紹介、観覧者との質疑応答後に「一番読みたくなった本」に参加者全員が投票し、最多票を集めた「チャンプ本」を決めるイベントです。また、読書の楽しさをいろいろな人と共有できることがビブリオバトルの醍醐味です。

一般募集でご応募いただいた様々な年代の

9名のバトラーが緊張感の漂う中、40名近くの観覧者に向け素晴らしいプレゼンテーションを披露し、観覧者からの質問にも堂々と答えている姿には感心させられるばかりでした。

イベント終了後バトラーからは、「自分の思いや考えを伝えることは難しかったが、良い経験になった」「次回も是非参加したい」などの感想が寄せられました。また、観覧者からは「本の持つ魅力を感じた。今度は自分もバトラーとして伝えてみたい」といった次回へつながる反響もありました。

当日紹介された本(★はチャンプ本に選ばれた本)

第1部

- ・『この夏の星を見る』 辻村深月／著 KADOKAWA
- ・『本好きの下剋上』 香月美夜／作 椎名優／絵 TOブックス
- ★『桃太郎』 芥川龍之介／著
- ・『死んだ山田と教室』 金子玲介／著 講談社
- ・『アリスとテレスのまぼろし工場』 岡田麿里／著 KADOKAWA

第2部

- ・『日露戦争、資金調達の戦いー高橋是清と欧米バンカーたちー』板谷敏彦／著 新潮社
- ・『利己的な遺伝子利他的な脳』 ドナルド・W.パフ／著 福岡伸一／訳 集英社
- ・『記者、ラストベルトに住むートランプ王国、冷めぬ熱狂ー』 金成隆一／著 朝日新聞出版
- ★『おきざりにした悲しみは』 原田宗典／著 岩波書店



1/11

令和7年逗子市消防出初式



2025年（令和7年）1月11日（土）、新春恒例の消防出初式を市制70周年記念と冠して開催しました。

新型コロナウイルス感染症や令和6年能登半島地震の影響によって、2020年（令和2年）に開催して以来5年ぶりの開催となった今回の消防出初式は、各種表彰の他、逗子開成高等学校和太鼓部による和太鼓演奏、消防署による救助演技、消防団による消防操法に加え、消防署、消防団及び特別参加の米海軍池子消防隊による7色の一斉放水を行いました。

さらに、湘南ビーチFMパーソナリティー・森川いつみさんの進行ナレーションのほか、式典中の写真撮影や記録には、県立逗子葉山高等学校写真部にご協力いただき、70周年の節目を飾る華やかな式典となりました。

また、出初式当日は天候にも恵まれ、お子様連れを中心に約1,000人の来場があり、特に



7色の一斉放水については、ご来賓をはじめ多くの方々から称賛のお言葉をいただくことができ、市民の防災意識並びに消防職団員の士気及び団結をより一層高めることができました。

これから先も、災害に強いまちづくりと市民の安全安心を守るため、消防職団員が一丸となり、消防力の強化に努めて参ります。



1/12

第72回逗子市内一周駅伝競走大会 (スポーツ都市宣言40周年&市制70周年記念)



毎年お正月に行われる逗子市内一周駅伝競走大会は、今年72回目を迎え、地域対抗13チーム、団体対抗27チーム、合わせて40チームが参加しました。

現役の箱根駅伝出場ランナーが走るなど、ハイレベルな競争が繰り広げられました。

交通事情により、公道を使用しての駅伝大会が年々難しくなる中、第70回大会から選手の参加資格は、3km以上の距離を1km平均4分30秒以内で走りきる力が必要となりました。第71回大会からは、第一運動公園をスタート・ゴールとする周回コースから、池子の森自然公園400mトラックをスタートし小坪海浜公園横をゴールとする全長21.7km(5区間)のコースに変更となりました。

また、本大会で活躍した選手が中心となり逗子市代表メンバーとして、同年2月に開催された第79回市町村対抗「かながわ駅伝」競走大会に出場し、過去最高となる第8位入賞(出場29市町村中)を果たしました。

主催 逗子市教育委員会、
公益財団法人逗子市スポーツ協会

主管 逗子市陸上競技協会

後援 朝日新聞社、ASA逗子・葉山、
ASA東逗子・追浜
横浜銀行、日刊スポーツ新聞社

協力 逗子警察署、
逗子市スポーツ推進委員協議会、
逗子市交通安全協会、
逗子・葉山アマチュア無線クラブ

結果

地域対抗	優 勝	小坪A
	準優勝	池子A
	3 位	久木A
団体対抗	優 勝	Beyond Zushi A
	準優勝	RUNNING ZUSHI A
	3 位	逗子開成A



桐ヶ谷市長のスターターピストルを合図に一齐にスタートしました。



逗子和太鼓SCHOOLによる
力強い演奏が選手達を鼓舞しました。



かながわ駅伝に出場した選手、
サポートメンバー、監督などの
集合写真です。

二十歳を祝うずしの集い



2025年(令和7年)1月13日(月・祝)に逗子文化プラザなぎさホールにて「二十歳を祝うずしの集い」(旧成人式)を開催しました。

法改正により成人年齢が18歳に引き下がりましたが、逗子市では対象年齢を20歳とし、「二十歳を祝うずしの集い」を実施しています。

この「二十歳を祝うずしの集い」は、20歳になる者で構成される「二十歳を祝うずしの集い実行委員会」により企画・運営を行いました。

本年度は式典前に卒業アルバムのスライドショーを上映しました。懐かしい写真に参加者の目はスクリーンに釘付けでした。

第一部の式典は、市長の式辞、市議会議長の祝辞、二十歳代表の言葉と続き、二十歳の集いらしい厳かな雰囲気の中、式は進行了しました。

第二部のアトラクションに移り、恩師のビデオメッセージを上映しました。お世話になった先生方の登場により、会場からは歓声が上がり、大いに盛り上がりました。

最後にお楽しみ抽選会が行われました。会場で配られた封筒に記載された抽選番号を使用して抽選を行い、ディズニーランド等テーマパークのペアチケットを始め、黒毛和牛ギ

フト、市内商店のお買物券など実行委員が考えた景品を当選者に渡しました。当選された方はとても喜んでいました。

今回の二十歳を祝うずしの集いの対象者数は501名、参加者は430名でした。参加率は85.8%と、ここ10年間で最も参加割合が多い結果となりました。式典を行っている間、さざなみホールではなぎさホールの様子を生中継し、こちらも多くの方の保護者の皆さんに観覧していただきました。

この二十歳を祝うずしの集いは、実行委員の準備だけでなく、青少年指導員による協力及び地元企業等の協賛により成り立っています。今回は、逗子ポイントカード事業協同組合様、公益財団法人逗子市スポーツ協会様、株式会社スズキヤ様、有限会社逗子ぬくもりの家様にご協賛いただきました。

ご協力いただいた青少年指導員の皆様、協賛企業の皆様に感謝するとともに、今後も実行委員会を中心とした地域で作り上げる二十歳の集いを執り行っていきたいと思っています。



1/23～1/26

市制70周年記念 景観広報誌「瓦版」から始まる景観づくり



2025年(令和7年)1月25日(土)市制70周年を記念して、NPO法人逗子の文化をつなぎ広め深める会と共催し、逗子文化プラザホールにて景観広報誌「瓦版」から始まる景観づくりと題した、景観シンポジウムを開催しました。

逗子文化プラザさざなみホールにて開催した景観シンポジウムは、第1部の「第2回まちなみデザイン逗子賞」の表彰式で、逗子市景観条例の表彰制度に基づき、条例の手続きを行



い完成した3件と、一般募集に応募された「まちなみデザイン逗子」実践スポットから選出

した4件を認定・表彰し、授与者それぞれのまちづくりへの思いを伺いました。第2部は会場一体型トークインとして、今までとこれからの逗子の景観について、グループごとに

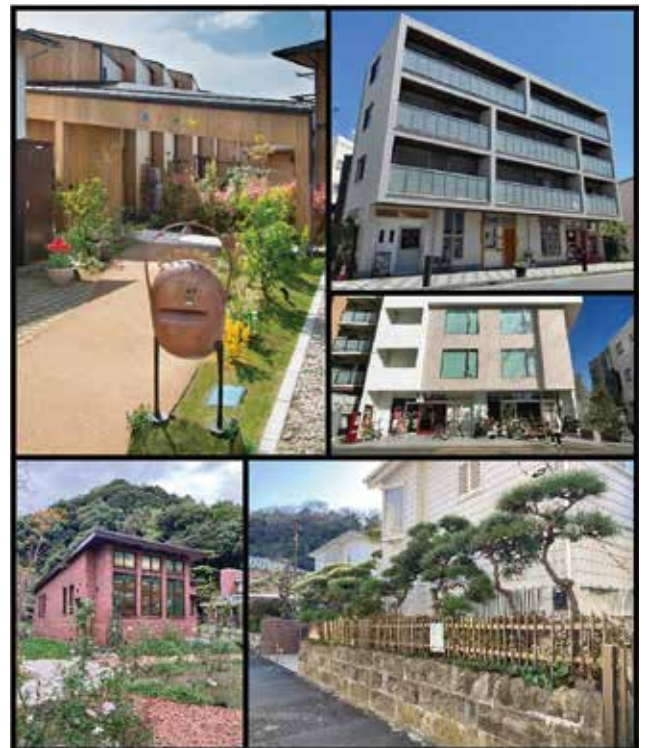
話し合ったあと全体で意見を共有しました。第1部・第2部それぞれにおいて、関東学院大学



名誉教授水沼淑子氏に講評をいただきました。

来賓と多数の一般参加者が一体となり、逗子の歴史的なまちなみを含めた景観について継承発展させていくこと、また商店街などまちなかも含めて、これからの逗子が暮らしやすいまちとなるために、今私たちができることを共有した70周年の節目となる景観シンポジウムとなりました。

またこの前後の期間となる1月23日(木)から26日(日)は、市民ギャラリーにてこれまで発行した「瓦版」と「逗子文化の会ニュースレター(会報)」や「第2回まちなみデザイン逗子賞」とその他の逗子市の景観に関する資料の展示を行い、多くの方に観賞していただきました。



消防・防災フェア2025 in 逗子



2025年(令和7年)3月2日(日)第一運動公園自由運動広場において、市制70周年記念 消防・防災フェア2025in逗子を開催しました。

これは春の火災予防運動の一環として、子どもから大人まで幅広い世代を対象に火災予防思想の啓発を図ることを目的として開催したイベントです。

当日は、火災時における煙の怖さを体験する煙体験ハウスや、住宅用火災警報器の必要性を理解してもらうブースを設置し、大勢の方に火災予防に関する注意点を学んでいただきました。

子ども達には、はしご車やミニ消防車の乗車、防火服の着装及びロープ渡りなどを体験してもらい、楽しみながら消防・防災についての関心を高めてもらいました。

また、今回は市制70周年を記念し、前回に比べ、陸上自衛隊やライフライン関連などのブースを拡充し、大規模災害時における防災に関することを数多く習得していただける良い機会になりました。

今後、さらに多くの市民の方々が参加できるイベントを展開していきたいと思います。



6/2 歩行者と自転車のまちを考える会

市制70周年

第15回 ツール・ド・逗子2024



自転車を楽しむ風土づくりの一つとして始まった「ツール・ド・逗子」。逗子市民や三浦半島在住の方々、三浦半島外の皆さまにも楽しんでいただけるポイントラリー形式のイベントで、今年で15回目を迎えました。

逗子と近隣のポイントを巡る10km程度のコースや、太平洋岸自転車道を利用した三浦半島を巡るロングコースまで、ご自分でポイントを選んでご自身のレベルに合った好きなコースを設定し、例年150名ほどの皆さまが思い思いに自分のペースで楽しめる、誰もが気軽に参加できるイベントとなっています。徒歩で参加する方もいらっしゃいます。

今年は市制70周年記念で、市との共催事業として実施。ポイントを周ってゴールした方



にオリジナルリフレクターをプレゼントしました。ローカルでじわじわと人気が高まっている「歩行者と自転車を優先するまち」ステッカー

のデザインを採用し、裏面には市制70周年のロゴマークが施されたつくりになっています。

開催日の6月2日(日)は、雲が優勢のスッキリしない空模様で、ムシムシとした厳しい暑さの一日でした。午後は雨が強く降る場面もありましたが、ポイントラリーには約100名が参加し、開催会場の亀岡八幡宮にも約200名と多くの方々に来場いただきました。

逗子はまち自体が比較的コンパクトで、主要なものはすべて駅周辺でそろいます。そのような風土もあり、自転車が重要な移動手段の一つとなっていることから、「歩行者と自転車を優先するまち」をめざした取り組みを進めています。

逗子が位置する三浦半島も、豊かな自然環境に恵まれ、観光スポットが点在していることもあり、これからも自転車を利用した地域の楽しみ方を創出していければと考えています。



1/12 クリップボード

リーディングシアター ZUSHI × 子どもリーディングシアター ワークショップと朗読公演「逗子から生まれた物語」



ワークショップ：2024年（令和6年）6月から
2025年（令和7年）1月まで

公演：2025年（令和7年）1月12日（日）

13:30開演 逗子文化プラザなぎさホール

主催：クリップボード

逗子はゆかりの作家が多く、逗子が登場する作品もたくさんあります。それらを市民が朗読で結び、逗子を旅するような舞台作品を創作しました。半年に渡り、本と人楽しく向き合うワークショップを開催。地域の財産と人々が融合し繋がる、文化的にも意義のある企画となりました。

〈ワークショップ〉

朗読経験者から初めての方まで、小学1年生から70歳代の老若男女46名が集い、ワークショップと練習を開始。指導は逗子在住の俳優・演出家、井上奈保未が担当。イギリスの演劇手法を取り入れたゲームや、想像力を使った本読み等、参加者同士コミュニケーションをとりながら、それぞれの個性を引き出し合う、笑顔溢れる活動となりました。逗子が登場するページに親しみを感じながら読み進め、皆、声や表情が豊かになりました。



〈公演〉

多くの観客が見守るなか幕が開きました。第一部は、市長挨拶、元NHKエグゼクティブアナウンサー榊寿之さんの基調講演と「なぎさホテル」（伊集院静著）朗読。そして、子どもたちが、逗子市手づくり絵本コンクール優秀賞受賞2作品を読み聞かせ。呼吸をあわせて登

場人物の気持ちを声や動きで表現し、舞台上に映像演出を加え、カラフルな絵本の世界をお楽しみいただきました。

第二部は、大人チームが登場。「きことわ」（朝吹真理子著）や「無言」（川端康成著）など逗子が登場する作品からシーンを抜粋。市内で撮影した写真を投映し、風景や人の営みを朗読で表現しました。最後に泉鏡花原作「海神別荘」を読みつないで披露。プロの和楽器奏者やオペラ歌手、舞い手がゲスト出演して盛り上げ、美しい映像と共に舞台上に幻想的な海底の世界を出現させ、幕を下ろしました。

クリップボードは、文化・芸術の力を人々の生きる力とするため活動し、逗子や葉山、各地の学校や企業などで、多数のコミュニケーションや人材育成の講座を開催しています。今後も人々の幸せと子供たちの将来のため、活動していきたいと考えています。



公演写真撮影：長越晃子

演出・脚本：井上奈保未

映像演出：MICH

出演：青木結音 天野あかり 石垣瑠奈 市川ゆい 植田碧海 遠藤帆香 梶木乃華 小寺夏葵 齊田芽沙 坂本七海 柴田かの 谷崎慶乃 土谷碧 土谷光璃 出張世奈 出張愛奈 西村伊代 橋口湊 藤井詩 松山杏沙 三井日文 山田波路 吉永紗子 渡辺

陽哉 石崎和子 石津秀道 金子ハナ子 菊地久美 小須田博司 小林久美子 佐久間哲 潮村由紀子 須長美保子 鷲原絵里子 田中祐子 塚田まゆみ 西村慕子 福田寿枝 藤崎晶子 松田真美 馬島浩子 宮本真美 山野円 渡邊澄枝
特別出演：増田いずみ はんな 井上公平

4/21～1/31 逗子・葉山アマチュア無線クラブ

逗子市市制70周年記念 アマチュア無線局（8J1Z）の運用

アマチュア無線局には世界で一つのコールサイン（呼出符号）が国から与えられます。日本の場合は“J”か“7”で始まる6ケタになりますが、特別なイベントに限り“8”で始まるコールサインをもらうことができます。これは大変珍しく、ひとたび電波を出せばたくさんの呼び出しを受けます。

逗子・葉山アマチュア無線クラブでは、逗子市市制70周年記念局「8J1Z」というコールサインをいただき、国内各所に移動し、たくさんのアマチュア無線家と交信しました。8月24日（土）と25日（日）には有明GYM-EXで開催された「アマチュア無線フェスティバル ハムフェア2024」にブースを出展し、延べ45,000名の皆さんに逗子市のPRを行いました。交信した相手にはQSLカードと呼ばれる交信証明書を発行しますが、逗子

市の写真と説明文を印刷してお送りし、また、規定の交信をクリアすると申請できるアワードといわれる賞状も発行しました。期間中15,899局の皆さんと交信することができました。国内で活発に運用している局数は不明ですが、日本アマチュア無線連盟の会員数（約53,000名）をそれと考えると、3割近い方に逗子市が良いまちだと知っていただくことができたと思います。



4/26～4/29 逗子の文学を学び広める会

『あなたと私の逗子の文学』展

「逗子の文学を学び広める会」は、逗子の文学に関心のある市民が集まり、横須賀線が開通した明治中頃の別荘時代から現在まで、逗子の近現代文学の豊かな歩みを掲載した文学年表づくり（デジタル編集）に取り組んでいます。

より多くの方々に逗子の魅力のひとつである「逗子ゆかりの文学」を知ってもらいたく、市制70周年記念事業に参加し、4月26日（金）～29日（月・祝）の4日間、『あなたと私の逗子の文学』展を市民交流センターで開催しました。

逗子にゆかりのある作家や作品をできるだけ網羅する年表にしていきたいことから、大型モニターに映し出した文学年表はあえて編集過程のものを公開。逗子の文学碑・散歩道マップなども展示したことで、多くの皆さんにお立ち寄りいただき、アンケート調査のほ

か、逗子と文学についての様々な情報、それぞれの想いを直接伺うことができました。

図書館などの協力を得たこの事業を契機に、逗子市と図書館の公式サイトともリンクし、年表の相互公開も実現しました。

これからも新たな情報や調査をもとに定期的に更新し、大切な逗子の文化資源として未来につないでいきたいと考えています。



逗子ゆかりの
文学年表
1889～2024

5/16・6/13・7/11・9/12・10/10・11/14・12/12・1/16 アトリエミモザ&ローズ

四季を感じる植物たちの寄せ植え

四季を感じる植物たちの寄せ植え（アトリエミモザ&ローズ主催）は、四季折々の植物の寄せ植えづくりを通して、植物の知識やいのちを育む大切さ、デザイン・色彩感覚の発揮、作品を完成させる喜びの涵養を目的として、

5月から翌1月まで（8月除く）の毎月第2木曜日に開催しました。

心を込めて制作した作品は、出来栄に関わらず、作品そのものが愛おしく感じられ、心が癒されるひとときとなりました。



観葉植物の寄せ植え講座の様子



講座受講の方の作品
（秋の実のついた植物）

6/2 逗子昭和歌謡サロン

第3回 昭和歌謡祭

6月2日（日）に、逗子文化プラザさざなみホールにおいて、「第3回昭和歌謡祭」を開催しました。当日は11:00～17:30の6時間で60曲を生バンドの演奏で、懐かしい70年代から80年代の昭和歌謡を会場の皆さまと一緒に歌い、大いに楽しむことができました。5組のゲスト出演もあり、のべ200名の方にお越しいただきました。



6/23 テルミンミュージアム

テルミンとフラメンコギターの調べ

6月23日(日)文化プラザさざなみホールにおいて、市制70周年記念事業市民企画として開催されました。131人のお客様の中には市外からいらした方も多く、この機に逗子のまちや海を散策されるなど、逗子の魅力を満喫されました。テルミンの大西ようこ、フラメンコギターの東川翼は、共に逗子生まれの逗子育ち。演奏会は「逗子市歌」から始まり、徳富蘆花など逗子ゆかりのエピソードを交えながら、クラシックの名曲を大胆なフラメンコアレンジにして聴いていただきました。また、今回の演奏会のために、作曲家・清道洋一さんに委嘱した作品「エル・バイレ」も初演され、テルミンとフラメンコ

ギターの新しい境地を切り開く一助となりました。舞台には美術家・杵淵三朗さんの切り絵を装飾し、さらに、その切り絵をスクリーンとして、映像を投影するなどの幻想的な演出も話題となりました。主催のテルミンミュージアムは、世界で唯一のテルミン専門のミュージアムであり、今後とも逗子の地からテルミン文化を世界に発信していきます。



7/7 ほほえみドレス

七夕ファッションショー ～七夕の日に良き想いでを～

7月7日の七夕の日、「スマイル」では素敵なファッションショーが開催されました。

モデルは70歳以上のシニアが中心ですが、小学生モデルの皆さんがシニアモデルを優しくエスコート。シニアの女性モデルが纏うのは、一枚の布地を切らず、縫わず体に合わせる魔法のようなドレスです。それだけで十分華やかなオートクチュールですが、モデルの皆さんの笑顔が、会場をパリコレ以上に盛り上げていました。



ゲストモデルとして50年以上連れ添ったご夫婦が出演。織姫・彦星のようにお二人仲睦まじくランウェイを歩かれる姿に、会場からは割れんばかりの拍手が送られました。

最後はカーテンコールの代わりに、会場が一緒になって「七夕の歌」を踊り付きで歌う素敵な演出でフィナーレとなりました。

「これまでは、こうした舞台に立つことはなかった」とシニアモデルの方もお話しされていましたが、これからも元気に過ごされ、市制100周年を迎えた暁にはOver100歳のモデルとして、再度、ランウェイを元気に歩いていただきたい。そんな気持ちになるショーでした。



7/15 日本の心を歌い継ぐ会

海の日コンサート 一緒に歌い継ごう 日本の歌と心を ～子どもも大人も共に逗子の自然に思いを重ねて～

7月15日(月・祝)海の日に、逗子市民でありソプラノ歌手の石井はるかとピアニストの口ホマン真由美による音楽会「海の日コンサート



一緒に歌い継ごう日本の歌と心を～子どもも大人も共に逗子の自然に思いを重ねて～」を、結・yuiコミュニティホールにて開催しました。

「日本の歌を真ん中に、プロの演奏家と、0歳から100歳までの多様な世代が集まり、歌を通して交流を持ち、歌を通してふるさと逗子や逗子の自然に想いをはせる・・・」そんなつながりの生まれる

「場」となることを願って開催しました。

当日は「海」にちなんだ曲を、プロの演奏で聴いたり、みんなで歌ったり、子ども達が出で歌ったり、みんなが笑顔になれた温かな会となりました。趣旨に賛同してくださったたくさんのお客様、中には9か月の赤ちゃんとお両親、出演者石井はるかの102歳の祖父、とまさに0歳から102歳の多様な世代で歌を真ん中に集うことができました。市制70周年を契機に、今後大切に育てていきたい会となりました。



9/16 コンチェルト・カメリアローズ

第12回 コンチェルト・カメリアローズ 逗子市制70周年記念コンサート



「コンチェルト・カメリアローズ」は、2005年(平成17年)の逗子文化プラザホール開館を機に、同世代の地元の音楽家を中心に結成された音楽家のグループで、これまで多くの公演を開催してまいり

ました。9月16日(月・祝)に開催した第12回目の自主公演は、逗子市の市制70周年、かつ、多くの著名な作曲家の「記念イヤー」に当たったことから、「アニバーサリー作曲家で祝うアニバーサリーイヤー」と題して開催いたしました。



プログラムには、没後100年のフォーレ、プッチーニ、生誕150年のスーク、生誕100年の團伊玖磨の各作品等に加え、今回唯一の現役の作曲家となった生誕90年の水野修孝さん、さらに地元逗子にちなんで、逗子に居住していた生誕95年の矢代秋雄さんの作品を取り上げ、バラエティに富んだプログラムを多くのお客様にお楽しみいただくことができました。現

在も市内にご在住の矢代若葉夫人にご臨席いただくことができたことも特筆すべきことでした。

これからも地元逗子を拠点に、皆さまに喜んでいただける音楽をお届けしてまいります。

10/6 逗子ロータリークラブ

逗子海岸ビーチバレー大会2024

10月6日(日)、逗子海岸東浜にて逗子市市制70周年記念逗子ロータリークラブカップ逗子海岸ビーチバレー大会2024が開催されました。2004年(平成16年)に第1回大会が開催され、回を重ねるごとに参加チームも増え、今年の参加は約230名、一般の部28チーム、中学男子の部16チーム、中学女子13チームでした。熱戦の結果優勝チームは、

一般の部 : TENKA II チーム
 中学男子の部 : ニモの煮物チーム
 中学女子の部 : seaチーム

となりました。

逗子海岸は市民の大切な財産との共通認識で、毎年トーナメントに先立ってビーチクリーン作戦(海岸清掃)を行っています。



10/18・10/19 百合の会、Sophiaサロン

コントラクトブリッジ・ZUSHI CUP ミニブリッジ無料体験教室・ブリッジサロン



10月18日(金)19日(土)の両日、市制70周年市民企画市民主催事業「コントラクトブリッジ・

ZUSHI CUP」並びに「ミニブリッジ無料体験教室・ブリッジサロン」を市民交流センターで開催しました。

「コントラクトブリッジ・ZUSHI CUP」は一日の競技会でしたが、ブリッジ連盟の広報誌に掲載していただいたこともあり、遠く盛岡や関東各県からも参加いただき、46ペア、92人の大盛会となりました。

ミニブリッジ無料体験教室では、家族連れ

や友人同士など多くの方が参加され、初めてのブリッジに目を輝かせながら取り組んでくださいました。

サロンは自由にブリッジを楽しめるコーナーでしたが、皆さんにゆったりとゲームを満喫していただきました。

今後ますます逗子市におけるコントラクトブリッジの輪が広がることを願う2日間となりました。



12/8～12/15 逗子SDGs絵日記実行委員会

逗子SDGs絵日記展

逗子市在住または逗子市が好きな小学生を対象に、SDGsについて家族や友達と考えてもらう目的で、

- ・こんな逗子が好き
- ・未来がこうなればいいな
- ・私が大切にしていること

などをテーマとした絵日記を夏休みの期間中に募集しました。

応募のあった全150作品を12月8日（日）から1週間、逗子市交流センターで展示し、最終日には市長賞や教育長賞のほか、地域企業から表彰をするイベントを行いました。

イベントでは、小学生が地元の海の磯焼けについて発表したほか、逗子開成中学高等学校や湘南白百合中学校高等学校などの環境関連団体がSDGsを楽しく体験できるブースを出店。

最後に桐ケ谷市長より「この絵日記展の効果は、子どもたちが何を描くかを考える過程で、社会の様々な問題を見る目が養われることだと思う。絵日記を描く挑戦をキッカケにあらゆるコトにナゼ？と疑問を持って深掘りして判断する力をつけ成長することに期待している。」と総評をいただきました。



12/28 逗子第九合唱団

逗子市制70周年記念 「逗子第九フェスティバル演奏会」

逗子市市制70周年の節目の年に、コロナ禍を経て8年振りに「逗子第九演奏会」が開催されました。高らかにオーケストラバージョン＋混声4部合唱による「逗子市歌」をオープニングとして交響曲第九番（合唱）の演奏が始まりました。今回、合唱団はもちろん、オーケストラも市民公募により集まった、経験豊富な前澤均さんの指導・指揮（合唱指導：徳永洋明さん）による演奏会。当日はなぎさホール一杯の来場をいただき、無事に演奏会を終える



ことが出来ました。観覧いただいた方からも演奏者からも素晴らし

い演奏会だったとの声を多くいただきました。これも参加いただいた市民の方をはじめ多くの関係者の方々の支援のお陰と感謝申し上げます。これを機にさらに文化芸術の充実した逗子を目指して活動を進めたいと思います。



1/11 逗子うたごえ楽校

みんなで歌おう「逗子ゆかりの歌」「1950年代の歌」

2025年（令和7年）1月11日（土）逗子文化プラザなぎさホールにて、逗子市市制70周年記念“みんなで歌おう「逗子ゆかりの歌」「1950年代の歌」”を開催しました。

小坪在住のピアニスト飛松利子さんの演奏、逗子高等学校卒業生の縁「ENISHI」のアンサンブル、災害被災地の復興支援活動をしている逗子災害ボラバスターズバンドバスバンの演奏、久木小学校合唱団の合唱、そしてうたごえ楽校メンバーと一緒に歌うコーナーと盛沢山の内容でした。なんと久木小学校合唱団の歌声に涙するお客様もいらっしゃいました。

湘南ビーチFMの森川いつみさんの司会で、300名を超えるお客様と逗子市市制70周年をお祝いしながらラストソング「花は咲く」で、感動と笑顔いっぱいの会となりました。



市制70周年記念グッズの作製・販売

市全体で市制70周年を盛り上げるため、逗子市観光協会の協力のもと、記念グッズを作製・販売しました。



※市制70周年記念グッズは、2025年（令和7年）3月末時点で販売を終了しています。

第2部

主なできごと 2015－2024

Events from 2015 to 2024



主なできごと一覧 2015－2024

年度	できごと	所管課
2015～	家庭ごみ処理の有料化とごみ処理広域化の推進	資源循環課
2015～	安全で快適な海水浴場の運営と逗子海岸の活用	経済観光課
2015～	地域自治の推進	市民協働課
2016～	フェアトレードタウン宣言とその取り組み	市民協働課
2016～	シティプロモーションの取り組み	企画課
2016	療育教育総合センターオープン、こども発達支援センター、教育研究相談センター業務開始	療育教育総合センター
2016～	病院誘致から地域医療のあり方検討へ	国保健康課
2016～	神武寺トンネル拡幅工事完了、開通	都市整備課
2017～	緊急財政対策本部の設置と財政対策プログラムの実施	財政課
2018～	東京オリンピック スペインセーリングチームとの交流	市民協働課
2019～	新型コロナウイルス対応の経済対策	経済観光課
2019	令和元年台風15号、19号による被害	防災安全課
2019～	頻発する崖崩れとその対応	都市整備課
2020	新型コロナウイルス感染症の感染拡大と対応	防災安全課・国保健康課
2020	逗子町分離独立70周年と銘板の寄贈	企画課
2021	山の根踏切の廃止	都市整備課
2021～	10億円の寄附による給付型奨学金制度の創設	教育総務課
2021～	チャレンジ！逗子カーボンニュートラル2050	環境都市課
2022	逗子市男女平等参画及び多様性を尊重する社会を推進する条例の制定	市民協働課
2022	「温かくおいしい給食へ」中学校給食を食缶方式に	学校教育課
2023	逗子葉山高等学校の開校	執筆 企画課
2023	小児医療助成制度の拡充・無償化	子育て支援課
2023～	小坪2丁目県有地の活用に向けた検討	緑政課
2023～	令和6年能登半島地震の発生とその支援	消防本部・職員課
2024	高橋睦郎さん文化勲章受章記念講演会・市民栄誉賞贈呈式	秘書課・文化スポーツ課

2015年度(平成27年度)～

家庭ごみ処理有料化の導入と ごみ処理広域化の推進

家庭ごみ処理有料化と併用策

2015年(平成27年)10月に実施した家庭ごみ処理有料化は、制度の目的と必要性、併用策を含む制度設計の考え方について、市内各地域で数多くの説明会を開催し、市民の皆さんのご理解とご協力による大きな減量効果につながりました。制度設計にあたっては、最終処分につながる燃やすごみと不燃ごみのみを有料とし、再生利用する資源物は無料にすることにより、燃やすごみと不燃ごみの排出抑制効果と、資源物の分別促進効果を得ることを基本的な考えとしました。

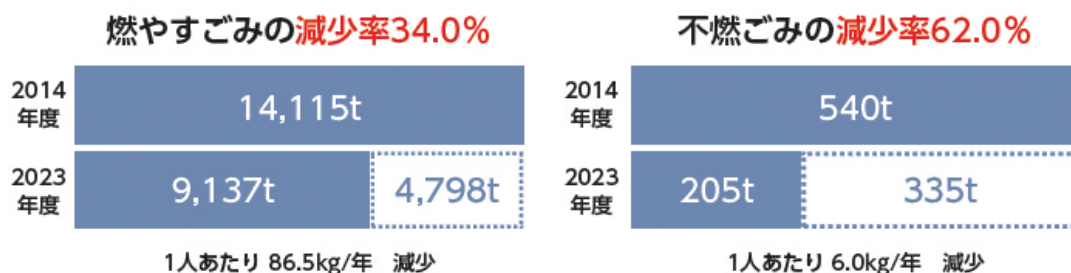
そのうえで、有料化と同時の併用策として、分別区分を7分別から18分別に細分化し、無料で出せる資源物の種類を増やすことで、相乗的に分別が促進され、飛躍的に燃やすごみと不燃ごみの減量が進みました。従前から有料戸別収集の粗大ごみは、料金体系を見直し値上げをす

る一方で、1辺30cm以上の基準を1辺50cm以上に緩和しました。加えて、新たに小型家電を無料の資源物として分別収集の対象とすることにより、それまで有料の粗大ごみであった小型家電の多くが、月2回の収集日に無料で出せるようになり、資源化が進みました。

これら施策と市民の皆さんのご協力により、燃やすごみ・不燃ごみの計画上の減量目標20%を大きく上回る減量効果と資源化率の大幅な向上の達成とともに、資源ごみを含むごみの総排出量の削減と大幅な経費削減効果が得られました。

なお、有料化の実施に伴い、地域の清掃活動や道路・ごみステーションなどの公共の場所をボランティアで清掃したごみは、有料の指定ごみ袋を使わずに無料で出せるよう「ボランティア清掃用ごみ袋」を交付しています。

家庭ごみ処理有料化導入前との比較



2015年(平成27年)の燃やすごみと不燃ごみの有料化以降、ごみの減量化と資源化が進んでいます。



燃やすごみ用・不燃ごみ用指定ごみ袋



ボランティア清掃用ごみ袋

広域の枠組みの再構築

家庭ごみ処理有料化と資源化拡大による焼却量の大幅な減少を見据え、貴重なインフラストックである既存焼却施設の余力を最大限活用してスケールメリットが得られるよう、広域の枠組みの再構築に取り組みました。

2018年度（平成30年度）から、地方自治法の事務委託により、逗子市の焼却施設で葉山町の可燃ごみ、葉山町のし尿処理施設で逗子市のし尿及び浄化槽汚泥の共同処理を開始しました。これによる逗子市し尿処理施設の廃止とあわせて、し尿収集と浄化槽清掃業務を委託から廃棄物処理法の許可制に移行し、し尿処理業務全体の合理化を図りました。葉山町とは、2020年度（令和2年度）から容器包装プラスチックの共同処理を開始し、現在は、葉山町との生ごみの分別収集・資源化の共同処理の準備を進めています。

また、2025年度（令和7年度）からは鎌倉市の可燃ごみの一部を受入れ、共同処理を開始します。

2020年度（令和2年度）に策定した鎌倉市・逗子市・葉山町ごみ処理広域化実施計画に基づき、さらなる広域処理を進めていくこととしています。

これまでの広域処理による財政効果（単位：円）

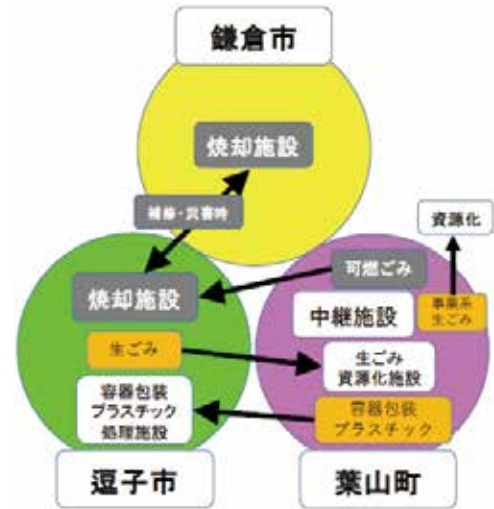
年度	ごみ処理負担金収入		ごみ処理負担金支出	財政効果額 (収入－支出)
	可燃ごみ	容器包装プラスチック	し尿・浄化槽汚泥	
2017	85,400,962	0	0	85,400,962
2018	201,153,218	0	1,699,469	199,453,749
2019	212,826,509	0	1,676,522	211,149,987
2020	217,588,448	22,100,221	1,502,281	238,186,388
2021	203,276,431	22,390,182	1,358,524	224,308,089
2022	210,263,567	19,035,965	1,470,026	227,829,506
2023	231,899,285	20,118,158	1,617,234	250,400,209
累計	1,362,408,420	83,644,526	9,324,056	1,436,728,890

※2017年度は可燃ごみの受入れ処理を試行
(2017年7月～2018年3月)

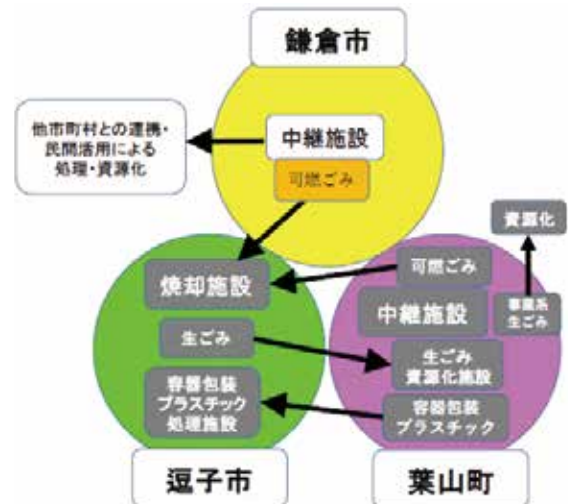
ごみ処理施設の整備方針

※「鎌倉市・逗子市・葉山町ごみ処理広域化実施計画」
(2020年8月)による。

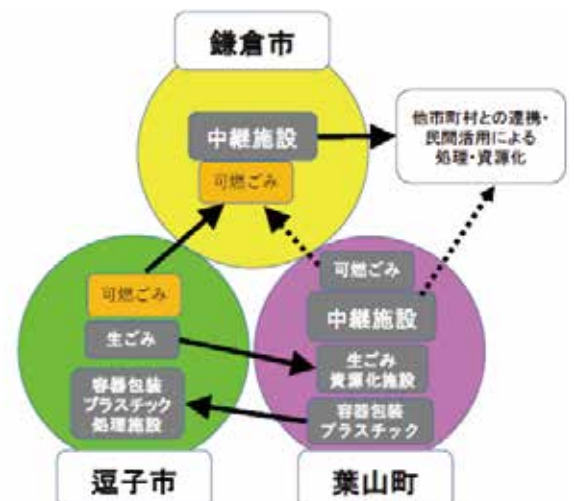
○第Ⅰ期（2020年度～2024年度）
(鎌倉市の焼却施設が停止するまで)



○第Ⅱ期（2025年度～2029年度）



○圏域における将来のごみ処理体制



2015年度(平成27年度)～

安全で快適な海水浴場の運営と 逗子海岸の活用



ファミリービーチのシンボル逗子海岸ウォーターパークと富士山

本市最大の観光資源である「太陽が生まれたハーフマイルビーチ」こと逗子海岸は、遠浅で波静かなことから海水浴シーズンはもとより、年間を通じて様々なマリンスポーツが盛んで、市民の憩いの場ともなっています。逗子海水浴場の歴史は古く、昭和の全盛期には1日に30万人が押し寄せたと言われるほどの活況があり、逗子のまちの発展に大きく寄与してきました。

2013年(平成25年)、海の家クラブ化などにより、風紀が乱れ治安が悪化したことから、市長はリセットすることを決断、2014年(平成26年)「安全で快適な逗子海水浴場の確保に関する条例(以下、条例)」が全部改正されました。海の家を除く砂浜での飲酒とバーベキューの禁止などを定めた条例は、当時日本一厳しいと言われ全国的にも注目されました。

2015年(平成27年)、「逗子海水浴場の運営に関する検討会(以下、運営検討会)」が発足、公募市民、近隣自治組織や海岸・商工・観光関係者などが一堂に会し、海水浴場の運営についての検討協議を始めました。以降毎年、海水浴場開設前に条例等ルールを検討協議し、期間中は合同パトロールを実施、開設後は課

題や対策、振興策についての報告書を取りまとめ、市長へ提出しています。海水浴場を取り巻く状況は常に変化することから、その時々課題をお互いに共有し、話し合いを重ねて、対応策を講じていく必要があります。運営検討会は、海水浴場の適切な運営を図るためのPDCAサイクルを実践する役割を果たすとともに、立場が異なる関係者同士の信頼関係構築にも寄与しています。

合わせて、逗子海岸に親しんでもらうための取り組みも精力的に行われてきました。2015年(平成27年)、逗子市観光協会を中心に「ワッショイ!逗子海岸」「逗子ビーチスプラッシュウォーターパーク(現在は逗子海岸ウォーターパーク)」「NIGHT WAVE-光の波プロジェクト」の3つの逗子海岸保全活用事業が始まりました。

「ワッショイ!」は、安心安全な逗子海岸をまず地域の子どもたちに楽しんでもらいたいと、海岸関係者や市民有志が企画を持ち寄り始めました。年間を通じて逗子海岸に親しむ機会を提供し、地域の子どもや子育て世代を中心に好評を得ています。

「ウォーターパーク」は、逗子海水浴場に来

てもらうインパクトあるきっかけづくりをしようと、30もの市内団体が参加する実行委員会が発足し、県内で初めて海上遊具を設置してオープンしました。現在ではファミリービーチのシンボルとして定着し、1シーズンで2万人以上の利用者がある目玉企画となっています。

そして、夏以外にも逗子海岸の魅力をさらに高めようと、アーティストや観光商工関係者を中心に実行委員会が立ち上がり始まったのが、「NIGHT WAVE」です。刻一刻と変化する波に特殊なホロライトを当て、一筋の青い光として浮かび上がらせる光の演出は、2017年(平成29年)には「かながわ観光大賞優秀賞」を受賞するなど話題を呼びました。これまでビーチキャンドルやライトアップウインドサーフィン、アカモクスタンプラリーなどの連携企画が行われ、2日間で2万人以上が訪れる秋の風物詩となっています。

これらの取組は、実行委員会を中心に様々な市民、団体、事業者の皆さんがそれぞれの強みを持ち合い、協力して実現させてきたもので、ファミリービーチとしての逗子海岸の魅力を高め、発信し、賑わいづくりに大きく寄与するものとなっています。

このように取組が進んでいた矢先、コロナ禍で状況は一変。2020年(令和2年)、緊急事態宣言が発出される状況下で人を呼び込まないために、桐ヶ谷市長は海水浴場の不設置を決断、「新型コロナウイルス感染症流行下における逗子海岸のマナーの向上に関する条例」を

新たに施行し、海岸関係者等と連携を密に安全対策を講じました。翌2021年(令和3年)は感染症・安全・マナー対策を徹底するために、条件付開設を決定しましたが、感染拡大は進み、開設期間変更や海の家での終日酒類提供停止を経て、途中休場し、そのまま閉場となりました。こうした異例の状況下でも迅速に、大きな事故やトラブルもなく、みんなで乗り越えることができたのは、これまで運営検討会をはじめ、多くの関係者との協力体制が構築されていたからこそであり、コロナ禍の経験はその繋がりをより強固なものとししました。

そして良好な逗子海岸の環境を将来の世代に残すための取り組みも本格化しています。2022年(令和4年)4月、逗子海水浴場は国際環境認証「ブルーフラッグ」の認証取得が認められ、国内6番目の認定海水浴場となりました。同時にリビエラ逗子マリーナがアジア初となるマリーナ認証を取得、7月にはブルーフラッグ認証取得記念シンポジウムが開催されました。現在、次世代を担う子どもたちへの環境教育プログラムが行われるなど、ブルーフラッグの旗印のもと、環境保全活動の輪が着実に広がっています。

コロナ禍以降、猛暑等の影響もあり来場者が伸び悩んでいる現在、これからも地域の財産である逗子海岸をみんなで守り、「安心安全で快適なファミリービーチ」を共につくり、将来へつないでいくための取組が求められています。



海岸中央監視所から東浜方面を望む



認証ビーチの証“ブルーフラッグ”

2015年度(平成27年度)～

地域自治の推進

地域で活躍する様々な住民や団体の力を生かしながら、それぞれの地域ごとに異なる住民ニーズ、地域の課題にきめ細やかに対応し、地域コミュニティを再構築することを目指し、2012年(平成24年)から地域自治の取り組みを推進しています。小学校区ごとに、地域全体で意見を出し合い、連携・協力し、様々な地域課題を解決し、地域の個性や実情に応じた地域づくりができるよう、地域が主体となって住民自治協議会が設立されています。協議会は活動方針や短期的・長期的な目標等を取りまとめた「地域づくり計画」を策定し、この計画に基づく事業を実施するなど、より安全・安心で暮らしやすい地域づくりを市と協働で行っています。また地域づくりに係る地域住民の意見を代表し、市との調整等の窓口となります。

協議会に対する市の支援は3種類、財政的な支援として地域づくり交付金の交付、地域と市のパイプ役となる地域担当職員の配置、協議会の活動拠点となる場所の確保です。2015年(平成27年)1月には沼間小学校区で協議会の第1号が誕生しました。また、同年4月には小坪小学校区、2016年(平成28年)4月には池子小学校区、2017年(平成29年)4月には久木小学校区と現在まで4つの小学校区で協議会が設立されました。

協議会の第1号が誕生してからすでに10年経過しました。それぞれの地域の広報誌の発行をはじめ、環境美化運動、交通問題対策、防犯防災対策、子どもの見守り、地域の文化・スポーツ等のイベントなど、市内各地域において地域の特性に合わせた様々な活動が行われ、顔の見える関係づくりから多様化する地域の課題へきめ細やかに対応する地域づくりが進められています。



久木、朝市のように



小坪、避難所設営のワークショップ



池子、わんわんパトロール。



沼間、防災施設マップ

2016年度(平成28年度)～

フェアトレードタウン宣言とその取り組み

2011年(平成23年)5月に開催されたイベントをきっかけに、逗子市をフェアトレードタウンにしようという市民による活動がスタートしました。市制60周年の2014年(平成26年)には、逗子市と逗子フェアトレードタウンの会との共催で「国際文化フォーラム」が開催され、小学生の絵を包装紙に使用した「逗子チョコ」や市内店舗と協力して「逗子珈琲」が作られ、フェアトレード商品を扱う店舗が増えました。フェアトレードの認知度調査でも高い評価が出たため、2016年(平成28年)3月の市議会でフェアトレードを支持する決議が採択され、同年4月に市長によるフェアトレードタウン宣言が出されました。

2018年(平成30年)から2020年(令和2年)まで、市内の障がい福祉関連施設と共に、「ウェルフェア&フェアトレード」の「ずしチョコ」



を開発、販売を応援していました。フェアトレードタウン認定は3年ごとに更新が必要であり、2022年度(令和4年度)には2度目の更新を行いました。

現在は逗子フェアトレードタウンの会とフェアトレード啓発事業に関する協定書を締結し、様々な事業を行っています。フェアトレード月間である5月にはフェアトレードや地産地消の食材を用いたランチを市内飲食店で提供する「フェアトレードランチキャンペー



ン」「フェアトレードタウンフォーラム」、8月には若者向けの「ユーストレーニング」、9月～3月までは隔月で、さまざまなテーマの「連続講座」を4回開催しています。

その他、2019年(令和元年)からフェアトレード月間には逗子市立中学校3校において、子ども達にフェアトレードを身近に感じてもらうため、フェアトレード認証を受けたゴマを一部使用した給食を提供しています。これらの活動によりフェアトレード製品の普及や市民の国際理解を深めています。



市制70周年の2024年(令和6年)は、5月に「逗子フェアトレードタウン・フォーラム2024～気候危機とフェアトレード～」を逗子フェアトレードタウンの会と協働で開催し、より一層フェアフェアトレードの知識や学びを深めました。

2025年(令和7年)には、3度目のフェアトレードタウン認定の更新を控え、今後逗子市が「フェアトレードタウン」の基準を満たすためには、推進組織である逗子フェアトレードタウンの会の自主的な活動だけでなく、市としてフェアトレードタウンの支持を表明し、市民への普及を図る必要があるため、引き続き積極的な支援を行います。



2016年度(平成28年度)～

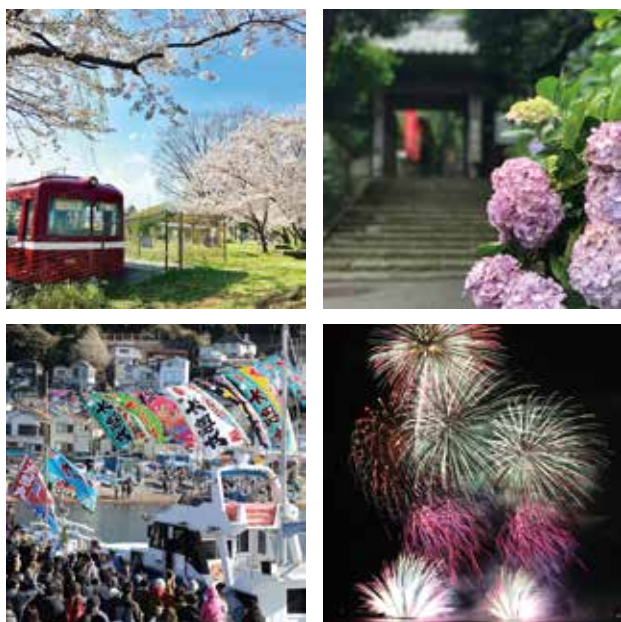
シティプロモーションの取り組み

2017年(平成29年)に策定したシティプロモーション戦略に則り、逗子市は様々な取り組みを行ってきました。

シティプロモーションサイトの開設

2016年(平成28年)に逗子市シティプロモーションサイト「逗子暮らし」を開設し、2018年(平成30年)に現在のデザインにリニューアルしました。逗子の魅力や移住者へのインタビューを掲載しています。

市公式Instagramの開設



2017年(平成29年)6月に市公式Instagramを開設しました。逗子で暮らす担当者が景色やイベントの様子を投稿しています。2025年(令和7年)1月末現在、フォロワー数は約1.9万人になりました。

逗子フォトの開設

2017年(平成29年)12月に逗子にまつわる写真を収集したサイト「逗子フォト」を開設しました。市職員や市民が撮影した写真をデジタル化し公開しています。写真は誰でも無料で利用でき、明治時代や大正時代などの白黒の



写真もあるため、お年寄りが昔の写真を見て思い出を語り合ったり、市民や事業者がイベントのチラシに使用するなど、様々な活用方法があります。現在、約1500枚の写真を公開しています。

広報大使の任命

2018年(平成30年)10月12日付で、石原良純さん、三浦豪太さん、山田姉妹の3組を逗子市広報大使に任命しました。これまで、山田姉妹と三浦豪太さんによるクリスマスコンサートを開催したほか、石原良純さんと三浦豪太さんには、広報ずしに記事を寄稿していただきました。

2016年度(平成28年度)

療育教育総合センターオープン、こども発達支援センター、教育研究相談センター業務開始



2016年(平成28年)12月12日、「療育教育総合センター」がオープンしました。療育へのニーズの高まりを受け、旧青少年会館を再整備してオープンした当センターは、「こども発達支援センター」と「教育研究相談センター」の二つの機関が同じ建物内にあり、福祉と教育が連携して、0歳から18歳までの切れ目ない支援を行うことが特徴です。

1・2階部分の「こども発達支援センター」では、障がいのある子どもや発達に不安があり支援を必要としている子どもとその家族への支援を行っています。



相談部門「ひなた」では、来所や市内の保育園・幼稚園、学校等への巡回による相談、心理・言語・作業療法等の専門スタッフによる個別支援、研修・講座等を通じた市民及び支援者への啓発等を実施しています。また、福祉のサービスを受ける際や、進学、就学等の場面で、本人の成長に関わるすべての人たちが共通認識を持ち一貫した支援ができるよう、育ちや支援の内容を保護者が記録する「ひなたファイル」の活用を促進を図っています。



療育部門「くろーばー」では、公募型プロポーザルで選定された、社会福祉法人県央福祉会に業務を委託し、児童福祉法に基づいた児童発達支援及び放課後等デイサービス等、専門的な療育の支援を実施しています。日常生活における基本動作の獲得や生活能力の向上のために、子ども一人ひとりの障がいや特性に

配慮した個別支援計画を作成し、家族と協働しながら支援を行っています。

3階部分の「教育研究相談センター」では、市の教育研究・相談の中心的な役割

を担う機関として、旧教育研究所の機能を引き継ぎ、教育に関する調査・研究、教育関係職員の研修の実施及び教育相談に応じています。また、教育支援センター「なぎさ」では不登校状態にある市内の児童・生徒に対し、自らの進路を主体的にとらえ社会的に自立することを目指し、援助や指導を行っています。



2016年度(平成28年度)～

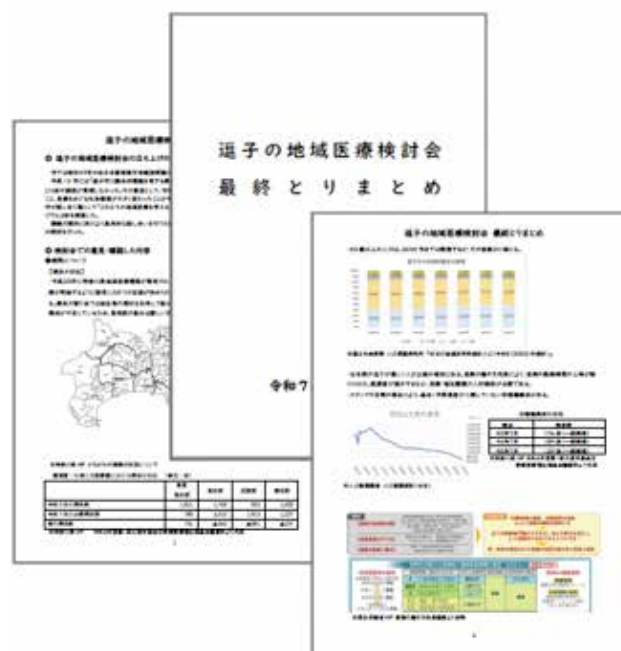
病院誘致から地域医療の在り方検討へ

逗子市は1998年(平成10年)から3回の病院誘致を行いました。いずれも断念という結果に終わりました。その後2016年(平成28年)に神奈川県から横須賀・三浦地域の二次保健医療圏において175の病床数の不足が公表されたことを受け、「総合的病院の誘致」を再開しました。

「病床数は170床以上(将来的に200床以上)」、「24時間365日救急体制」、「逗子市民が多く求めているとみられる重点的診療科目」等の応募条件を示し総合的病院を公募、逗子市総合的病院選考委員会において医療法人社団葵会を選考法人として決定し、2017年(平成29年)11月28日に葵会と病院の開設及び運営に関し覚書を締結しました。病院開設等事前協議の対象となる175床の病床数に対し、葵会は109床の病床が配分され、病院開設の許可申請を行い2018年(平成30年)に神奈川県から開設許可があり、2022年度(令和4年度)の開設を目指すことになりました。

しかし、「今後の病床確保の目途がたたない」、「医療従事者の確保」、「急性期病床の少なさ」等、早期に解決できない問題が明確となり、2020年(令和2年)7月15日、葵会との間で総合的病院誘致計画断念の合意書を締結し、4回目の病院誘致も断念となりました。

この経験を踏まえ、市民、医師会、行政で現状を共有し、病院も含めた地域医療につい



て話し合いを重ねることが重要であると考え、コロナ禍を経て、2022年度(令和4年度)に2回、「これからの地域医療を考える～地域医療の現状と逗子市に必要な地域医療とは～」と題したシンポジウムの開催が実現しました。

この後、2023年度(令和5年度)から2か年をかけ、公募市民と医療関係者等で構成された「逗子の地域医療検討会」において「すべての市民がこの逗子で安心して生活ができ、また人生の最期まで住み慣れた逗子で暮らすために必要な地域医療とは何か」について社会構造や医療をめぐる環境の変化を踏まえ検討し、これからの逗子市に必要な地域医療の資源や連携体制について意見をもらいました。

これからも市民や時代のニーズにあった誰もが安心して生活できる地域医療の実現をめざしていきます。



2016年度(平成28年度)～

神武寺トンネル拡幅工事完了、開通



神武寺トンネルは、県道横須賀逗子線の東逗子駅入口から県道金沢逗子線の池子駐在所までの、逗子市が管理する市道沼間5号のほぼ中間地点に位置します。

旧神武寺トンネルは、1966年(昭和41年)に、幅員6.8m、延長80.5mで供用が開始しましたが、約50年が経過し老朽化が進んでいました。暗くて歩道が狭いため人のすれ違いも難しく、整備を要望する声が多数寄せられていたことから、拡幅工事を実施することとなりました。改築後は、車道幅員片側3.0m 歩道幅員は60cmから2.0mになりました。

工事(名称：沼間5号神武寺トンネル拡幅工事)の概要は、トンネル延長127.0m、歩道及び車道幅員は、歩道部(両側)2.0m、車道部3.5m(1車線あたり)を整備するもので、総事業費は約12億2千百万円です。工事期間は2016年(平成28年)11月1日から2018年(平成30年)3月29日



となりました。期間中、車両は終日通行止めとなりましたが、歩行者は既設トンネル坑内に設置する鋼製の仮設トンネル(プロテクター)内を通行しました。皆様のご協力もあり、工事は無事故無災害で滞り無くしゅん工を迎え、2018年(平成30年)3月30日に記念式典を開催して供用を開始し、現在に至ります。



2017年度(平成29年度)～

緊急財政対策本部の設置と 財政対策プログラムの実施

2017年度(平成29年度)予算の歳出規模を維持した場合、2018年度(平成30年度)予算編成において財源が不足する見通しとなったことを受け、2017年(平成29年)6月に逗子市緊急財政対策本部が設置され、同年10月から財政対策プログラムを実施しました。

財政対策プログラム策定の経緯

少子高齢化が進む中、逗子市の2016年度(平成28年度)市税収入は10年前より約10億円減少していました。一方、収入の減少を補うため行財政改革によって財源を確保しつつ、子育て・教育施策の拡充、障がい福祉の充実、池子の森自然公園・第一運動公園整備などに取り組んでいました。

こうした中、2016年度(平成28年度)において地方交付税や地方消費税交付金などの歳入が予想を大幅に下回りました。また、財政調整基金も残高が1億円まで減少し、2018年度(平成30年度)予算において約7億円の財源が不足する見通しとなりました。このため緊急財政対策本部を立ち上げ、人件費の削減、事業の大幅な見直し、歳入の確保などに取り組むための財政対策プログラムを策定しました。

財政対策プログラムの実施結果

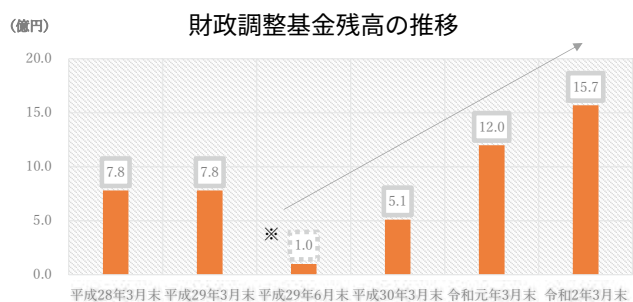
財政対策プログラムは、2022年度(令和4年度)までの計画としていましたが、全ての対象事業について、縮小、廃止、継続等の今後の方針を決定したこと、人件費及び事務事業費等の見直しが図られたこと、目標としていた財政調整基金の残高10億円を達成したことなどから、2019年度(令和元年度)をもって、財政対策プログラムを前倒しで終了しました。

財政対策プログラム集中対策期間
(平成30年度～令和元年度)の実施結果

(単位：千円)

	平成30年度 効果額	令和元年度 効果額	2カ年 合計額
(1) 人件費の削減	297,584	313,007	610,591
(2) 事務事業の見直し	262,821	246,575	509,396
(3) 国民健康保険事業特別会計 への法定外繰出金の削減	100,000	200,000	300,000
(4) ごみ処理広域連携による 歳入増と歳出減	59,450	85,215	144,665
(5) 受益者負担の見直し	0	12,200	12,200
財政対策による効果額	719,855	856,997	1,576,852
年度末財政調整基金残高	1,200,018	1,571,784	-
市債残高	19,162,198	18,333,174	-

(金額はすべて平成29年度との対比となります。)



※平成29年度当初予算は財政調整基金からの5億円の取り崩しを財源としたため、年度当初に5億円を取り崩しました。また、同年6月に補正予算の財源として1億8千万円を取り崩したため、残高が1億円まで減少しました。

財政対策プログラム終了時に掲げた財政運営方針

財政対策プログラムを経て、次に掲げる6つの方針を財政規律として堅持し、健全な財政運営に取り組んでいきます。

1. 歳出予算規模の縮小と経常的な歳入の獲得を図ります。
2. 「歳入に見合った歳出」を原則とし、経常的な歳入で経常的な歳出を賄う財政構造への転換を図ります。
3. 財政調整基金は極力取崩しを行わないこととします。
4. 市債の発行は極力当該年度の償還額を上回らないこととします。
5. 受益者負担の適正化を進めます。
6. 企業誘致・起業促進による新たな歳入の獲得を図ります。

2018年度(平成30年度)～

東京オリンピック スペインセーリングチームとの交流



逗子市、スペイン王立セーリング連盟、株式会社リビエラの三者は、2018年(平成30年)9月に東京オリンピック事前キャンプに関する協定を締結しました。スペインチームへのサポート体制を整えるとともに、交流イベントの開催などで、国際交流やオリンピックの機運を高め、これを契機にスペインセーリングチームを応援するホストタウン登録を行いました。

「スペイン応援キャンペーン」用のロゴには、情熱の太陽をモチーフに、スペイン国旗の色である赤と黄色、逗子の海をイメージした青を採用、そして応援ポロシャツにはスペインを思わせる情熱の赤一色を使用しました。



市長、スペイン応援キャンペーン2020

また「応援店」や「市民応援団」「市民ボランティア」を募集し、スペイン料理やワインの取り扱い、スペイン語講座

の開講、ヨット教室の開催などを行い、地域全体でスペインやセーリングの知識を深め、スペインチームを応援するための数々の取り組みを行いました。

2019年(令和元年)8月12日には、リビエラ逗子マリーナにて事前キャンプを行っているスペインセーリングチームと市民との交流行事を、逗子アリーナで行いました。ヨットの展示、パラスポーツ(ボッチャ)などの体験のほか、スペインセーリングチームの選手が参加し、東京五輪音頭-2020-と一緒に踊り、交流を深めました。また8月23日にはリビエラ逗子マリーナにて歓迎会も開催しました。

新型コロナウイルスの影響により、東京2020オリンピックは1年延期となりましたが、2021年(令和3年)3月1日～16日には、フラメンコグループによるオンラインステージや

Zoomを使ったオンライン講演など、企画内容を工夫しながら開催しました。スペインセーリングチームとの交流事業などに協力するために集まった100名を超える市民ボランティアによるスペイン祭りはその後も開催され、オリンピックレガシーとして引き継がれています。

2021年(令和3年)7月から開催したオリンピック競技大会セーリング競技において、スペインチームは470級男子、Finn級男子の2種目で銅メダルを獲得しました。たくさんの応援ありがとうございました。



交流会、逗子アリーナ：2019.8.12

2019年度(令和元年度)～

新型コロナウイルス対応の経済対策

新型コロナウイルス感染症の蔓延は、外出自粛や営業制限による顧客の減少、感染予防対策にかかる追加コストの発生など、地域経済に大きな影響を与えました。こうした落ち込みを立て直すため、市では地域商品券の発行や中小事業者への補助金の交付、相談窓口の拡充などを行いました(下記表を参照)。

中でも経済効果が大きかったのは、逗子応援プレミアム付き商品券の発行です。2020年(令和2年)11月に発行した逗子応援プレミアム付き商品券は、プレミアム率30%で市民及び来街者に販売しました。また、逗子応援クーポン券として、市民一人につき2,000円分のクーポン券を配付し、市内での消費喚起を促し、事業者の支援を行いました。2021年(令和3年)11月には、アプリとカードを用いて利用できる逗子応援プレミアム付き電子商品券(アプリはプレミアム率30%、カードは25%)を発行しました。

これらの商品券は、飲食店や市内スーパーだけではなく、マリンレジャーや習い事など、利用者の生活に密着した様々なジャンルで利用でき、その数は2020年が約500店以上、2021年が約300店以上でした。また、それぞれ

利用期間が約4カ月という短い中、2020年は約5億円分、2021年は約3億円分の利用がありました。

加えて、逗子市商工会では、事業者の資金繰りや経営改善などの相談に応じるため、2021年(令和3年)1月から相談窓口を増設しました。特に好評だったのは、中小企業診断士による、より専門的な助言や、行政書士による協力金・給付金等の申請支援等で、令和5年度の終了時まで延べ856事業者が利用しました。また、市でも事業者からの相談を受け付け、複雑な国や県の支援制度や手続きに関する問い合わせが相次ぎました。

以上の経済対策は、地域事業者の売上回復や住民の生活の安定などに億を超える経済効果を生み、市民と事業者、それぞれに価値がある事業となりました。

市が実施した経済対策

年度	経済対策
2020	・逗子応援クーポン券 ・逗子応援プレミアム付き商品券 ・新型コロナウイルス感染症拡大防止協力金 ・逗子市中小企業者等事業継続応援給付金 ・逗子市中小企業者等家賃支援金 ・逗子市事務所等家賃減額助成金 ・経営に関する相談受付体制強化(市、逗子市商工会、2023年度まで)
2021	・逗子応援プレミアム付き電子商品券 ・商店等新しい生活様式対応支援事業補助金
2022	・逗子市小規模事業者等活性化補助金



プレミアム付き電子商品券カード



2020年11月10日、商品券を求め並ぶ人々。即日完売した

2019年度(令和元年度)

令和元年台風15号、19号による被害



台風15号は、2019年(令和元年)9月8日から9日にかけて、台風19号は、同年10月12日から13日にかけて関東から東北地方を縦断し、各地に大きな被害をもたらしました。逗子市においても、暴風雨により市内全域で倒木や土砂崩れが発生し、鉄道会社による電車の計画運休や、小坪トンネル、久木トンネル及び池子トンネル等で土砂崩れが発生したことにより道路が通行止めとなり、一部バス路線の変更が生じるなど、市民生活に大きな影響がありました。

台風15号では、倒木により桜山の配電施設が損傷したことで、一部の地域で最大55時間の停電が発生しました。その数はおよそ4,900軒にも及び、残暑が厳しい中で熱中症が心配されました。この停電では、一部地域での断水も発生し、広域応援による給水車で応急給水活動を準備するなどの対応をしました。市内のスーパーマーケットでは、水やパンなどの食料のほか、養生テープなどの工具が売

り切れ、平常時から災害に備えることの大切さを改めて実感させられました。

台風19号接近時には、午前10時に避難所を5か所開設しましたが、市民交流センターには開設前から避難者が20人ほど並び、11時過ぎには100人を超えました。その後も、避難者が増え続けたため、避難所を増設し受け入れをおこないましたが、乳幼児のいる家族や高齢者の方、ペット同伴の方など、様々な世帯の方々が来られ、市内の避難所全体では、約730名もの多くの市民の方々が避難されました。

市内全体でみると、高潮により国道134号線が一時通行止めになるなどがあったものの、人的被害や大きな建物被害はほとんどありませんでしたが、市民交流センター・逗子小学校体育館への避難者は約420名にも及びました。22時ごろから風雨が弱まり、帰宅者も出始め徐々に人数も減ったことから、避難所内での問題は特に発生しませんでした。予想を上回る避難者数に、課題が残る出来事となりました。



2019年度(令和元年度)～

頻発する崖崩れとその対応



逗子市は、三方を山に囲まれ一方が海に面している自然豊かなまちです。しかし一方で、崖崩れのような自然災害が起こる可能性と隣り合わせにあり、それらと常に向き合いながら生活しなければならない一面もあります。最近の崖崩れは複雑な起因で発生しており、今まで想定していなかったところの崖崩れもあります。特に2019年(令和元年)から2、3年の災害が著しいものでありました。

2019年(令和元年)5月21日に起きた最大1時間雨量20mm、最大24時間雨量85mmの豪雨により、新宿5丁目の市道及び神奈川県道路公社の道の駅「ロードオアシス」に背後の崖から約360m³の土砂が崩落し、道路施設と停車していた車両が損傷する被害が生じました。後に国の補助金を充当し災害復旧事業として



法面安全対策工事を施しました。工事中の2020年(令和2年)7月19日にも、隣接箇所でも更に幅約40m、最大高さ約35mの土砂崩落が発生しましたが、幸いにして人的被害はありませんでした。この災害復旧事業は、逗子海岸のどこからでも目視ができるほどの大規模な法面保護工事になりました。

2019年(令和元年)9月9日の台風15号による影響(総雨量149.5mm、時間最大雨量38.5mm、最大瞬間風速約36.8m/s)は、市内約4,900件の停電と崖崩れや倒木等に伴う道路通行止め等が多数生じました。また、同年10月12日の台風19号による影響(総雨量174.0mm、時間最大雨量22.5mm、最大瞬間風速約33.6m/s)は、市内約1,166件の停電と冠水や高潮による道路通行止め等が多数生じました。

2020年(令和2年)2月5日に池子2丁目のマンション敷地内の斜面地が崩れ、市道を通行中の高校生(当時)が巻き込まれ尊い命が失われました。また、同年4月24日は、小坪4丁目の海浜地を散歩していた市民が土砂崩落に巻き込まれました。

2021年(令和3年)7月3日には、豪雨の影響により逗子インターチェンジ付近の高速道路用地内の土砂が崩落し、通行中の車両及び付近の市道や横浜横須賀道路が被災しました。

尊い命が失われた事象を受け、2020年(令和2年)2月12日にホームページのトップバナーから、情報提供していただくツールとして「市民通報メール」を開始しました。道路の損傷や不安な法面、支障木や草刈り対応要望等、提供される内容は様々であります。特に職員のパトロールだけでは把握しきれない箇所の状況等を前もって知り、能動的に対応できることは効果的です。

毎年、職員で主要な市道並びに市立小中学校施設に接する土砂災害警戒区域に指定され



ている個所の点検・調査を実施しています。2020年度(令和2年度)は緊急点検として、翌年度以降は定期点検として実施し、調査員が同じ場所を定期的に点検し斜面地の変化を気付くようにしております。2021年(令和3年)3月11日に相互協定を結んだ一般社団法人地盤品質判定士会には、崖地対策等のアドバイスを受け、点検実施前に斜面地点検のポイント講義のほか、点検にも随行していただいています。

また、民間事業者と連携して、斜面崩壊の予兆を検知する高速通信を利用した実証実験や、地球観測衛星データを利用した市内の崖地崩壊予兆抽出の研究も実施しましたが、残念ながら新規事業に結びつく結果は得られていません。

一方で、民有地の崖地対策や樹木の管理を促すための防災工事費助成制度があります。多くの方に利用していただくよう、2020年度(令和2年度)に補助金を工事費2分の1の上限80万円から200万円に拡充し、2021年度(令和3年度)には危険木の伐採の補助を復活しました。補助対象者を拡充するため、ニーズに応じて要綱の改正も行っています。

このように、安全安心のまちづくりを進めるためには、崖崩れの災害に対応したハードとソフトの対策を継続していくことが重要です。



2020年度(令和2年度)

新型コロナウイルス感染症の感染拡大と対応 ～逗子市における新型コロナウイルス感染症対策について～

■新型コロナウイルス感染症対策

2020年(令和2年)4月7日、国は、新型インフルエンザ等対策特別措置法に基づき、新型コロナウイルス感染拡大防止に向けて「緊急事態宣言」を発出し、緊急事態措置をすべき区域の一つに神奈川県が指定されました。本市では、相談窓口一本化のため、5月1日から新型コロナウイルス感染症対策担当窓口を新設しました。この窓口では一般的な相談や、市民及び事業者への給付制度に関する相談等に対応しました。また、同時期に一人10万円の特特定額給付金についても、少しでも早く市民の皆さまに届けられるよう、庁内で特別体制を組みました。



また、別冊広報ずしや防災行政無線、ホームページ、防災・防犯メール、広報車等を活用し、市民の皆さまに不要不急の外出を控えるようお願いすると共に、市内での必要な外出時におけるリスクを可能な限り減らすため、公共施設の休館等に加え、市外からの利用が想定される施設の駐車場を閉鎖するなど、市民の皆様にはご理解、ご協力をいただきつつ、感染防止に努めました。

このような中でも、災害はいつ起こるか分かりません。令和元年台風15号、19号の際には、避難所のスペースが足りなくなり避難者であふれてしまった背景もあり、また避難所での三密(密閉、密集、密接)を避けるためにも、

従来の避難所を拡大し、市内の小学校及び逗子アリーナを新たに指定するなどし、複合災害に対応しました。同年10月には、備蓄品として、体温計、防護服、手袋、アルコール、パーテーション、大型扇風機等を購入し、感染症対策が効果的に行えるように避難所備蓄品の見直しを行いました。



■新型コロナワクチン接種の概要

新型コロナウイルス感染症の感染拡大を図るため、2021年(令和3年)2月17日から、予防接種法上の特例臨時接種として16歳以上の方に対する接種が認められ、医療従事者への優先接種が開始されました。

逗子市では、厚生労働省の指示のもと神奈川県の支援を受け、福祉部内にワクチン接種特別チームを設置し準備を進め、5月10日から市民交流センターにて集団接種を開始しました。6月2日には、体験学習施設スマイルに第2接種会場を開設、7月1日からは市内の医療機関における個別接種を開始しました。

接種の実施に当たっては、(一社)逗葉医師会および逗葉薬剤師会などの協力が不可欠でした。特に集団接種会場には、毎日、医師2名、看護師4～5名、薬剤師2名に来ていただき、予診、接種、注射器へのワクチン充填などを実施しました。

また、希望するすべての方が迅速に接種を受けられるよう、市では様々な工夫を凝らしました。その一つである、予約の空白やキャンセルによりワクチンに余りが出た場合に、すぐに接種に応じてくれる協力者を募集する取り組みは、ワクチンの廃棄を防ぐ取り組み

としてテレビや新聞などで大きく取り上げられ、212件の協力接種が行われました。

この全額公費負担による特例臨時接種は、2024年(令和6年)3月31日まで7回実施され、延べ209,544回の接種を行いました。

接種者数

(人)

	対象者	1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	6回目	7回目
逗子市接種者数	61,058	48,696	48,454	41,612	29,530	20,071	12,578	8,603
うち65歳以上	21,118	19,048	18,957	18,016	16,303	14,215	10,727	7,872

オミクロン株対応ワクチンの接種者数 (人)

	対象者	接種者数
逗子市接種者数	61,058	39,641



2020年度(令和2年度)

逗子町分離独立70周年と銘板の寄贈



独立運動とその軌跡

1941年(昭和16年)、横須賀市は軍事都市の様相を色濃くしていました。横須賀市に接する三浦郡逗子町にも本土決戦に備えて町内各所に海軍工廠の宿舎が建設されるなど、海軍の影響が強くなり、1943年(昭和18年)4月1日、逗子町議会の承認も得られないまま、逗子町は軍の意向に沿う形で横須賀市に強制合併されました。

終戦後、逗子の人々には、戦時中海軍の圧力で一方的に横須賀市に併合されたことの是非を問いたくそうとする思いが広がっていました。

1948年(昭和23年)7月に地方自治法が改正され、戦時中に強制的に合併された市町村は住民の意思によって元の姿に戻ることが可能になりました。その条件は2年の期限(1950年(昭和25年)7月末まで)と以下の3項目でした。

- ① 旧逗子町の有権者の1/3以上の署名
- ② 同有権者の投票において有効投票数の過半数の賛成票
- ③ 神奈川県議会にて賛成決議

1949年(昭和24年)10月、逗子文化青年団の山口茂氏の発意により「逗子の分離独立は是か非か」という議題で討論会が開かれました。逗子選出の横須賀市議会議員や逗子在住の参議院議員らは、分離独立は時期尚早だと結論づけました。しかし、独立に賛成する20名程で「逗

子独立期成同盟会」を発足し、地方自治法の規定による期限(1950年(昭和25年)7月まで)が迫る中、本格的な分離独立運動が始まりました。同盟会の結成から約半年余りで、分離独立までの3つの条件を達成し、1950年(昭和25年)7月1日、横須賀市逗子町から三浦郡逗子町への分離独立が実現しました。

逗子町独立から70周年

分離独立から4年後の1954年(昭和29年)4月15日の市制施行で、三浦郡逗子町は逗子市となりました。2020年(令和2年)で逗子町独立から70周年の節目にあたり、市主催の記念イベントを開催しました。

銘板の寄贈

2022年(令和4年)3月30日、当時の独立運動の中心人物であり、逗子の分離独立を後世に伝えるため設立された逗子独立奉賛会会長の山口茂氏から「分離独立運動の沿革が記された銘板」が市に寄贈されました。



2021年度(令和3年度)

山の根踏切の廃止

JR逗子駅の約300メートル東側に、横須賀線等を横断する山の根踏切がありました。山の根踏切は、警報機や遮断機のない第4種踏切であり、横須賀線と貨物、留置線の9線をまたぐ全長35.5mの踏切でした。横断線数が多く踏切延長が長い、複雑に電車が通過する踏切であり、1987年(昭和62年)、2005年(平成17年)と人身事故が起きていました。JR逗子駅付近には遮断機、警報機がある第1種踏切の金沢新道踏切があるものの、近隣住民は少しでも近道となるこの山の根踏切(JR東日本の私道)を生活道路として利用していました。

危険な踏切が現存することで、廃止を念頭にJR東日本は市と話し合いを続けていましたが、2019年(平成31年)3月に高齢男性が列車にはねられて死亡する事故が発生しました。JR東日本は、注意喚起の看板やカラー舗装等の新設、列車通過時は警笛を鳴らすなど、緊急的な対応を実施しましたが、その後も列車が非常停止する事象は頻発しました。

市は、住民らの意向を受けて当該踏切に遮断機などを設置して第1種踏切にするよう要



望しましたが、JR東日本は様々な検討を重ねた結果、県道に接する踏切北側には機器の設置や歩行者が滞留する余地がなく物理的に難しいことなどから、安全を確保した踏切とすることができないため、当該踏切の廃止を決断しました。

JR東日本は近隣住民等関係者を集めて何度も話し合いの場を設けたものの、全員の合意が得られない中、市としても死亡事故や列車が非常停止する危険な事態が続いていたことにより廃止はやむを得ないと判断、2021年(令和3年)8月20日午前1時をもって山の根踏切は廃止されました。

2021年度(令和3年度)

10億円の寄附による 給付型奨学金制度の創設



2021年(令和3年)12月、本市ご出身の渡邊利三氏から本市在住の大学生を対象とする奨学基金設立のため、10億1,000万円の寄附を受けました。この寄附金を原資として、本市は2022年(令和4年)1月に一般財団法人逗子市渡邊利三奨学金財団を設立し、奨学金支給事業を開始しました。

渡邊さんは、ご自身が大学に進学した際、本市から寡婦家庭を対象とする資金援助を受けたことから、本市での奨学基金の設立を提案されたもので、輸入販売事業やコンサルティング事業等を手掛けられた後、現在は教育財団事業に取り組み、多くの学生の留学支援を行っていらっしゃいます。

逗子市渡邊利三奨学金財団の運営は寄附金の運用益により行われており、将来に渡って本市在住の大学生に返済の必要のない給付型奨学金の支給を行っていくもので、2023年(令和5年)には公益認定を受けました。奨学金は、国内外を問わずリーダーとして活躍したいという高い志を持ち、かつ経済的理由により就学困難な学生を対象として、これまでに延べ34人へ、合計2,448万円を支給しています(令和7年3月時点)。毎年初夏に開催される奨学金受給者認定証授与式は、学生同士の交流の



場となっており、渡邊氏や市長、財団理事に大学生活の目標や海外留学の夢を語る学生の姿も見られます。

この奨学金制度をとおして、本市から世界へ羽ばたく人材が生まれることを願っています。



2021年度(令和3年度)～

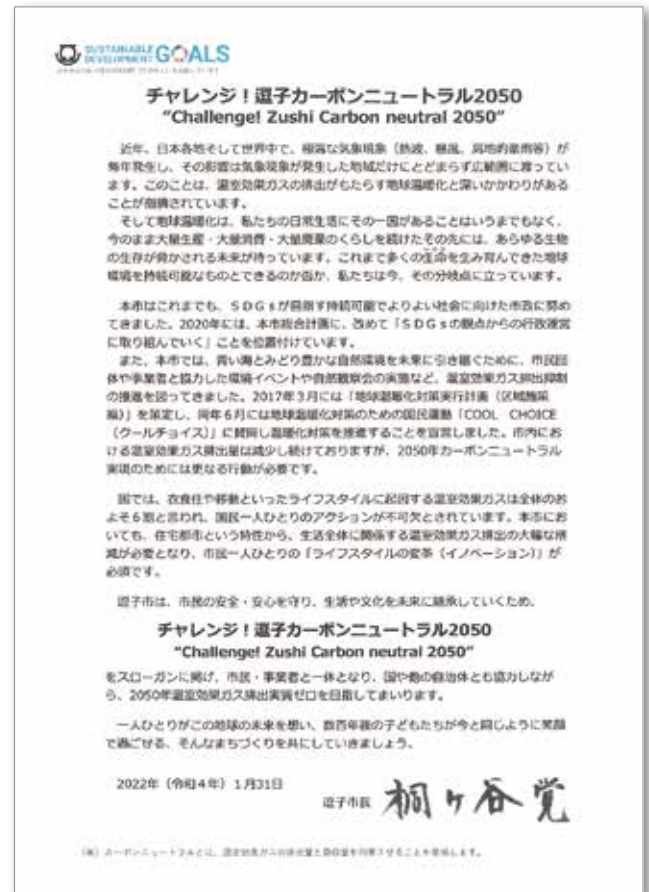
チャレンジ！ 逗子カーボンニュートラル2050



衣食住や移動といったライフスタイルに起因する温室効果ガスは全体のおよそ6割と言われ、国民一人ひとりのアクションが不可欠とされています。本市においても、住宅都市という特性から、生活全体に関係する温室効果ガス排出の大幅な削減が必要となり、市民一人ひとりのライフスタイルの変革(イノベーション)が必須です。

本市では、市民の安全・安心を守り、生活や文化を未来に継承していくために、2022年(令和4年)1月31日に「チャレンジ！逗子カーボンニュートラル2050」を宣言し、市民・事業者と一体となり、国や他の自治体とも協力しながら、2050年温室効果ガス排出実質ゼロを目指しており、市所有施設における再生可能エネルギー100%電気の導入促進、カーボンニュートラル推進支援制度による、再エネ、省エネ、及び蓄エネの促進、電気自動車(EV)の普及促進、市民団体と連携した環境啓発活動の実施及び子どもたちに対する環境教育などに取り組んでいます。

2023年(令和5年)2月13日には、電気自動車(EV)を新規導入し、平日は公用車として使用、土日などの休日は地域住民等へのシェア



リングを行う「公用車を活用したEVカーシェア」を開始しました。市庁舎は再生可能エネルギー100%電気を導入しているため、走行時の二酸化炭素排出量がゼロのドライブ「ゼロカーボンドライブ」を実現しています。環境負荷軽減を図るだけでなく、公共交通機関の利用促進とともに、自家用車に頼らずとも生活できる環境づくりなど地域モビリティへの貢献、さらには動く蓄電池として災害時の活用を期待しています。



2022年度(令和4年度)

逗子市男女平等参画及び多様性を尊重する社会を推進する条例の制定

全ての人が、性別等に関わらず個人として尊重され、多様性を認め合い、あらゆる分野に平等に参画できる男女平等参画及び多様性を尊重する社会を推進するため、「逗子市男女平等参画及び多様性を尊重する社会を推進する条例」を制定し、2022年(令和4年)10月1日から施行しました。条例では、基本理念を定めたほか、市・市民・事業者・教育関係者の責務、施策推進のための市の計画や苦情等への対応について規定し、禁止事項等を定めています。

条例の主な特徴として、できる限り親しみを持ってもらえるように、前文はですます調を採用しています。また、未だ男女格差が根強く残っていること、全ての世代にわかりやすい表現を考慮し、男女という表現を残しました。

他にも、男女共同参画という表記には、どちらかの性が補助的に関わることも容認されるという誤解を生むおそれがあることから、



偏りをなくし、男女間における平等な参画を目指すため、男女平等参画という表現を用いています。さらに、性的少数者などの多様な性や障がいの有無、国籍等の多様性を尊重することは男女平等とも密接に関係することから、これらを包含する多様性を尊重する社会を推進することを条例名に並記しています。

また、条例の制定に先駆け、2020年(令和2年)4月からパートナーシップ宣誓制度を開始しています。これからも私たちの住む逗子市が、住みやすいまち、豊かで活力のあるまちとして発展していくため、性別等、年齢、障がいの有無又は国籍など、それぞれの違いや共通点を認め合い、誰もが孤立せず、自分らしく生きることができる社会を目指します。



2022年度(令和4年度)

「温かくおいしい給食へ」 中学校給食を食缶方式に

逗子市では、約3年間の検討・準備期間を経て、2014年(平成26年)10月に市内3中学校において、ボックスランチ方式によるデリバリー給食の提供を開始しました。

ボックスランチ方式のメリットとしては、イニシャルコスト及びランニングコストが低いこと、小スペースで配膳等が可能であること、配膳時間が短くて時間割への影響が少ないこと等が挙げられる一方で、デメリットとして、食中毒を防ぐために、一度調理したおかずを冷ましてからボックスに詰めて配送する必要があるため、温かい給食の提供は基本的に難しいという課題がありました。

生徒や保護者から小学校と同じような食缶による温かい給食を求める声が上がるとともに、アレルギーへの対応ができないことや残食率が課題となっていました。

このような中、2017年(平成29年)3月、逗子市議会において「温かくおいしい中学校給食を求める決議」が採択されたことを受け、食缶方式による「温かくおいしい給食」の提供に向けた検討を開始しました。

食缶方式導入にあたっては、配膳に関して学校現場で懸念される課題もありましたが、

市長、教育長、教育委員会職員、校長に加え、市議会議員の有志で他自治体の現場を視察し、実際の手運びによる配膳・片付けにかかる時間を計測したり、給食に要する時間変更に伴う時程変更の検討を行ったりすることにより、2022年(令和4年)9月から食缶方式をスタートさせることができました。

給食は、栄養を摂るだけでなく、食事に感謝することや楽しく食べることの大切さを学ぶ機会です。ボックスランチ方式から食缶給食へ移行することで、生徒が望む「温かくておいしい給食」を提供し、アレルギー除去食にも対応することで、従前の方式では叶わなかった全員喫食への移行を実現し、より充実した給食の時間を提供していくことになりました。

3年目を迎えましたが、現在まで大きな混乱もなく、生徒は温かい給食を楽しみにしています。そこには、生徒による運搬配膳、喫食、片付けという、学校給食の原風景が広がり、給食の時間が大切な学校活動であることを改めて実感しているところです。

これからも引き続き、安心安全で、美味しい給食の提供に努めてまいります。



2023年度(令和5年度)

逗子葉山高等学校の開校



県の県立高校改革実施計画に基づき、逗子高等学校と逗葉高等学校が再編・統合し、2023年(令和5年)4月に逗子葉山高等学校として開校しました。市内唯一の県立高等学校となり、校舎は旧逗葉高等学校の敷地・施設を活用しています。

新校の校舎内には、逗子高等学校の同窓会が中心となり高等学校の歴史をまとめた校史資料室を設置。逗子高等学校の廊下に飾っていたトロフィーや盾、記念誌やアルバムを集め展示してあります。また、校史資料室の隣の学習室には、逗葉高等学校時代の体育館にあった校歌額や校銘板が展示してあります。

新しい校歌は、生徒有志と逗子在住のアーティストにより制作されました。校歌に入りたい単語や文章を生徒から集め、逗葉高等学校の通学路の桜並木に逗子高等学校のシンボルであった秀麗桜と、両校の共通点の「桜」を取り入れ歌詞を作り上げました。この新校歌は2022年(令和4年)12月に「逗子潮風芸術祭(逗子文化プラザなぎさホール)」で披露されました。また、地域に開かれた高等学校として、図書館開放を行っています。これは、逗葉高等学校時代から引き続けている取り組みです。

逗子高等学校

逗子高等学校は、1922年(大正11年)に逗子町立逗子実科高等女学校として創立。1954年(昭和29年)逗子市立逗子高等学校と改称、翌年には県立となり、1959年(昭和34年)の男女共学化を経て、2022年(令和4年)には創立100周年を迎えました。2023、2024年は、旧校舎を逗子アートフェスティバルの会場の一部として使用しています。



逗葉高等学校

逗葉高等学校は1978年(昭和53年)創立。当初は追浜高等学校の敷地において開校し、翌年の春、現在の逗子市桜山に移転。2022年(令和4年)には創立45周年を迎えました。現在、逗葉高等学校の校舎は、逗子葉山高等学校として新しい歴史を刻み始めています。

2023年度(令和5年度)

小児医療費助成制度の拡充・無償化



逗子市では2023年度(令和5年度)4月診療分より、健康保険の自己負担分を助成する、小児医療費助成制度を拡充しました。保護者の経済的負担を減らし、児童の健康の増進を図る健全な育成を支援するため実施している制度です(※他の公費負担制度、高額療養費や育成医療、健康保険組合からの付加給付等の医療費給付制度が優先となり、それらの制度の適用後、保険診療についての残額がこの制度の給付の対象となります)。

従来、年齢制限と所得制限がある制度でしたが、更なる子育て支援の充実を図るため、2023年(令和5年)4月から中学3年生までだった対象年齢が18歳まで引き上げられ、これまで設けていた所得制限も撤

廃されました。これによって、医療費は2023年度(令和5年度)4月診療分より、0歳から18歳に達した日以降の最初の3月31日まで助成されることとなりました。

小児医療費助成制度について

お子さんが医療機関にかかったとき、保険診療分の自己負担額を市が助成する制度です。マイナンバーカードと医療証を医療機関に持参すると負担額が無料になります。(保険診療分のみ)

【問い合わせ先】逗子市子育て支援課 046-873-1111(代表)

対象者等 逗子市に住民登録のあるお子さんと、0歳から18歳に達した日以降の最初の3月31日まで

申請に必要なもの

- ☆ 窓口にいらいっちゃんの方の写真付きの本人確認書類(マイナンバーカードや運転免許証等)
- ☆ マイナンバーがわかるもの(市外に住民登録がある場合のみ必須)
- ☆ 対象のお子さんの資格確認書(マイナ保険証の利用登録をしていない方のみ)

助成対象外の費用

- ☆ 他の制度で助成をうけている医療費
- ☆ 入院時の食事療養費
- ☆ 保険診療外の医療費(検診料など)
- ☆ 交通事故等で他に責を問うものにかかる医療費

もうすぐ期限が切れるとき

医療証はお誕生月末で更新となります。次の1年間有効の医療証は逗子市から郵送します。

届出が必要なとき

- ☆ お子様が生まれたとき ☆ 転居したとき
- ☆ 加入保険や医療証の記載事項が変わったとき
- ☆ 紛失等により再交付をうけたいとき

医療証が使えなかったとき

医療証の対象期間に市外での受診等のため、保険診療分の自己負担額を支払ったときは払い戻しの申請が可能です。次のものをご持参のうえご申請ください。

(申請期間: 診療日の属する月の翌月から2年以内)

- ☆ 対象のお子様の医療証 ☆ 領収書
- ☆ 返込を希望する口座番号等の分かるもの(保護者の方の口座)
- ☆ 100%以上自己負担した保険適用の診療分はこちらも必要です
- ☆ 保険組合からの払い戻し額がわかるもの

小児医療費助成事業の変遷

施行日	所得制限	対象年齢
平成7年10月1日	あり	0歳から満3歳に達した日以後最初の3月31日までにある者
平成14年5月1日	あり	0歳から満4歳に達した日以後最初の3月31日までにある者
平成15年5月1日	あり	0歳から満5歳に達した日以後最初の3月31日までにある者
平成16年10月1日	あり	0歳から満6歳に達した日以後最初の3月31日までにある者
平成22年7月1日	あり	0歳から満7歳に達した日以後最初の3月31日までにある者
平成26年7月1日	あり	0歳から満9歳に達した日以後最初の3月31日までにある者
平成27年10月1日	あり	0歳から満12歳に達した日以後最初の3月31日までにある者
令和元年10月1日	あり	0歳から満15歳に達した日以後最初の3月31日までにある者
令和5年4月1日	なし	0歳から満18歳に達した日以後最初の3月31日までにある者

2023年度(令和5年度)～

小坪2丁目県有地の活用に向けた検討



■経緯

小坪2丁目県有地とは、1982年(昭和57年)8月に逗子市が神奈川県に対して県営住宅建設の要請を行い、1984年(昭和59年)5月に神奈川県が購入した土地です(所在地:逗子市小坪2-1042-1 面積:23,646㎡)。

1985年(昭和60年)から地域住民などにより県営住宅建設に対して反対運動が起こり、その結果、神奈川県は2000年(平成12年)に住宅建設を取りやめ、当該地の用途を廃止しました。その後は、神奈川県の普通財産として管理されてきました。

■方針転換への契機

その後、神奈川県からのたび重なる当該地の活用意向の確認に対し、本市として行政目的での活用の予定がなく、取得の意向はない旨を回答してきましたが、2023年(令和5年)3月に神奈川県から逗子市に対して当該地の民間売却の意向が伝えられ、神奈川県の動向が地域住民に伝わると、地域住民などにより民間への売却方針の再考を求めて神奈川県知事に要望書と署名(累計10,211筆)が提出されました。

逗子市では、この間寄せられた民意を踏まえ、当該地が一定の目的の下で市の課題解決につながる活用の可能性があると考え、同年8月に市長が神奈川県副知事と面談し、当該地に係る市の意向を次のとおり伝えました。

① 当該地について逗子市が活用に向けた検討を行いたいこと。

② 検討のための時間的な猶予をいただき、この間は従来どおり神奈川県に管理をお願いすること。

これに対して神奈川県からは、「市の意向は受け止める。令和5年度末までに検討を終えてほしい。」との回答がありました。

■活用に向けた検討

逗子市では、説明会の開催や市民から提案を募集するなど活用に向けた検討を進めた結果、遊具などの整備を行わず、広く開けた土地を最大限生かして災害時に柔軟に対応できる公園として当該地を活用する前提で取得する考え方を示すと同時に、地域住民を含む市民や市議会への説明を行いました。

当該地を公園として整備する市の方針に対し、市民及び市議会からは大きな異論がなかったことから、令和6年度予算に当該地の公園設計等検討費用を計上して整備計画案の策定を進めるとともに、神奈川県と当該地取得に向けた協議を開始したところです(令和7年度当該地取得及び公園整備開始予定)。



2023年度(令和5年度)～

令和6年能登半島地震の発生とその支援

1 地震の概要

2024年(令和6年)1月1日(月)16時10分、石川県能登地方を震源とする令和6年能登半島地震(マグニチュード7.6、最大震度7)が発生し、北陸地方を中心に広い範囲で強い揺れを観測しました。また、この地震によって日本海沿岸では津波が発生し、石川県珠洲市や能登町で4m以上の津波浸水高を観測し、甚大な被害が発生しました。

また、石川県輪島市河井町では建物約240棟、焼失面積49,000平方メートルに及ぶ大規模火災が発生しました。

2 逗子市消防本部の対応

1月8日(月)8時00分、神奈川県が消防庁長官から緊急消防援助隊神奈川県大隊出動の指示を受けたことにより、消防本部は翌1月9日(火)、消火小隊1隊5名及び後方支援小隊1隊2名の計2隊7名を派遣しました。

9日朝、第1次派遣隊は神奈川県消防学校に集結し、神奈川県知事の激励を受けた後、県内消防本部78隊283名とともに被災地に向け出動しました。



翌10日(水)、神奈川県大隊の活動拠点である能登町の柳田植物公園に到着し、宿営地の設営や情報整理を行いました。

翌11日(木)以降から本格的な活動が開始され、輪島市内を中心に土砂災害現場や大規模火災現場での活動にあたりました。



被災地では、震度5程度の余震に加え、日本海側特有の強風や降雪等によって活動は困

難を極めました。が、要救助者の検索活動を始め、道路啓開や孤立集落の状況調査等を実施し、全隊員が無事に任務を終えました。

この震災で、消防本部は1月9日から1月26日までの18日間で、第1次から

第5次派遣隊まで延べ30名を被災地へ派遣するとともに、第4次派遣隊には、本市で初めてとなる女性隊員の活躍がありました。

なお、本市の緊急消防援助隊派遣については、2011年(平成23年)3月の東日本大震災(3月11日～20日、第1次～第3次派遣延べ15名)及び2021年(令和3年)7月の静岡県熱海市土石流災害(7月6日～12日、第2次～第4次派遣延べ20名)に次ぎ、緊急消防援助隊が2004年(平成16年)に制度化されてからは3度目の派遣となりました。

3 被災地への応援職員派遣状況

総務省は、2024年(令和6年)1月4日付けで「応急対策職員派遣制度」に基づき、神奈川県を石川県羽咋郡志賀町の「対口支援団体」に決定しました。それを受けて、神奈川県及び県内市町村による一体的な応援職員として、本市職員を派遣することとなりました。1月19日から3月28日まで、順次交代で延べ10名の事務職及び保健師が派遣され、避難所運営支援や罹災証明事務等に携わりました。また、6月から9月にかけては、応援派遣として石川県珠洲市及び鳳珠郡能登町へ延べ7名の職員を派遣し、被災地のニーズに応じた業務を行いました。



2024年度(令和6年度)

高橋睦郎さん文化勲章受章記念講演会・ 市民栄誉賞贈呈式



2024年度(令和6年度)文化勲章を受章した逗子市在住の詩人、高橋睦郎さんの記念講演会を、2025年(令和7年)2月2日(日)

に逗子文化プラザなぎさホールで開催しました。500名分の座席は予約で満席となり、当日は雨天にもかかわらず多くの方が会場に駆けつけました。能管奏者の市川太祐さんによる演奏とともに高橋睦郎さんご本人が詩の朗読を行い、続けて「逗子に住んで～こしかたゆくすえ～」をテーマとしてご講演いただきました。講演の後半では皆さんからの質疑にユーモアを交えて答え、高橋さんの人生観と気さくなお人柄に触れるひと時となりました。

また、講演会の後には、高橋さんの文化勲章受章をはじめとする数多くの功績とこれまでの活躍により、多くの市民に夢や希望を与えた栄誉を称えるため、2010年(平成22年)の岡田武史さん(元サッカー日本代表監督)以来二人目となる逗子市民栄誉賞の贈呈式を開催

しました。高橋さんは贈呈式でのご挨拶で「(市民栄誉賞を受賞して)今後の私は、市や市民の皆さんにとって、名誉となる行動をとらなければなりません。しかし、文芸や詩歌は、時に悪夢や絶望を与えることも重要な役割の一つで、不名誉なこと無しには成立しません。私がどこかで不名誉な行動をしても、どうかお心広く、見て見ぬふりをしてくだされば幸いです。」と話され、会場が笑顔に包まれました。



第3部

池子米軍家族 住宅地区の動き

About Ikego



池子の森自然公園の開園



2013年（平成25年）3月に策定した「（仮称）池子の森自然公園基本計画」に基づき、2014年（平成26年）6月から翌年にかけて自然環境調査を実施しました。その後、自然環境調査の結果や、米軍、関係機関等との調整結果を踏まえ、基本計画からの一部変更を経て公園整備を行いました。

2015年（平成27年）1月31日に池子の森自然公園の開園式典を開催し、同年2月1日にスポーツエリアを開園、1年後の2016年（平成28年）3月19日に緑地エリアを開園しました。

■スポーツエリア

池子の森自然公園内のスポーツエリアは有料の運動施設として陸上競技に使用できる400mトラック、野球場（大・小）及びテニスコートがあります。

2024年（令和6年）1月の第71回逗子市内一周駅伝競走大会からは、スタート地点及びコースの一部として利用されています。



■緑地エリア

緑地エリアは、約70年間人の手が入らず貴重な自然が残されていたため、2014年（平成26年）6月から約1年をかけて自然環境調査を実施しました。調査の結果、ユビナガコウモリやシュレーゲルアオガエルなどの希少種を含む多くの動植物が確認されたため、その豊かな自然環境を後世に残すべく、一度に多くの人が入ることで動植物の生息を脅かすことがないように、土曜日、日曜日、祝日に限定して、2016年（平成28年）3月19日に開園しました。

開園に際しては、一部立入制限区域を設け、動植物の採取、外来種の持ち込み、火気の使用の禁止などの、池子の森自然公園独自のルールを設けました。

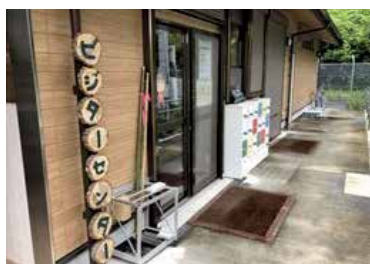
さらに、来園者のマナー違反を防止するため、市民が公園内を見回る「見守りサポーター」





を公募し、ボランティアとして公園内のルール啓発を行っています。

2017年(平成29年)4月には、緑地エリア入口にビジターセンターを開設し、池子の森自然公園の動植物の紹介や、メダカ、ホタルの生体標本、資料等の展示、池子の森の歴史の紹介



などを行い、来訪者に池子の森自然公園を知ってもらおうとともに、公園を快適に利用していただけるよう取り組みを進めました。

また、2022年(令和4年)4月からは、自然環境への影響などを検証する試行を経て、水曜日も開園日として利用者の利便性向上を図

り、現在に至っています。

今後も、自然環境と利用者の快適な公園利用のバランスを保ちながら、市として池子の森自然公園を維持管理してまいります。



逗葉地域医療センター・逗子市保健センター 進入路の返還



池子住宅地区及び海軍補助施設として米軍に提供している区域の一部であるこの道路は、2001年（平成13年）4月1日に開設した逗葉地域医療センター・逗子市保健センターへの進入路として整備したもので、日米での共同使用が認められており、市が市道（逗子市道池子133号、134号）として維持管理をしてきました。

逗葉地域医療センター・逗子市保健センターへの進入路の安定した通行を確保するために、翌2002年（平成14年）5月に当時の横浜防衛施設局及び関東財務局へ一部返還の申請書を提出しました。その申請から20年後の2022年（令和4年）12月14日に開催された日米合同委員会において、日米両国政府によりこの進入路が返還されることが合意されました。

その後、2024年（令和6年）8月29日に開催された日米合同委員会において、2024年（令和6年）11月30日までに、米側から日本に返還されることが日米両国政府により正式に合意されました。

2024年（令和6年）11月29日には、南関東防

衛局長から市に対し、11月30日に米側から進入路が返還される旨の通知が手渡され、翌12月1日に、逗葉地域医療センター・逗子市保健センターへの進入路が国から本市に譲与されました。

市としては、1978年（昭和53年）12月のマイクロ通信施設（第一運動公園隣接地、約0.13ha）以来の46年ぶりの4か所目の返還となりました。



2024年（令和6年）11月29日
南関東防衛局 末富 理栄局長から通知を受け取る桐ヶ谷市長



逗葉地域医療センター・逗子市保健センターへの進入路

米海軍イケゴ小学校と逗子小学校の親善交流



2023年(令和5年)10月19日に、池子住宅地区にある米海軍イケゴ小学校2・3年生と逗子小学校2年生が親善交流を行いました。

逗子小学校の児童は、校外学習の一環として実施しました。

当日朝9時ごろ、逗子小学校2年生約120名が京急神武寺駅米軍専用改札口から米軍池子住宅地区内に入り、米軍の案内のもと、地区内を10分ほど歩き、米海軍イケゴ小学校に到着し、2・3年生約70名の出迎えを受けました。

両校児童がそれぞれ6つのグループに分かれ、校内見学ツアー、カードゲーム、ダンス、工作など約3時間にわたって交流を行いました。途中、ランチルームで昼食をともにしました。

この親善交流は、米海軍イケゴ小学校の先生と逗子小学校の先生が知り合ったことがきっかけで交流するに至りました。このような小学校同士の交流は、2014年(平成26年)に米海軍イケゴ小学校が本格開校してから初めての試みとなります。

2024年(令和6年)2月28日に、今度は、逗



2023年(令和5年)10月19日
米海軍イケゴ小学校での親善交流

子小学校に米海軍イケゴ小学校の児童を招き、当小学校の2年生と米海軍イケゴ小学校の2・3年生が親善交流を行いました。当日は、グループごとに分かれて学校内探検、親睦を深めるための遊び等を行いました。

翌年度の2024年(令和6年)10月18日には、逗子小学校2年生が米海軍イケゴ小学校を訪問し交流を行っており、小学校同士の親善交流が続けられています。

池子米軍家族住宅地区の主なできごと



2015年（平成27年）

- 1月 31日 池子の森自然公園開園記念式典
- 2月 1日 池子の森自然公園開園（スポーツエリア）
- 6月 30日 池子の森自然公園環境調査完了
- 11月 14日 緑地エリアオープンデーに353人が来場
- 11月 14日 防衛省南関東防衛局主催「日米交流スポーツフェスタin逗子」を池子の森自然公園400mトラックで開催。市民と池子住宅地区から230人が参加

2016年（平成28年）

- 3月 19日 池子の森自然公園開園（緑地エリア）
- 5月 14日 第20回イケゴフレンドシップデーが池子の森自然公園400mトラックで開催。約3,700人が来場
- 5月 25日 「チャレンジデー」に池子住宅地区から665人が参加
- 6月 18日 田越川清掃に米軍関係者110人が参加
- 10月 7日 久木中・小学校共同運動場で実施された草刈ボランティアに初めて米軍関係者35人が参加
- 12月 1日 有料駐車場使用開始（70台）

2017年（平成29年）

- 2月 29日 池子の森自然公園施設整備年次計画策定
- 3月 18日 市民協研修会「池子の森の歴史ー接收前の池子の森の暮らしー」開催
- 4月 1日 池子の森自然公園緑地エリアビジターセンターの供用開始
- 4月 1日 池子の森自然公園緑地エリア久木側出入口の供用開始
- 4月 29日 第21回イケゴフレンドシップデーが池子の森自然公園400mトラックで開催。これまで最高の8,680人が来場
- 5月 31日 「チャレンジデー」に池子住宅地区から485人が参加
- 6月 10日 田越川清掃に米軍関係者75人が参加
- 9月 3日 逗子海水浴場の海の家において、米軍人による傷害事件発生
- 12月 9日 久木小学校で実施された側溝清掃ボランティアに初めて米軍関係者16人が参加

2018年(平成30年)

- 1月14日 逗子市内一周駅伝競走大会に米海軍チームがオープン参加
- 4月29日 第22回イケゴフレンドシップデーが池子の森自然公園400mトラックで開催。
5,300人が来場
- 6月 2日 田越川清掃に米軍関係者15人が参加
- 6月 6日 池子の森自然公園緑地エリア内で爆発の危険性はない弾殻が発見され、一時、公園への立ち入りが禁止された。
- 10月26日 逗子アートフェスティバル「池子の森音楽祭」に米海軍第七艦隊音楽隊が出演
- 11月14日 日米合同委員会で逗子市域に生活環境の向上のため、生活支援施設、運動施設、修繕用作業所及び消防署を整備することが合意された。
- 12月 1日 久木小学校側溝清掃に米軍関係者8人が参加

2019年(平成31年・令和元年)

- 3月23日 初めて、フレンドリー・トラック・ミート(陸上競技会)が池子の森自然公園400mトラックで開催。横須賀基地ミドルスクール(約80人)と市内の4中学校の生徒(約40人)が参加
- 4月28日 第23回イケゴフレンドシップデーが池子住宅地区内で開催。京浜急行神武寺駅改札口からの入退場を可能とした。
- 6月 2日 田越川清掃に米軍関係者5人が参加
- 6月25日 共同使用期間が延長となる。(2022年6月25日までの3年間)
- 8月31日 海岸清掃に米軍関係者20人が参加
- 9月 1日 泥酔した米軍人が、新宿1丁目レストラン駐車場に駐車していた他人の自家用車の窓ガラスを割るなどし、公務執行妨害により現行犯逮捕された。
- 10月26日 逗子アートフェスティバル「池子の森音楽祭」に米海軍第七艦隊音楽隊が出演
- 11月25日 共同使用公園の管理運営のための覚書及び共同使用公園運営指針の期間が延長となる。(2022年6月25日までの間)

2020年(令和2年)

- 3月28日 池子住宅地区に居住する米軍人2名が新型コロナウイルス感染症に感染したとの連絡が外務省及び米海軍横須賀基地から入った。
- 10月24日 逗子アートフェスティバル「池子の森音楽祭」に米海軍第七艦隊音楽隊が出演
- 11月27日 消防署整備工事の市条例の適用について、南関東防衛局長から文書で照会された。

2021年(令和3年)

- 2月17日 在日米海軍横須賀基地ジャレット司令官と新型コロナウイルス関連に係る情報交換を初めてオンライン会議で実施した。
- 9月 1日 池子の森自然公園緑地エリアを試行的に9月から毎週水曜日を平日開園した。その後、試行期間3ヶ月を令和4年3月まで延長した。
- 11月17日 逗子海岸清掃活動に米軍関係者25人が参加
- 12月18日 久木小学校側溝清掃に米軍関係者14人が参加

2022年(令和4年)

- 1月 7日 在日米海軍横須賀基地ジャレット司令官と新型コロナウイルス関連に係る会議をオンラインで実施し、要請と情報交換を行った。
- 3月 2日 大規模災害が発生した場合の広域応援活動拠点に、運動施設の一部を指定することが米軍から認められた。
- 4月 1日 米海軍横須賀基地池子支所主催のキッチンカーイベントが池子の森自然公園400mトラック入口前で初めて開催され、逗子市民も来場した。
- 4月 6日 池子の森自然公園緑地エリア平日(水曜日)開園開始
- 5月28日 田越川清掃に米軍関係者2人が参加
- 6月25日 共同使用期間が延長となる(2025年6月25日までの3年間)。同時に、管理運営のための覚書及び共同使用公園運営指針も延長となった。
- 7月 9日 新宿2丁目で米軍人による傷害事件が発生した。
- 11月 6日 逗子市民まつりが初めて池子の森自然公園400mトラックで開催。米海軍第七艦隊音楽隊が出演。在日米海軍司令部消防隊車両も展示。米軍関係者も多数来場
- 11月14日 修繕作業所及び生活支援施設整備工事に関する、まちづくり条例及び景観条例などの適用に対する照会文書が提出された。
- 12月10日 久木小学校側溝清掃に米軍関係者8人が参加
- 12月14日 日米合同委員会において、逗葉地域医療センター・逗子市保健センターへの進入路が日米両国政府により返還されることが合意された。
- 12月24日 逗子市主催「正月飾りづくり」のイベントが池子の森自然公園で開催され、米軍関係者約30人が参加

2023年(令和5年)

- 3月30日 利用者の生命、安全に関わる設備の整備が完了したので、池子の森自然公園施設整備年次計画の取り組みを終了する。
- 5月14日 池子小学校で実施された側溝清掃ボランティアに初めて米軍関係者25人が参加
- 6月 6日 生活支援施設整備工事に関する、まちづくり条例及び景観条例などの適用に対する照会文書が提出された。

- 10月19日 逗子小学校2年生が米海軍イケゴ小学校2・3年生を訪問し、親善交流を行った。2014年に米海軍イケゴ小学校が本格開校して初めての交流となった。
- 10月22日 逗子市民まつりが池子の森自然公園400mトラックで開催。米海軍第七艦隊音楽隊が出演、ハンバーガーやTシャツ等の物販、在日米海軍司令部消防隊車両も展示された。米軍関係者も多数来場
- 10月30日 仮設食堂新建設工事に、まちづくり条例及び景観条例などの適用に対する照会文書が提出された。
- 12月 9日 久木小学校側溝清掃に米軍関係者約40人が参加

2024年(令和6年)

- 2月28日 逗子小学校2年生が米海軍イケゴ小学校2・3年生を招待し、親善交流を行った。
- 4月12日 逗葉地域医療センター付近の池子川が白濁しているとの連絡があり、市が採水した白濁水を県が分析、有害物質についての調査結果は基準値未満であった。米軍も別途調査を行う。
- 4月21日 逗子市市制70周年記念式典に米海軍横須賀基地司令官、池子支所長、スタッフが招待参加
- 5月11日 桜山において米軍人による当て逃げ事故が発生した。
- 5月12日 池子小学校側溝清掃に米軍関係者18人が参加
- 5月25日 田越川清掃に米軍関係者32人が参加
- 8月29日 日米合同委員会が開催され、日米両国政府により、逗葉地域医療センター・逗子市保健センターへの進入路が11月30日までに返還されることが正式に合意された。
- 10月18日 逗子小学校2年生(約120人)が米海軍イケゴ小学校2・3・4年生(約100人)を訪問し、交流授業を行った。
- 10月19日 小坪小学校側溝清掃に米軍関係者15人が参加
- 10月20日 逗子市民まつりが池子の森自然公園400mトラックで開催。ハンバーガーやTシャツ等の物販、在日米海軍司令部消防隊車両も展示された。
- 10月31日 イケゴヒルズの夕刻のハロウィンイベントに、久木小学校から19人が招待参加
- 11月29日 南関東防衛局長より逗葉地域医療センター・逗子市保健センターへの進入路が11月30日に米側から国へ返還される旨通知された。
- 12月 1日 逗葉地域医療センター・逗子市保健センターへの進入路が国から逗子市に譲与された。
- 1月25日 久木小学校側溝清掃に米軍関係者26人が参加

第4部

年表 2015－2024

Timeline



2015年度（平成27年度）

- 4. 1 逗子市総合計画基本構想（2015－2038）、前期実施計画（2015－2022）スタート
- 4. 1 沼間小学校区、小坪小学校区コミュニティセンターオープン 図書館沼間・小坪分室業務開始
- 4. 1 ごかんのいえが小規模保育事業として開所
- 4. 11 小坪小学校区住民自治協議会設立
- 4. 12 神奈川県知事選挙 当日有権者数49,175人、投票者数20,588人、投票率41.87%
- 4. 15 市制記念日表彰（地域社会功労 2 団体・4 人、自治功労 2 人）
- 5. 27 自治体同士が参加率を競うスポーツイベント「チャレンジデー」（対戦相手：広島県三次市）
- 5. 29 第58回逗子海岸花火大会
- 6. 10 景観読本『まちなみデザイン逗子』が都市景観大賞「景観教育・普及啓発部門」で優秀賞を受賞
- 6. 20 ずし環境フェスティバル（6月20、21日）
- 6. 26 逗子海水浴場海開き式（8月30日まで）
同年、逗子海岸保全活用事業として「ワッシュョイ！逗子海岸」「逗子ビーチスプラッシュウォーターパーク」「NIGHT WAVE－光の波プロジェクトー」開始
- 7. 10 津波避難訓練
- 8. 2 逗子文化プラザホール開館10周年記念ホールオープンデー
- 8. 27 ずし平和デー（8月31日まで 会場：逗子文化プラザホール）
- 9. 26 逗子市総合防災訓練
- 9. 30 青少年会館、療育教育総合センターへの転用のため廃止
- 10. 1 家庭ごみ処理有料化スタート
- 10. 1 逗子アートフェスティバル2015（11月30日まで）
- 10. 5 住民登録をしている市民全員にマイナンバーの通知を開始 1月以降マイナンバーカード交付へ
- 10. 18 第39回逗子市民まつり（会場：第一運動公園）
- 11. 1 第65回逗子市文化祭（11月8日まで）
- 11. 14 スポーツの祭典2015（会場：逗子アリーナ、第一運動公園）
- 11. 14 池子の森自然公園緑地エリアオープンデー 一日限定で開放
- 1. 10 第63回逗子市内一周駅伝競走大会
- 1. 11 二十歳を祝う成人の集い（参加者/対象数：385人/487人）
- 3. 19 池子の森自然公園緑地エリア開園（土日休日）





2016年度 (平成28年度)

4. 1 都市計画税の税率、0.3%から0.2%へ引き下げ
4. 1 旧保健センター跡地(桜山6丁目)に逗子なないろ保育園開所
4. 15 市制記念日表彰(地域社会功労2団体・4人、自治功労3人、技能功労者1人、優秀技能者4人)
4. 15 逗子市フェアトレードタウン宣言
4. 17 池子小学校区住民自治協議会設立
5. 25 チャレンジデー2016(対戦相手:沖縄県豊見城市)
6. 3 第59回逗子海岸花火大会
6. 11 ずし環境フェスティバル(6月11、12日)
6. 24 逗子海水浴場海開き式(8月28日まで)
7. 10 参議院議員選挙 当日有権者数50,895人、選挙区:投票者数31,019人、投票率60.95%
比例代表:投票者数31,018人、投票率60.95%
7. 15 津波避難訓練
7. 16 逗子市が全国で3番目のフェアトレードタウンに認定
8. 18 ずし平和デー(8月22日まで 会場:逗子文化プラザホール)
9. 1 市民の健康増進に取り組む「ウォーキングポイントラリー」開始
9. 23 小坪5丁目で崖崩れ、小坪海岸トンネル通行止めに
10. 1 路上喫煙等の防止に関する条例施行
10. 1 逗子市総合防災訓練
10. 4 総合的病院公募開始(11月8日まで) 選考の結果、医療法人社団葵会に決定し
2020年度開院を目指すことに
10. 8 逗子アートフェスティバル(11月6日まで、11月19日から27日まで)
10. 8 NIGHT WAVE ~光の波プロジェクト~ in ZUSHI(10月10日まで)
10. 12 第66回逗子市文化祭(11月6日まで)
10. 16 第40回逗子市民まつり(会場:第一運動公園)
10. 21 (株)スズキヤと大規模災害時における食料品等の供給に関する協定を締結
11. 1 神武寺トンネル拡幅工事着工(平成30年3月30日まで)
11. 12 スポーツの祭典2016(会場:逗子アリーナ、第一運動公園、池子の森自然公園)
12. 12 療育教育総合センターオープン こども発達支援センター、教育研究相談センター業務開始
12. 21 市庁舎ロビーに未病センター開設 市民の健康を見える化
1. 8 第64回逗子市内一周駅伝競走大会 神武寺トンネル工事でコース変更
1. 9 二十歳を祝う成人の集い(参加者/対象数:407人/499人)
2. 29 池子の森自然公園施設整備年次計画策定
3. 1 広報ずし3月号、昭和27年5月創刊の「逗子広報」から数えて900号に



2017年度（平成29年度）

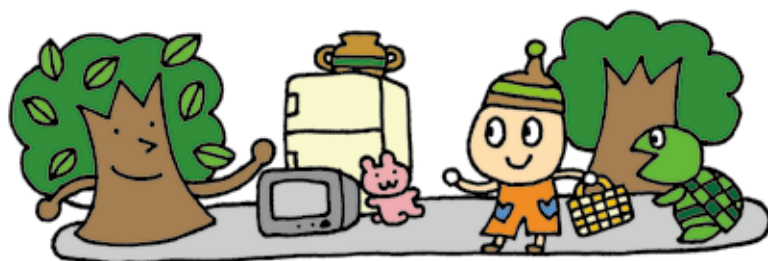
4. 1 証明書などの発行手数料を200円から300円に値上げ
4. 1 機構改革 こどもセクションの教育委員会への設置、新たな行政ニーズへの対応、組織のスリム化による効率的な行政運営を目指す
4. 1 池子の森自然公園緑地エリアビジターセンター、久木側出入口供用開始
4. 1 あにえるち保育室が家庭的保育事業として開所
4. 1 しらかば逗子乳児保育園（小規模保育事業）開所
4. 15 市制記念日表彰（地域社会功労1団体・2人）
4. 16 久木小学校区住民自治協議会設立
5. 26 第60回逗子海岸花火大会
5. 31 チャレンジデー2017（対戦相手：秋田県能代市）
6. 10 ずし環境フェスティバル（6月10、11日）
6. 27 逗子市緊急財政対策本部を設置、10月から財政対策プログラム実施（令和元年度まで）
6. 30 逗子海水浴場海開き式（9月3日まで） 海の家営業時間が午後6時半から午後8時まで延長
7. 22 津波避難訓練
8. 20 ずし平和デー（8月28日まで 会場：逗子文化プラザホール）
9. 30 逗子市総合防災訓練
10. 1 逗葉地域医療センターに逗葉地域住宅医療・介護連携相談室を開設
10. 7 逗子アートフェスティバル（11月26日まで）
10. 7 NIGHT WAVE ～光の波プロジェクト～ in ZUSHI（10月9日まで）
10. 15 第41回逗子市民まつり（会場：第一運動公園）
10. 21 第67回逗子市文化祭（11月6日まで）
10. 22 衆議院議員選挙 小選挙区・比例代表：当日有権者数50,923人、投票者数30,207人、投票率59.32%
11. 7 津波避難訓練（市内一斉）
11. 11 スポーツの祭典2017（会場：逗子アリーナ、第一運動公園、池子の森自然公園）
11. 28 医療法人社団葵会と病院の開設及び運営に関する覚書を締結
12. 1 まちの記憶を共有することを目的に、市ホームページ上に写真ギャラリー「逗子フォト」を開設
12. 18 (株)誠行社から消防ドローンを受贈
1. 8 二十歳を祝う成人の集い（参加者/対象数：390人/533人）
1. 14 第65回逗子市内一周駅伝競走大会
1. 15 横浜地裁横須賀支部、逗子ストーカー事件個人情報漏洩で市の過失を認定、110万円の賠償命令
2. 23 持田遺跡（桜山5丁目）出土の石製装身具及び玉作関係資料を市重要文化財に指定
3. 1 特定非営利活動法人湘南海上安全協会と「災害時における救助救援等の協力に関する覚書」を締結
3. 25 市議会議員選挙 当日有権者数50,261人、投票者数25,043人、投票率49.83%
3. 30 市道沼間5号神武寺トンネルの拡幅工事しゅん工、記念式典を開催し供用開始





2018年度（平成30年度）

- | | |
|--------|---|
| 4. 1 | 葉山町の可燃ごみ処理受託、市のし尿・浄化槽汚泥処理の葉山町委託を開始 |
| 4. 15 | 市制記念日表彰（地域社会功労 4 人、自治功労 1 人、特別功労 1 人） |
| 6. 1 | 第61回逗子海岸花火大会 |
| 6. 9 | ずし環境フェスティバル（6月9、10日） |
| 6. 29 | 逗子海水浴場海開き式（9月2日まで） |
| 7. 1 | 東京2020オリンピック セーリング・スペイン代表の
事前キャンプ地に逗子市が決定 |
| 7. 21 | 津波避難訓練 |
| 8. 2 | 県が医療法人社団葵会に総合的病院の開設を許可 |
| 8. 3 | ずし平和デー（8月18日、23日～27日 会場：逗子文化プラザホール・市民交流センター） |
| 8. 27 | 市シティプロモーションサイトリニューアルオープン |
| 9. 18 | 市、スペイン王立セーリング連盟、(株)リビエラの3者で東京五輪事前キャンプに関する協定締結 |
| 10. 12 | 逗子アートフェスティバル（10月28日まで） |
| 10. 12 | 石原良純さん、三浦豪太さん、山田姉妹（山田華さん、山田麗さん）を市広報大使に任命 |
| 10. 13 | NIGHT WAVE ～光の波プロジェクト～ in ZUSHI |
| 10. 21 | 第42回逗子市民まつり＆スポーツの祭典（会場：第一運動公園、逗子アリーナ） |
| 10. 26 | 第68回逗子市文化祭（11月12日まで） |
| 11. 6 | 津波避難訓練（市内一斉） |
| 11. 14 | 日米合同委員会で、米海軍池子住宅地区逗子市域に生活支援施設、運動施設、消防署等を
整備することが合意 |
| 12. 8 | ふれあいフェスinずし（会場：市民交流センター、逗子小学校） |
| 12. 16 | 市長選挙 桐ヶ谷覚初当選 当日有権者数50,152人、投票者数23,800人、投票率47.46% |
| 1. 13 | 第66回逗子市内一周駅伝競走大会 |
| 1. 14 | 二十歳を祝う成人の集い（参加者/対象数：399人/539人） |
| 3. 21 | JR横須賀線山の根踏切で人身事故 |



2019年度（平成31・令和元年度）

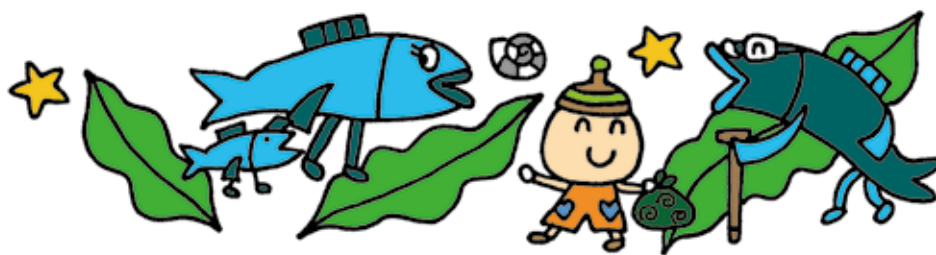
- 4. 1 広報ずしをリニューアル 書体や文字組みを変更、よみやすさに配慮したデザインに刷新
- 4. 1 第2にあえるち保育園（小規模保育事業）開所
- 4. 1 逗子幼稚園が認定こども園（幼稚園型）へ移行
- 4. 7 神奈川県知事・神奈川県議会議員選挙 当日有権者数50,016人、投票者数14,735人、投票率29.46% 県議選は無投票
- 4. 15 市制記念日表彰（地域社会功労2人、特別功労2人）
- 4. 25 平成31年度全国広報コンクール広報企画部門において「逗子フォト」の取り組みが入選
- 4. 25 空き家バンクを開設
- 5. 1 元号が平成から令和に
- 5. 11 亀岡八幡宮社殿が改築100年、節目を祝う神輿や囃子演奏
- 5. 21 新宿5丁目の市道及び道の駅「逗子海岸ロードオアシス」裏で土砂崩れ発生
- 6. 1 ずし環境フェスティバル（6月9日まで）
- 6. 28 逗子海水浴場海開き式（9月1日まで）
- 7. 1 市の全ての施設で施設内・敷地内禁煙に
- 7. 20 津波避難訓練
- 7. 21 参議院議員選挙 当日有権者数50,599人、選挙区・比例代表：投票者数27,348人、投票率54.05%
- 8. 12 スペインセーリングチームと市民の交流会（逗子アリーナ）
- 8. 22 ずし平和デー（8月26日まで 会場：逗子文化プラザホール・市民交流センター）
- 9. 8 台風15号 倒木による停電や断水、崖崩れが発生 小坪隧道が通行止
- 9. 22 Zushi Beach Candle 2019 NIGHT WAVE
- 9. 27 第62回逗子市海岸花火大会 資金難乗り越え、例年より4か月遅れで開催
- 10. 1 小児医療費助成事業の対象年齢を中学校3年生まで拡大
- 10. 1 有志の寄贈により図書返却用ブックポストが市庁舎前に復活
- 10. 5 逗子市総合防災訓練
- 10. 12 台風19号 高潮で国道134号線が一時通行止め 避難者多数
- 10. 14 ごかんのいえ（小規模保育事業）が新宿4丁目に移転
- 10. 18 逗子アートフェスティバル2019（10月27日まで）
- 10. 20 第43回逗子市民まつり＆スポーツの祭典（会場：第一運動公園、逗子アリーナ）
- 10. 25 起業促進及び企業誘致を目指す「platform ZUSHI BIZ」設置（令和6年7月31日終了）
- 10. 25 第69回逗子市文化祭（11月11日まで）
- 11. 5 津波避難訓練（市内一斉）
- 11. 22 鎌倉の世界遺産登録に係る神奈川県・横浜市・鎌倉市・逗子市による推薦書案作成に関する活動の一時休止を発表
- 12. 7 ふれあいフェスinずし2019（会場：逗子アリーナ）
- 1. 12 第67回逗子市内一周駅伝競走大会
- 1. 13 二十歳を祝う成人の集い（参加者/対象数：378人/535人）
- 2. 3 新型コロナウイルス感染拡大を受け市立小中学校が休校（2月3日～25日）市民交流センターなど40施設を臨時休館
- 2. 5 池子2丁目マンション敷地内斜面が崩落、通行中の女性が巻き込まれる
- 3. 14 創立120周年の京急、6駅名を変更 新逗子駅は逗子・葉山駅に
- 3. 31 蘆花記念公園内の郷土資料館が閉館



2020年度（令和2年度）

4. 1 葉山町の容器包装プラスチック処理受託開始
4. 1 パートナーシップ宣誓制度を開始
4. 1 福祉に関する総合相談窓口を開設（社会福祉課地域共生係基幹型地域包括支援センター）
4. 7 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、緊急事態宣言が発出（5月25日解除）
市立小中学校を4月8日から5月6日まで臨時休業
4. 15 市制記念日表彰（地域社会功労1団体・5人、自治功労4人）
4. 24 小坪4丁目の海浜地で土砂崩れ、散歩中の男性が巻き添え
5. 1 新型コロナウイルス感染症対策担当窓口を設置
5. 8 国の緊急事態宣言延長（5月4日発表）を受け、市立小中学校の一斉臨時休業を5月31日まで延長
市主催のイベント等原則延期または中止、公共施設の多くを閉鎖
5. 27 新型コロナウイルス感染症に係る逗子市の取組方針策定
6. 1 新型コロナウイルスの影響により逗子市、鎌倉市、葉山町、三浦市が海水浴場の開設断念を発表
7. 1 戸田建設㈱と連携し、逗子会館でワーケーション実証実験開始（令和3年6月30日まで）
7. 1 7月1日を「逗子市分離独立記念日」に制定
7. 1 戸田建設㈱と連携し、逗子会館でワーケーション実証実験開始（令和6年3月31日まで）
7. 15 医療法人社団葵会との間で、総合的病院誘致計画断念の合意書を締結
7. 19 道の駅「逗子海岸ロードオアシス」裏で再度土砂崩れ発生（令和元年5月崩落地点の隣接地）
10. 9 逗子アートフェスティバル2020 オンラインを活用して開催（10月25日まで）
10. 18 スポーツの祭典2020（会場：特設ホームページ（オンライン）、池子の森自然公園）
10. 24 逗子町独立70周年記念イベント
11. 10 逗子応援プレミアム付き商品券販売（プレミアム率30%）
11. 27 逗子市と民間6機関における「水難救助の協力に関する協定」を締結
1. 8 国、2度目の緊急事態宣言発出（3月21日まで）
1. 11 二十歳を祝う成人の集い（参加者/対象数：346人/528人）
3. 1 横浜市教育委員会と「図書館の相互利用に関する協定」を締結
2021年度（令和3年度）から利用可能に
3. 11 崖地安全対策のため、一般社団法人地盤品質判定士会と防災協定締結





2021年度（令和3年度）

- 4. 1 行政手続の押印見直しで約760の様式の押印を廃止
- 4. 1 かぐのみ保育園（小規模保育事業）開所
- 4. 15 市制記念日表彰（地域社会功労1団体・3人）
- 5. 1 新型コロナウイルスワクチン接種開始（場所：市民交流センター）
- 6. 13 ずし環境フェスティバル
- 7. 3 大雨の影響により、沼間5丁目、逗子インターチェンジ付近の高速道路用地内で土砂崩落
- 7. 3 静岡県熱海市土石流災害発生 緊急消防援助隊（7/6～12）を被災地へ派遣
- 7. 16 逗子海水浴場海開き式（9月5日まで） 海の家全店キャッシュレス決済導入
- 7. 17 津波避難訓練
- 7. 25 東京2020オリンピックセーリング競技（逗子沖、8月4日まで）
- 8. 2 新型コロナウイルス緊急事態宣言発出により逗子海水浴場、解除まで休場
- 8. 16 子ども議会初開催（令和2年度は新型コロナで中止） 9名の中学生が質疑
- 8. 20 JR横須賀線山の根踏切廃止
- 9. 21 池子神明社の神輿を市重要文化財に指定
- 10. 1 「いじめ防止基本方針」策定
- 10. 1 逗子応援プレミアム付き電子商品券抽選販売（プレミアム率アプリ30%、カード25%）
- 10. 15 逗子アートフェスティバル2021（11月14日まで、12月3日から5日まで）
- 10. 31 衆議院議員選挙 当日有権者数50,710人、小選挙区：投票者数32,791人、投票率64.66% 比例代表：投票者数32,785人、投票率64.65%
- 11. 2 津波避難訓練（市内一斉）
- 12. 12 スポーツの祭典2021（会場：逗子アリーナ、第一運動公園）
- 1. 9 第69回逗子市内一周駅伝競走大会（2年振り開催）
- 1. 10 二十歳を祝う成人の集い（参加者/対象数：349人/516人）
- 1. 17 渡邊利三さんからの寄附10億1,000万円を原資として、一般財団法人逗子市渡邊利三奨学金財団設立
- 1. 31 「チャレンジ！逗子カーボンニュートラル2050」を宣言、2050年までに温室効果ガス排出実質ゼロへ
- 3. 27 市議会議員選挙 当日有権者数50,049人、投票者数26,213人、投票率52.37%
- 3. 30 逗子独立奉賛会（当時会長山口茂さん）、分離独立運動の沿革を記した銘板を市に寄贈



2022年度（令和4年度）

4. 1 東逗子駅開業70周年
4. 6 池子の森自然公園緑地エリア平日（水曜日）開園開始
4. 15 市制記念日表彰（地域社会功労2団体・8人、特別功労1人、自治功労3人）
4. 27 逗子海水浴場、ブルーフラッグビーチ認証（日本で6番目）
リビエラ逗子マリーナ、ブルーフラッグマリーナ認証（アジア初）
5. 25 逗子小学校創立150周年
6. 11 ずしグリーンライフフェス（ずし環境フェスティバルから名称変更 6月11、12日）
7. 1 逗子海水浴場海開き式（9月4日まで）
7. 10 参議院議員選挙 当日有権者数50,582人、選挙区：投票者数30,348人、投票率60.00% 比例代表：投票者数30,345人、投票率59.99%
7. 23 津波避難訓練
8. 1 子ども議会 中学生議員6名が質疑
8. 11 ずし平和デー（8月18日～22日まで 会場：逗子文化プラザホール）
9. 21 市内中学校でボックスランチから食缶方式の温かい給食提供開始
10. 1 逗子市男女平等参画及び多様性を尊重する社会を推進する条例を施行
10. 8 逗子アートフェスティバル2022（11月25日まで）
10. 16 スポーツの祭典2022（会場：逗子アリーナ、第一運動公園）
10. 19 ㈱リビエラリゾートと災害時における支援協力に関する包括協定を締結
10. 22 NIGHT WAVE ～光の波プロジェクト～ in ZUSHI（10月22日・23日）
10. 22 第70回逗子市文化祭（11月6日まで）
10. 22 逗子市防災訓練（池子小学校地区）
10. 29 逗子市防災訓練（沼間小学校地区）
11. 5 逗子市防災訓練（小坪小学校地区）
11. 6 第44回逗子市民まつり、3年振り開催
（会場：池子の森自然公園400mトラック）
11. 7 津波避難訓練（市内一斉）
11. 22 水難救助用水上オートバイの運用を開始
11. 26 逗子市防災訓練（久木小学校地区）
12. 3 ふれあいフェスinずし2022（会場：逗子アリーナ）
12. 10 逗子市防災訓練（逗子小学校地区）
12. 11 市長選挙 桐ヶ谷覚再選。当日有権者数49,842人、投票者数25,453人、投票率51.07%
12. 14 日米合同委員会で逗葉地域医療センターと保健センター進入路の返還を合意
1. 8 第70回逗子市内一周駅伝競走大会
1. 9 二十歳を祝うずしの集い（参加者/対象数：386人/503人）
1. 29 新型コロナウイルスワクチン集団接種会場終了
2. 13 電気自動車（EV）を導入、「公用車を活用したEVカーシェア」を開始
3. 1 住民票の写し・印鑑登録証明書・戸籍の附票の写し・戸籍証明書のコンビニ交付開始
3. 5 消防・防災フェア2023in逗子を開催
3. 8 小坪漁港が水産庁の「海業振興モデル地区」に選定
3. 30 市公式ホームページ全面リニューアル アクセシビリティ等に配慮



2023年度（令和5年度）

- 4. 1 総合計画基本構想改定、中期実施計画（2023～2029）策定
- 4. 1 逗子高等学校と逗葉高等学校を再編・統合し、県立逗子葉山高等学校が開校
- 4. 1 4月診療分から小児医療費助成制度を拡充、18歳まで無償化
- 4. 1 一般財団法人逗子市渡邊利三奨学金財団が公益認定を受け、公益財団法人へ移行
- 4. 3 空き家ワンストップ相談窓口を開設
- 4. 9 神奈川県知事・神奈川県議会議員選挙 当日有権者数49,847人、投票者数16,073人、投票率32.24% 県議選は無投票
- 4. 15 市制記念日表彰（地域社会功労4人・1団体、特別功労2人）
- 4. 18 逗子開成中学校・高等学校創立120周年記念式典
- 5. 20 逗子フェアトレードタウンフォーラム2023（会場：逗子文化プラザホール、市民交流センター）
- 5. 26 第66回逗子海岸花火大会 4年振り開催
- 6. 1 市民税・県民税 課税・非課税証明書のコンビニ交付開始
- 6. 10 ずしグリーンライフフェス（6月10、11日）
- 6. 30 逗子海水浴場海開き式（9月3日まで）
- 7. 10 沼間愛児園建替、新園舎にて保育開始
- 7. 22 津波避難訓練
- 8. 8 小坪2丁目県有地の活用に向けた検討を開始
- 8. 9 学生議会 中学生3名が学生議員として質疑
- 8. 17 ずし平和デー（8月21日まで 会場：逗子文化プラザホール）
- 9. 1 ㈱誠行社から2機目となる消防ドローンを受贈
- 10. 7 逗子アートフェスティバル2023（10月29日まで）
- 10. 7 NIGHT WAVE ～光の波プロジェクト～ in ZUSHI（10月7日・8日）
- 10. 7 逗子市防災訓練（小坪小学校地区）
- 10. 14 逗子市防災訓練（池子小学校地区）
- 10. 15 スポーツの祭典2023（会場：逗子アリーナ、第一運動公園）
- 10. 22 第45回逗子市民まつり（会場：池子の森自然公園400mトラック）
- 10. 22 第71回逗子市文化祭（11月5日まで）
- 10. 23 空き家や古民家、歴史的建造物の利活用推進を目的に、一般社団法人全国古民家再生協会と「空き家等対策推進協定」を締結
- 10. 28 逗子市防災訓練（沼間小学校地区）
- 11. 11 逗子市防災訓練（逗子小学校地区）
- 11. 26 逗子市防災訓練（久木小学校地区）
- 12. 9 ふれあいフェスinずし2023（会場：逗子アリーナ）
- 1. 1 能登半島地震発生
緊急消防援助隊（1/9-26）、応援職員（1/19-3/28、次年度6-9月）を被災地に派遣
- 1. 8 二十歳を祝うずしの集い（参加者/対象数：355人/476人）
- 1. 14 第71回逗子市内一周駅伝競走大会 選手の安全性の向上と交通渋滞緩和を目的にコース変更
- 1. 24 延命寺の仏涅槃図を市重要文化財に指定
- 3. 3 消防・防災フェア2024in逗子
- 3. 6 ㈱スズキヤ、逗子市社会福祉協議会、逗子警察と地域見守り活動に関する協定を締結
- 3. 19 高機能消防指令システム整備事業が完了



2024年度（令和6年度）

4. 1 沼間小学校区放課後児童クラブの新築移転、開所
4. 15 市制記念日 市制施行70周年
4. 20 長柄桜山古墳群第1号墳オープニングセレモニー
4. 21 市制70周年記念式典（会場：文化プラザなぎさホール）、市制記念日表彰（地域社会功劳5人・2団体、自治功劳1人）
4. 22 ミーズ設計連合協同組合と「逗子市の公共施設整備等に関する協定」を締結
5. 17 三浦半島ブルーカーボン推進会議を設置 4市1町で結束して取り組みを加速
5. 18 逗子フェアトレードタウン・フォーラム2024 ～気候危機とフェアトレード～（市民交流センター）
5. 25 小坪小学校創立150周年
5. 30 第67回逗子海岸花火大会
6. 22 ずしグリーンライフフェス（6月22、23日）
6. 28 逗子海水浴場海開き式（9月1日まで）
7. 4 津波避難訓練
8. 6 学生議会 中学生5名が学生議員として質疑
8. 15 2024ずし平和デー（8月19日まで 会場：逗子文化プラザホール）
10. 1 防災行政無線試験放送のチャイムを逗子市歌に
10. 1 市庁舎に税公金セルフ収納機を設置、入出金機オンラインシステム導入
10. 5 逗子アートフェスティバル2024（10月27日まで）
10. 10 東京ガス㈱とカーボンニュートラルのまちづくりに向けた包括連携協定を締結
10. 20 第46回逗子市民まつり（会場：池子の森自然公園400mトラック）
10. 20 スポーツの祭典2024（会場：逗子アリーナ、第一運動公園）
10. 20 小坪洞窟砲台爆発事故の遺族会が現地付近に新たな慰霊碑を建立
10. 20 逗子市防災訓練（池子小学校地区）
10. 23 神武寺の木造十一面観音菩薩坐像を市重要文化財に指定
10. 25 第72回逗子市文化祭（11月10日まで）
10. 26 逗子市防災訓練（沼間小学校地区）
10. 27 衆議院議員選挙 当日有権者数49,680人、小選挙区：投票者数29,730人、投票率59.84%
比例代表：投票者数29,733人、投票率59.85%
11. 2 NIGHT WAVE ～光の波プロジェクト～ in ZUSHI（11月2日荒天中止・3日）
11. 3 詩人高橋睦郎さん文化勲章を受章
11. 5 津波避難訓練（市内一斉）
11. 9 逗子市防災訓練（逗子小学校地区）
11. 17 逗子市防災訓練（久木小学校地区）
12. 1 11月30日付けで米側から国に返還された逗葉地域医療センター・逗子市保健センター進入路を国が市に譲与
12. 7 ふれあいフェスinずし2024（会場：逗子アリーナ）
12. 8 逗子市防災訓練（小坪小学校地区）
12. 16 市制70周年記念オリジナルナンバープレート交付開始
12. 24 防災対策など新たな連携の枠組構築に向け、三浦半島4市1町首長連携会議（通称：ファミリーミーティング）スタート
1. 12 第72回逗子市内一周駅伝競走大会（スポーツ都市宣言40周年＆市制70周年記念）
1. 13 二十歳を祝うずしの集い（参加者/対象数：430人/501人）
1. 11 市制70周年記念・令和7年逗子市消防出初式
2. 2 高橋睦郎さんへ市民栄誉賞を贈呈、文化勲章受章記念講演会開催
3. 2 消防・防災フェア2025in逗子



逗子市歌

中位の速さで威厳をもって

加藤省吾 作詩
八洲秀章 作曲



1 た い ょ う の か が や く と こ ろ あ お い う
2 ひ ろ ま な か も し り と な き て ん ん む じ
3 ゆ る る ん ぎ な れ こ を つ く る た ご え り
4 も ろ び と が こ を あ わ せ か ぎ な

み し う ら い う と う み ど り ゆ だ か は く
の ば ん し ゃ ひ ひ さ さ り つ じ い ろ
わ か わ ら ぬ な が あ ふ じ の ね そ び
き ぶ ん か の の り め り

さ の な ん さ こ こ に あ り の び ゆ く ず し よ
と り と り つ は き な ひ く の あ み か き し し よ
い は ひ な は ば ず さ か き ず し し よ
ゆ は な た た は ば ず さ か き ず し し よ

逗子市歌

加藤省吾 作詩
八洲秀章 作曲

- 一 太陽の輝くところ
青い海 松籟歌う
みどり豊か 白砂の渚
ここにあり のびゆく逗子よ
- 二 披露山に 百鳥鳴きて
神武寺の晩鐘ひびき
桜つつし 色とりどりに
花ひらく 明るき逗子よ
- 三 ゆるぎなき 歴史をつくる
田越川 変わらぬ流れ
朝に夕に 願いはひとつ
築きゆく 住み良き逗子よ
- 四 諸人が 心をあわせ
限りなき 文化の稔り
富士の嶺の そびゆる彼方
はばたくは 栄ゆる逗子よ



市ホームページでも
聞くことができます。





逗子市市制70周年記念誌

発行日 2025年(令和7年)3月31日

発行 逗子市

〒249-8686 神奈川県逗子市逗子5丁目2番16号

(046) 873-1111 (大代表)

印刷 文明堂印刷株式会社